2009年度

講　義　計　画

桃山学院大学

講　義　計　画

科目名　クラス　講義区分	
図書及び図書館の歴史　＜秋＞	
垣　口　弥生子	2単位

【講義概要】
本講義では、多様な形態をとる図書の歴史を世界史的規模で概観し、それを収集・整理・保存してきた図書館の歴史を考察する。そうして、とりわけ図書館が多数の市民に開放されていく近代図書館の発達過程を思想的、制度的に検証する。

【学習目標】
人類の文明の遺産というべき文字の発明に始まる図書の歴史、それを収集・整理・保存してきた図書館の歴史について知り、これからの図書館像について思いめぐらすこと。

【講義計画】
第1回　オリエンテーション
第2回　比較文明の視座
第3回　文字、そして記録の誕生
第4回　パピルス、羊皮紙その他の書写材料
第5回　古代の書物と図書館
第6回　紙の発明と伝播
第7回　中世の書物と図書館
第8回　印刷術の発明
第9回　印刷術の東西比較
第10回　近世の書物と図書館(1)フランスの場合
第11回　近世の書物と図書館(2)イギリスの場合
第12回　近代公共図書館の誕生と発展(1)アメリカ
第13回　近代公共図書館の誕生と発展(2)アメリカ
第14回　いま、図書館の可能性とは
第15回　試験

【成績評価の方法】
レポートの提出と期末試験（筆記）の成績で評価する。出席状況も加味。

【教科書】
プリント教材を配布。

【参考文献】
＊参考文献は授業の内容の補足として各自で読んでおくこと。
1.『図書館の話』森耕一著　至誠堂
2.『粘土に書かれた歴史』E．キエラ著　板倉勝正訳　岩波新書
4.『書物の出現』リュシアン・フェーブル，アンリ＝ジャン・マルタン共著　宮下志朗ほか訳　筑摩書房
5.『イギリス近代出版の諸相』清水一嘉著　世界思想社
6.『図書館の歴史　アメリカ編』増訂版　川崎良孝著　日本図書館協会

科目名　クラス　講義区分	
図書館概論　＜春＞	
山　本　順　一	2単位

【講義概要】
デジタル・ネットワーク社会における図書館の機能と役割、種々様々な情報や知識の生産、流通、蓄積、加工、再生産という情報知識のサイクル、および必要とされる情報知識の探索・評価の技法を対象とする‘図書館情報学’のアウトラインを講義する。具体的な歴史や事実、統計などを素材として、できるだけわかりやすく説明したい。

【学習目標】
司書課程に設置されている諸科目の総論的科目なので、‘図書館情報学’全体のイメージをもっていただくことが学習の目標となる。

【講義計画】
第1回　はじめに：　なぜ‘図書館情報学’？
第2回　図書館の歴史と図書館情報学(1)：　古代、中世の図書館を素材に
第3回　図書館の歴史と図書館情報学(2)：　活版印刷術と図書館の変貌
第4回　近代公共図書館の理念
第5回　図書館ネットワーク’思想の発達
第6回　図書館の種類（館種）
第7回　図書館が取扱う情報と資料
第8回　図書館サービス(1)：パブリック・サービス
第9回　図書館サービス(2)：テクニカル・サービス
第10回　図書館の物理的環境
第11回　図書館情報専門職
第12回　図書館情報リテラシー
第13回　図書館の管理運営
第14回　図書館と‘著作権’
第15回　テスト

【成績評価の方法】
試験　70%　レポート　15%　出席　15%

【教科書】
藤野幸雄ほか 図書館情報学入門 有斐閣

【備考】
＜02～07生＞は読替一覧参照の事。

た行

科目名　クラス　講義区分	
図書館経営論　＜秋＞	
山　本　順　一	２単位

【講義概要】
社会全体にコスト意識が高まるなかで、官民を問わず効率的組織運営が求められている。粗利益で業績が図れない行政活動や公共的サービスについても、公共経営論が花盛りの状況にある。図書館についてもまた、経営論がかまびすしく、司書資格取得のための必修科目となっている。この講義では、図書館の財政、組織管理、人事管理、情報管理などとともに、図書館経営の法的基盤についても検討することにしたい。

【学習目標】
国際的な視野をもちつつ、日本の図書館の経営の在り方についての認識を深めることがこの科目の学習目標である。

【講義計画】
第１回　図書館を支える法制度Ⅰ
第２回　図書館を支える法制度Ⅱ
第３回　図書館財政Ⅰ
第４回　図書館財政Ⅱ（アドヴォカシーを含む）
第５回　図書館の人事管理
第６回　図書館の環境整備
第７回　図書館マーケティング
第８回　図書館業務の委託、指定管理者制度等
第９回　図書館とコミュニティⅠ
第10回　図書館とコミュニティⅡ
第11回　図書館サービスの評価Ⅰ
第12回　図書館サービスの評価Ⅱ
第13回　図書館と訴訟Ⅰ
第14回　図書館と訴訟Ⅱ
第15回　むすび

【成績評価の方法】
試験　70%　レポート　15%　出席　15%
出席率、授業中の質問や意見表明などの参加態度（加点要素）を勘案しつつ、学期末のペーパーテストにより、総合評価を行う。

【教科書】
追って知らせることにしたい。

【参考文献】
・日本図書館情報学会研究委員会編『図書館の経営評価』勉誠出版, 2003.

科目名　クラス　講義区分	
図書館サービス論　＜春＞	
山　本　順　一	２単位

【講義概要】
デジタル・ネットワーク時代の‘ハイブリッド・ライブラリー’と呼ばれる図書館と図書館サービスについて一緒に考えることにしたい。伝統的な紙媒体資料を主体とする図書館の図書館サービスは、資料選択、分類・目録などのテクニカル・サービスを基礎として、閲覧（視聴を含む）、貸出、レファレンスサービスや図書館イベント、PRなどのパブリック・サービスを展開してきた。現在では、資料提供というよりもインターネット情報資源をも対象とする‘情報へのアクセス’の提供を図書館サービスの中核としている。サイバースペースにおける‘図書館ポータル’の構築が急務となっている。

【学習目標】
世界の図書館とその図書館サービスを射程におさめている、この講義を通じて‘新たな図書館サービス’のイメージを獲得してほしい。

【講義計画】
第１回　はじめに
第２回　図書館の役割と目的
第３回　地域社会と図書館
第４回　図書館と法制度
第５回　図書館と財政
第６回　‘図書館利用者’概念の検討
第７回　各利用者層に対する図書館サービス
第８回　図書館ネットワーク
第９回　図書館の環境整備
第10回　資料コレクションの構築
第11回　図書館とデジタル・コンテンツ
第12回　図書館サービスを支える人的資源
第13回　図書館と情報ポリシー
第14回　図書館の管理運営とマーケティング
第15回　むすび

【成績評価の方法】
試験　70%　レポート　15%　出席　15%
出席率、授業中の質問や意見表明などの参加態度（加点要素）を勘案しつつ、学期末のペーパーテストにより、総合評価を行う。

【教科書】
国際図書館連盟公共図書館分科会ワーキング・グループ編　理想の公共図書館サービスのために 日本図書館協会

【参考文献】
授業中、適宜、紹介することにしたい。

科目名　クラス　講義区分	
図書館資料論　＜秋＞	
山　本　順　一	２単位

【講義概要】
現代の図書館は、館種を問わず、図書や雑誌などの伝統的な紙媒体資料にとどまらず、デジタル・コンテンツへのアクセスも提供している。限られたスペースと各種資源をターゲットとする利用者層の情報ニーズに適合させるべく、情報資料を選択し、インターネット情報資源をも組織化しようとしている。そのとき、アナログからデジタルに及ぶ各種の情報資料の特性や流通を十分に理解しておかなければならない。

【学習目標】
図書館利用者として、みずから求める情報を正確、迅速に取得するために必要不可欠の情報資料知識を獲得することが学習目標である。

【講義計画】
第１回　はじめに：情報、知識、資料、デジタル・コンテンツ
第２回　情報資料の種類と特質Ⅰ
第３回　情報資料の種類と特質Ⅱ
第４回　情報メディアの歴史
第５回　出版・流通
第６回　蔵書構成Ⅰ
第７回　蔵書構成Ⅱ
第８回　１次資料（情報）、２次資料（情報）
第９回　学術情報Ⅰ
第10回　学術情報Ⅱ
第11回　図書館ポータル、機関レポジトリ
第12回　政府情報、行政資料
第13回　情報公開制度と図書館
第14回　情報資料の観点からの図書館イメージの変動
第15回　むすび

【成績評価の方法】
試験　70%　レポート　15%　出席　15%
出席率、授業中の質問や意見表明などの参加態度を勘案しつつ、学期末にペーパーテストを行い、総合的に評価する。

【教科書】
志保田務ほか 資料・メディア総論　第２版 学芸図書

【参考文献】
講義の中で、適宜、紹介する。

科目名　クラス　講義区分	
図書館特論　＜秋＞	
山　本　順　一	２単位

【講義概要】
図書館情報学の基礎を確認しつつ、主として図書館利用教育ないし情報リテラシー教育について考えるのがこの科目の目的である。公共図書館、大学図書館、学校図書館の現場で働かれている実務家の方をゲスト講師に招き、現在の図書館実務の動向を理解してもらおうとするインテグレーション科目として編成する。

【学習目標】
図書館の利用の仕方についての理論と実践を学ぶことが内容なので、冊子体とインターネット情報資源の探索の仕方を身につけることが学習の目標である。

【講義計画】
第１回　現代社会における図書館の役割と機能
第２回　図書館情報リテラシーの検討
第３回　大学図書館の現代的意義
第４回　大学における図書館利用教育Ⅰ
第５回　大学における図書館利用教育Ⅱ
第６回　大学教育と情報発信
第７回　小学校における図書館利用教育
第８回　中学校における図書館利用教育
第９回　高等学校における図書館利用教育
第10回　公共図書館における利用者教育
第11回　図書館利用から情報活用へⅠ
第12回　図書館利用から情報活用へⅡ
第13回　図書館利用から情報活用へⅢ
第14回　外国人利用者に対する図書館利用案内
第15回　むすび

【成績評価の方法】
試験　70%　レポート　15%　出席　15%
出席率、受講態度を参酌しつつ、レポート、および学期末の試験により総合評価を行う。

【教科書】
特に指定はしない。プリントその他による。

【参考文献】
講師によりその都度紹介される。

【備考】
インテグレーション科目

た行

科目名　クラス　講義区分	
日中ビジネス論　＜秋＞	
上　野　勝　男	２単位

【講義概要】

この講義は、日本を代表する金融機関である三菱東京UFJ銀行からの講師派遣によるインテグレーション講座です。「金融機関からみる日中ビジネス」をテーマとし、日本と中国それぞれのビジネス事情について、金融業界との関連も含めて解説していただきます。

講義は、大きく以下の内容からなっています。(１)銀行・証券・クレジットなどの金融関連業務、およびそれらのくらしとの関わりについて。(２)日本と中国それぞれの経済状況と両国間の経済関係、および中国ビジネスの実際について。(３)企業と公共部門のマネジメントについて。

本講義の講師陣は、金融あるいは中国ビジネスに活発に関わっている現役実務家の方々です。実務家の視点から生きた経済を語っていただくことにより、中国の経済やビジネスに関心のある学生はもちろん、広く金融業界に関心のある学生にも興味が持てる内容となるでしょう。

【講義計画】

第１回　下記は2008年度秋学期の授業内容です。
2009年度もほぼ同じ内容を予定していますが、講師の都合により変更もあります。秋学期開始前に、あらためて日程とテーマを提示しますので確認してください。
就職するならこんな会社
～堺の地場企業～／～企業人としての心構え～
第２回　中国ビジネスの実務
第３回　日本経済と中国経済
第４回　公共経営（パブリックマネジメント）
第５回　外食経営
第６回　中国の現状１）～もしもあなたが中国に駐在したら～
第７回　中国の現状２）～もしもあなたが中国に駐在したら～
第８回　ライフステージと金融機関の関わり
第９回　ビジョン志向経営の事例研究
第10回　ビジネス発想法入門
第11回　証券業務の現状
第12回　外国為替取引について
第13回　リースファイナンスの現状
第14回　激動する金融界の現状
第15回　講義のまとめ

【成績評価の方法】

(１)レポート：50%
(２)試験：50%

【備考】

授業中に私語をするなど、聴講の態度が悪いと判断される場合は、ただちに退室を命ずる。

悪質な場合、その場で「不合格」を宣告をすることがありますので、くれぐれも注意してください。

インテグレーション科目
＜02～05生＞は読替一覧参照の事。

科目名　クラス　講義区分	
日中関係論　＜秋＞	
副　島　昭　一	２単位

【講義概要】

19世紀末から20世紀前半は基本的に不平等で不正常かつ戦争の時代といえる。20世紀後半は世界的規模での冷戦に日中関係も大きく規定された。国交が不正常な状態にあった時期から正常化されて以降も，戦争時代の種々の問題が未解決であった。ある意味では現在でも未解決の部分があるといえる。

授業では近代以降の日中関係の基本的な流れを時期ごとに整理していく。

【学習目標】

これからの日本を考えるとき，日中関係は非常に重要な意味を持っているが，必ずしも相互の理解が十分とはいえない状況がある。日中関係の現在を知るには過去からの流れの中で位置づける必要がある。過去の歴史の問題も決して過ぎ去った問題ではなく，歴史の問題が現在の大きな問題になることがしばしば見られる。

このような日中関係の中で，一時的表面的なことがらだけで判断すると，思わぬ相互認識のずれや誤解が生じることがある。

この講義では20世紀前半から現在までの日中関係を学び，現在および将来にわたる日中関係の基本的理解を得ることを目標にする。

【講義計画】

第１回　日本の近代と中国
第２回　日清戦争と下関条約
第３回　日露戦争と中国東北
第４回　辛亥革命・孫文と日本
第５回　国民革命の進展と日本
第６回　日中戦争の原因と経過１
第７回　日中戦争の原因と経過２
第８回　中国の国民国家形成
第９回　中華人民共和国成立から国交は正常化まで
第10回　改革開放期の日中関係，日中経済関係の深まりと政治的軋轢
第11回　賠償，戦争責任などの問題　１
第12回　賠償，戦争責任などの問題　２
第13回　日中関係と国民感情
第14回　アジアの中の日中関係
第15回　期末テスト

【成績評価の方法】

試験　60%　レポート　20%　出席　20%
受講生数によっては毎回の出席確認はしないので，上記の数字は変動することもある。授業の最初にコメント用紙を配布して，最後に回収する。したがって遅刻者はコメント用紙を提出できない場合もある。
また名簿をもとに授業中に質問をし，その答え方を評価することもある。

【教科書】

池田・安井・副島・西村編 図説中国近現代史 法律文化社

科目名　クラス　講義区分	
日中ビジネス実務　＜秋＞	
伊　藤　彰　一	２単位

【講義概要】
中国でビジネスを行うにあたっての基本的な事項についての講義を行う。中国の特殊性について理解を深め、中国勤務を想定して基本事項を習得する。日本のビジネスマンが世界の市民として中国のみならず海外で果たすべき役割について理解する。

【学習目標】
ビジネスにおける中国担当者としての基礎的な能力を身に付ける事を学習目標とする。

【講義計画】
第１回　中国のビジネス環境１
第２回　中国のビジネス環境２
第３回　中国のビジネス環境３
第４回　日系企業の中国での活動１
第５回　日系企業の中国での活動２
第６回　中国の特殊性１
第７回　中国の特殊性２
第８回　日本と中国の関係１
第９回　日本と中国の関係２
第10回　中国における会社設立１
第11回　中国における会社設立２
第12回　ビジネスリスク１
第13回　ビジネスリスク２
第14回　円と元

【成績評価の方法】
レポート　30%　出席　70%

【教科書】
必要に応じて印刷物を配布する。

【参考文献】
講義の進捗状況に応じて適宜参考文献を紹介します。

科目名　クラス　講義区分	
日本近代史　＜秋集＞	
佐　賀　　朝	４単位

【講義概要】
本講義では、「巨大都市大阪から見る日本近代の歴史」というテーマのもと、まず前半では、明治期の特徴的な都市内地域を取り上げ、これを素材としながら、明治維新や自由民権、帝国憲法と地方自治制、日清・日露戦争と産業革命などについて見ていく。
後半では、大正～昭和戦前期の都市社会の発展と矛盾を論じつつ、第一次世界大戦と経済発展、大正デモクラシーと社会運動、政党政治と新しい都市政策、昭和恐慌と満州事変、戦時体制下の経済・社会の動向などについて見ていく。

【学習目標】
近年、研究が進展しつつある都市史研究の成果をふまえ、受講生にとって身近な地域である巨大都市大阪の歴史的なあゆみを題材にしながら、明治維新から終戦にいたるまでの日本の近代史の基本的な流れをとらえ、その特徴を明らかにする。

【講義計画】
第１回　プロローグ（巨大都市大阪の空間構造）
　　幕末維新の政治闘争と大阪―慶喜の政権構想を素材に―
第２回　戊辰戦争と東京遷都の政治過程―「大阪遷都論」を素材に―
第３回　居留地の開設と都市社会―松嶋遊廓を素材に―
第４回　「巨大工場」の誕生と地域―明治初年の工業政策と造幣局―
第５回　「学校」の誕生と地域社会―大阪市街地における学区の形成―
第６回　三新法体制と「町村」（まちむら）の近代化―難波村を素材に―
第７回　松方デフレと地域経済―大阪・長町のスラム形成―
第８回　自由民権運動と大阪の都市社会
第９回　帝国憲法体制と地方自治制―大阪市の成立―
第10回　企業勃興―大阪の紡績会社と鉄道資本―
第11回　産業革命と地域社会―九条・西九条の工場集積―
第12回　日清・日露戦争と大阪
第13回　社会問題の成立―労働者問題と社会運動―
第14回　阪神と阪急―「私鉄王国」大阪と郊外開発―
第15回　前半のまとめ
第16回　都市民衆騒擾と大阪
第17回　第一次世界大戦期の経済発展と都市化
第18回　都市問題の成立―住宅問題と借家争議―
第19回　米騒動の勃発と方面委員制度の発足―新しい社会政策―
第20回　大正デモクラシーと大阪のジャーナリズム
第21回　都市政策・都市計画の誕生―関一大阪市長の役割―
第22回　日本橋「裏長屋」の生活と不良住宅地区改良事業
第23回　大正～昭和期の博徒・侠客と都市社会
第24回　普通選挙と社会運動―大阪の労農運動と無産政党―
第25回　昭和恐慌・満州事変と大阪経済
第26回　公害問題の深刻化―大阪の煤煙問題―
第27回　準戦時体制と大阪市民―国防婦人会の誕生―
第28回　総力戦体制と町内会―大阪の学区と町会―
第29回　太平洋戦争下の空襲と都市―大阪大空襲にみる―
　　後半のまとめ
第30回　試験

【成績評価の方法】
出席、感想・質問の内容、中間レポート、定期試験などにより総合的に評価する。

【参考文献】
・原田敬一『日本近代都市史研究』（思文閣出版、1997年）
・広川禎秀編『近代大阪の行政・社会・経済』（青木書店、1998年）
・芝村篤樹『日本近代都市の成立―1920･30年代の大阪―』（松籟社、1998年）
・佐賀　朝『近代大阪の都市社会構造』（日本経済評論社、2007年）
以上のほか、授業のなかで随時、提示する。

科目名　クラス　講義区分	
日本経営論研究Ａ　＜春＞	
正　亀　芳　造	２単位

【講義概要】

1980年代まで優れたパフォーマンスで国際的に脚光を浴びた「日本的経営」諸慣行の多くは、国内では90年代以降のグローバリゼーションの急速な進展と長期構造不況の中でかつての輝きを失ってしまった。また、それに伴い日本企業はグローバリゼーションへの戦略的対応を迫られ、経営の本格的な多国籍展開を図っており、この傾向は奔流のような勢いで強まっている。

本講義では、このような大きな状況変化を踏まえて、グローバリゼーションを視座に据えて、日本企業は経営管理の主要な各側面でどのような戦略を採用し、どのような課題の解決を迫られ、どのような成果を上げているか等の観点から、各テーマについて本研究科教員による基調講義の後、経営の多国籍展開を積極的に行っている先進企業の第一線で活躍中の実務家・その経験者による事例研究を大幅に採り入れ、理論と実践の両面から迫ることにしている。

なお、講義計画は、多少変更する場合がある。

【学習目標】

講義は、各テーマについて本研究科教員による理論的な基調講義と先進企業の第一線で活躍中ないしその経験豊富な実務家教員による事例研究の講義が１つのセットになって進められる。本講義の学習目標は、21世紀を迎え、グローバル化が一層進展する下で、経営管理の主要な諸側面で日本企業がどのような戦略を採用し、どのような課題の解決を迫られ、どのような成果を上げているかについて、理論と実践の両面から理解を深めることにある。

【講義計画】

第１回　オリエンテーション
第２回　経営戦略
第３回　Ａ社の経営戦略（１）
第４回　Ａ社の経営戦略（２）
第５回　異文化経営戦略
第６回　Ｂ社の異文化経営戦略（１）
第７回　Ｂ社の異文化経営戦略（２）
第８回　マーケティング戦略
第９回　Ｃ社のマーケティング戦略（１）
第10回　Ｃ社のマーケティング戦略（２）
第11回　財務戦略
第12回　Ｄ社の財務戦略（１）
第13回　Ｄ社の財務戦略（２）
第14回　総括

【成績評価の方法】

レポート内容、発言状況、出席状況等を総合的に勘案する。

【教科書】

必要に応じ各担当講師が指示

【参考文献】

必要に応じ各担当講師が指示

【備考】

インテグレーション科目
〔02～06Ｂ生〕は読替一覧参照の事。

科目名　クラス　講義区分	
日本経営論研究Ｂ　＜秋＞	
正　亀　芳　造	２単位

【講義概要】

1980年代まで優れたパフォーマンスで国際的に脚光を浴びた「日本的経営」諸慣行の多くは、国内では90年代以降のグローバリゼーションの急速な進展と長期構造不況の中でかつての輝きを失ってしまった。また、それに伴い日本企業はグローバリゼーションへの戦略的対応を迫られ、経営の本格的な多国籍展開を図っており、この傾向は奔流のような勢いで強まっている。

本講義では、このような大きな状況変化を踏まえて、グローバリゼーションを視座に据えて、日本企業は経営管理の主要な各側面でどのような戦略を採用し、どのような課題の解決を迫られ、どのような成果を上げているか等の観点から、各テーマについて本研究科教員による基調講義の後、経営の多国籍展開を積極的に行っている先進企業の第一線で活躍中の実務家・その経験者による事例研究を大幅に採り入れ、理論と実践の両面から迫ることにしている。

なお、講義計画は、多少変更する場合がある。

【学習目標】

講義は、各テーマについて本研究科教員による理論的な基調講義と先進企業の第一線で活躍中ないしその経験豊富な実務家教員による事例研究の講義が１つのセットになって進められる。本講義の学習目標は、21世紀を迎え、グローバル化が一層進展する下で、経営管理の主要な諸側面で日本企業がどのような戦略を採用し、どのような課題の解決を迫られ、どのような成果を上げているかについて、理論と実践の両面から理解を深めることにある。

【講義計画】

第１回　人事労務戦略
第２回　Ａ社の人事労務戦略（１）
第３回　Ａ社の人事労務戦略（２）
第４回　生産戦略
第５回　Ｂ社の生産戦略（１）
第６回　Ｂ社の生産戦略（２）
第７回　資材調達戦略
第８回　Ｃ社の資材調達戦略（１）
第９回　Ｃ社の資材調達戦略（２）
第10回　情報戦略
第11回　Ｄ社の情報戦略（１）
第12回　Ｄ社の情報戦略（２）
第13回　競合国企業の経営戦略（１）
第14回　競合国企業の経営戦略（２）

【成績評価の方法】

レポート内容、発言状況、出席状況等を総合的に勘案する。

【教科書】

必要に応じ各担当講師が指示

【参考文献】

必要に応じ各担当講師が指示

【備考】

インテグレーション科目
〔02～06Ｂ生〕は読替一覧参照の事。

科目名　クラス　講義区分	
日本経済史　01＜通期＞	
山　田　雄　久	4単位

【講義概要】

本講義では、近世～近代における日本経済の成長史について論じます。徳川期には全国的な農業の発展とともに、商工業が都市部を中心として展開し、農村部でも在郷町などを拠点に商工業が発達を遂げました。決して徳川経済は農業のみにとどまっていたとはいえないことがわかります。農村部を中心にさまざまな特産物が誕生し、本格的工業化の準備を着々と進めていた事実が注目されます。明治期以降、農村を中心に発達した商工業を軸に、日本の工業化を推進した在来産業が技術革新を遂げ、次第に近代的産業へと転換していきました。

【学習目標】

本講義ではこのような視点から、近代産業の発展とともに、日本経済の基礎を築いた在来的な経済発展について考察していきます。授業では経済政策による経済システムの構築と、民間企業の成長について、個別事例を紹介しながら話を進めます。経済学部以外の学生の皆さんにも、基本的な経済史の流れを理解し、日本経済の歴史的展開に関する基礎知識を習得していただきます。

【講義計画】

第１回　ガイダンス
　　（１）授業の目的
　　（２）履修上の注意
　　（３）授業の進め方について
第２回　近世日本の市場経済
第３回　幕藩体制下の経済構造
第４回　小農経済
第５回　17世紀の人口史・物価史
第６回　商業発展と貨幣・金融
第７回　鎖国下の貿易
第８回　国内商業の発展
第９回　18世紀の人口史
第10回　18世紀の物価史
第11回　徳川後期の経済政策
第12回　徳川期の農業発展
第13回　地域経済の発展
第14回　近世日本経済史のまとめ
第15回　確認テスト
第16回　幕末の経済発展
第17回　インフレ的成長仮説
第18回　プロト工業化
第19回　明治維新と財政・金融
第20回　経済的基盤の整備
第21回　大隈財政
第22回　松方財政
第23回　日清・日露戦後経営
第24回　企業勃興
第25回　近代産業の発展
第26回　在来産業の輸出工業化
第27回　地方銀行の設立
第28回　殖産興業政策の展開
第29回　重化学工業化の進展
第30回　近代日本経済史のまとめ

【成績評価の方法】

試験　90%　レポート　0%　出席　10%
本試験の成績で基本的に評価する。出席状況や授業中の課題提出・小テストの成績等も加味して、総合的に成績評価を行います。

【参考文献】

西川俊作『日本経済の成長史』東洋経済新報社、1985年。
新保博『近代日本経済史』創文社、1995年。
阿部武司『近代大阪経済史』大阪大学出版会、2006年。

科目名　クラス　講義区分	
日本経済史　02＜秋集＞	
梅　本　哲　世	4単位

【講義概要】

グローバル化が急速に進展するなかで、いま世界経済・日本経済は大きな転換点にある。このような時期であるからこそ、過去を振り返ってそこから学び、現在を批判的に見つつ未来を展望する作業が必要不可欠になるだろう。

この講義では、幕末から第２次世界大戦終了までの日本経済の発展を概観し、極東の一島国がどのような過程を経て世界経済に組み込まれ「資本主義化」を進めていったのかを、多面的に考察したい。そのさい、第１に、戦前日本の「資本主義化」が進行した国際的および国内的条件を明らかにし、そのうえで日本資本主義の特質を分析し、第２に、戦後の日本資本主義とのつながりを重視し、戦前と戦後を比較対照しつつ、戦前の日本資本主義をもう一度振り返ってみたい。

歴史に興味と関心をもっている学生諸君の受講を歓迎する。現在を見据えて共に歴史から学びたいと思う。

【学習目標】

この講義では以下の内容について学習し、理解を深めることを目標とする。

第１に、幕末から明治初めにかけての資本主義経済の芽生えと成長について、商品経済・貨幣経済の展開過程と関連させて学習する。

第２に、明治政府の「殖産興業政策」と、それを基礎にして展開した日本の産業革命について学習し、その日本的特徴について学ぶ。

第３に、第１次世界大戦を経過して、日本経済がどのような変容を遂げたかを、アメリカを中心とした世界経済の展開と関わらせて学習する。

第４に、1929年に始まった世界恐慌が日本経済に与えた影響について学習する。そのさい、世界経済のブロック化と経済の軍事化について注目したい。

第５に、戦争と日本経済について学習する。アジア・太平洋戦争が日本経済に与えた影響とその帰結について今日的視点から検討したい。

【講義計画】

第１回　経済史の基本概念（１）
第２回　経済史の基本概念（２）
第３回　幕末の経済と開港（１）
第４回　幕末の経済と開港（２）
第５回　明治維新
第６回　殖産興業と松方財政（１）
第７回　殖産興業と松方財政（２）
第８回　近代産業の発達－軽工業（１）
第９回　近代産業の発達－軽工業（２）
第10回　近代産業の発達－重工業（１）
第11回　近代産業の発達－重工業（２）
第12回　日清・日露戦争と日本経済
第13回　財閥と日本経済
第14回　日本資本主義と寄生地主制
第15回　確立期日本資本主義の特質
第16回　第１次世界大戦と日本経済
第17回　1920年代の日本経済
第18回　金融恐慌
第19回　金解禁（１）
第20回　金解禁（２）
第21回　昭和恐慌と金輸出再禁止
第22回　高橋財政（１）
第23回　高橋財政（２）
第24回　統制経済の展開（１）
第25回　統制経済の展開（２）
第26回　戦時下の日本経済（１）
第27回　戦時下の日本経済（２）
第28回　まとめ

【成績評価の方法】

１．講義中の小テスト（５回程度の予定）
２．期末試験
以上を総合して成績評価をする。

【教科書】

三和良一 概説日本経済史　近現代〔第２版〕東京大学出版会

【参考文献】

石井寛治『日本経済史［第２版］』（東京大学出版会）
安藤良雄編『近代日本経済史要覧』（東京大学出版会）

科目名　クラス　講義区分	
日本経済論　＜春集＞	
鈴　木　　健	4単位

【講義概要】
戦後の日本経済は、政治（外交）＝軍事上の対米従属を前提とする政官財癒着の統治枠組みのもと、国家が直接・間接に大企業＝大銀行の蓄積を支える経済システムとして再建・確立された。しかし、90年代以降それは内外に累積する困難（矛盾）に直面して事実上機能不全に陥っている。日本経済の根幹を支配する大企業＝大銀行システムが行き詰まり、しかもそれが統治システムの内部腐蝕と表裏をなして表面化しつつある。アメリカ発金融危機は世界恐慌の様相を呈し始め、日本経済の困難をさらに加重しつつある。本講義では、戦後日本経済の歴史過程を概観し、今日、日本経済が直面し解決できずにいる矛盾の根源がどこにあるのか、そしてまた日本経済の自律的展開の方向がどこにあるのかについて考えることにする。

【学習目標】
本講義の目標は、こうした行き詰まりに直面する日本経済の現状を理解するのに必要な最低限の基礎的知識を身につけてもらうことにある。柱は三つある。
第一、戦後の対米従属的国家間関係、
第二、国家的従属を前提とする日本の独占資本の強蓄積の仕組、
第三、米日・欧日独占資本の競争と国家間関係、

【講義計画】
第１回　ガイダンス
　　第一章　（１）、（２）、
第２回　第一章　（３）、（４）、
第３回　第一章　（５）、第二章　（６）、
第４回　第二章　（７）、（８）、
第５回　第二章　（９）、(10)、
　　第二章　（９）、(10)、
第６回　第三章　(11)、(12)、
第７回　第三章　(13)、(14)、
第８回　第四章　(15)、(16)、
第９回　第四章　(17)、(18)、
第10回　第四章　(19)、(20)、
第11回　第四章　(21)、(22)、
第12回　第五章　(23)、(24)、
第13回　第五章　(25)、(26)
　　第五章　(25)、(26)、
第14回　第五章　(27)、(28)、
第15回　第五章　(29)、(30)、
第16回　第五章　(31)、(32)、
第17回　第五章　(33)、(34)、
第18回　第六章　(35)、(36)、
第19回　第六章　(37)、(38)、
第20回　第六章　(39)、(40)、
第21回　第六章　(41)、(42)、
第22回　第六章　(43)、(44)、
第23回　第六章　(45)、(46)、
第24回　第六章　(47)、(48)、
第25回　第六章　(49)、(50)、
第26回　補足　アメリカ発金融危機と世界不況（１）
第27回　補足　アメリカ発金融危機と世界不況（２）
第28回　補足　アメリカ発金融危機と世界不況（３）

【成績評価の方法】
学期中に行うテスト（10回）の受験回数（６回以上）と点数（６割以上）を勘案して評価する。受験するテストの回数が６回に満たない者は理由の如何を問わず「厳格に」不合格とするので、単位の取得を希望し、しかも出席する意図のない者は受講しても無駄であることを予め承知しておくこと。

【教科書】
大槻久志 やさしい日本経済の話 新日本出版社

【参考文献】
井村喜代子『日本経済論』（有斐閣）
橘川武郎『日本の企業集団』（有斐閣）
中村孝俊『現代日本資本主義』（新日本出版社）
橋本寿郎編『日本経済の発展と企業集団』（東大出版会）
大槻久志『金融恐慌とビッグバン』（新日本出版社、1998年）
大槻久志『金融化の災い』（新日本出版社、2008年）
工藤晃『現代帝国主義研究』（新日本出版社、1998年）
鈴木健『メインバンクと企業集団』（ミネルヴァ書房、1998年）
鈴木健『六大企業集団の崩壊』（新日本出版社、2008年）

科目名　クラス　講義区分	
日本語Ｉａ　01＜春＞	
村　中　淑　子	1単位

【講義概要】
外国人留学生が、大学で勉強する際に必要となるアカデミックな日本語力のうち、とくに書く力を養うことを目指して授業を進める。

【学習目標】
筋道の通ったわかりやすい日本語で、事実と意見とを分けて書けるようになることを目標とする。

【講義計画】
第１回　オリエンテーション
第２回　作文練習
第３回　作文練習
第４回　作文練習
第５回　作文練習
第６回　作文練習
第７回　作文練習
第８回　作文練習
第９回　作文練習
第10回　作文練習
第11回　作文練習
第12回　作文練習
第13回　作文練習
第14回　まとめ

【成績評価の方法】
レポート　20%　出席　80%
出席点の中には、授業の中で書いて提出する作文（複数回）への評価も含まれる。

【教科書】
テキストは教員がコピーを準備する。

科目名　クラス　講義区分	
日本語Ｉａ　02＜春＞	
串　田　真知子	１単位

【講義概要】
大学で学ぶには、これまで主に学習してきた話し言葉中心の日本語だけでなく、論理的でアカデミックな書き言葉としての日本語が必要とされる。ここでは必要とされる日本語能力のうち「話す」「書く」を中心に、２週毎のテーマについて日本語で考え、その考えを日本語で表現することを学ぶ。

【学習目標】
具体的な学習内容としては、「書く」学習では、レポートなどの文章を書くために必要な表現・文法・文構成や日本語作文の基礎的知識を学び、「話す」学習では、スピーチなどを通して自分の考えを伝えるために必要な表現について学ぶ。日本および世界で起こっていることに対して自分の意見が日本語で表現できるようになることを目指している。

【講義計画】
第１回　イントロダクション
第２回　世界の人口問題①
第３回　世界の人口問題②
第４回　家族の絆とは①
第５回　家族の絆とは②
第６回　シックハウス症候群①
第７回　シックハウス症候群②
第８回　定住外国人に対する国籍条項の壁①
第９回　定住外国人に対する国籍条項の壁②
第10回　多文化の時代①
第11回　多文化の時代②
第12回　情報化社会①
第13回　情報化社会②
第14回　まとめ
第15回　試験

【成績評価の方法】
試験　50%　出席　20%
語彙テスト、課題提出、スピーチ、平常の授業態度などで30%の評価を行う。

【参考文献】
『国境を越えて』山本富美子編　新曜社　４－7885－0749－８
『留学生のための時代を読み解く上級日本語』宮原彬　スリーエーネットワーク　４－8319－384－５

【備考】
・プリントを配布
・遅刻・早退は３回で欠席１回と見なす。
・２/３以上の出席がなければ期末試験は受けられない。

科目名　クラス　講義区分	
日本語Ｉａ　03＜春＞	
岡　田　裕　子	１単位

【講義概要】
交換留学生のための日本語クラス。日本語の基本的な文法を習得し、レベルに応じたさらなる語彙・表現を身につけ、四技能を伸ばすとともに、運用力をつける。学生のレベルに合ったテキストを使用し、文法、読解、聴解、漢字などを学習し、必要に応じて作文等の課題を課す。

【学習目標】
日本語の基本的な文法を習得するだけでなく、四技能を伸ばし、運用力を身につけることを目指す。また、現代日本の社会的習慣や考え方を知ることによって、日本に対する理解を深める。

【講義計画】
第１回　本文読解
　　語彙・文法・表現の運用練習
　　聴解
第２回　本文読解
　　語彙・文法・表現の運用練習
　　聴解
第３回　本文読解
　　語彙・文法・表現の運用練習
　　聴解
第４回　本文読解
　　語彙・文法・表現の運用練習
　　聴解
第５回　本文読解
　　語彙・文法・表現の運用練習
　　聴解
第６回　本文読解
　　語彙・文法・表現の運用練習
　　聴解
第７回　本文読解
　　語彙・文法・表現の運用練習
　　聴解
第８回　本文読解
　　語彙・文法・表現の運用練習
　　聴解
第９回　本文読解
　　語彙・文法・表現の運用練習
　　聴解
第10回　本文読解
　　語彙・文法・表現の運用練習
　　聴解
第11回　本文読解
　　語彙・文法・表現の運用練習
　　聴解
第12回　本文読解
　　語彙・文法・表現の運用練習
　　聴解
第13回　本文読解
　　語彙・文法・表現の運用練習
　　聴解
第14回　期末試験

【成績評価の方法】
期末試験および授業ごとの小テストを行う。
成績は、期末試験、小テスト、宿題、出席率、授業中のパフォーマンスについてを評価する。

【教科書】
プレースメントテストを行い、学生のレベルを把握した上で決定する。

科目名　クラス　講義区分	
日本語Ⅰａ　04＜秋＞	
岡　田　裕　子	１単位

【講義概要】
交換留学生のための日本語クラス。日本語の基本的な文法を習得し、レベルに応じたさらなる語彙・表現を身につけ、四技能を伸ばすとともに、運用力をつける。学生のレベルに合ったテキストを使用し、文法、読解、聴解、漢字などを学習し、必要に応じて作文等の課題を課す。

【学習目標】
日本語の基本的な文法を習得するだけでなく、四技能を伸ばし、運用力を身につけることを目指す。また、現代日本の社会的習慣や考え方を知ることによって、日本に対する理解を深める。

【講義計画】
第１回　本文読解
　　語彙・文法・表現の運用練習
　　聴解
第２回　本文読解
　　語彙・文法・表現の運用練習
　　聴解
第３回　本文読解
　　語彙・文法・表現の運用練習
　　聴解
第４回　本文読解
　　語彙・文法・表現の運用練習
　　聴解
第５回　本文読解
　　語彙・文法・表現の運用練習
　　聴解
第６回　本文読解
　　語彙・文法・表現の運用練習
　　聴解
第７回　本文読解
　　語彙・文法・表現の運用練習
　　聴解
第８回　本文読解
　　語彙・文法・表現の運用練習
　　聴解
第９回　本文読解
　　語彙・文法・表現の運用練習
　　聴解
第10回　本文読解
　　語彙・文法・表現の運用練習
　　聴解
第11回　本文読解
　　語彙・文法・表現の運用練習
　　聴解
第12回　本文読解
　　語彙・文法・表現の運用練習
　　聴解
第13回　本文読解
　　語彙・文法・表現の運用練習
　　聴解
第14回　期末試験

【成績評価の方法】
期末試験および授業ごとの小テストを行う。
成績は、期末試験、小テスト、宿題、出席率、授業中のパフォーマンスについてを評価する。

【教科書】
プレースメントテストを行い、学生のレベルを把握した上で決定する。

科目名　クラス　講義区分	
日本語Ⅰｂ　01＜春＞	
吉　岡　美　穂	１単位

【講義概要】
読解を中心に行い、内容を要約する練習を行う。毎週異なる内容の記事を読み、自分の意見をまとめる練習をする。他者の意見を聞き、自分の考えと比較し異文化理解を求めていく。

【学習目標】
この授業は新聞、雑誌、文献、ニュースなどの情報を通して、今日の日本で起きている様々な出来事を自分たちの文化と比較しながら異文化理解を深めていくことを目的とする。

【講義計画】
第１回　オリエンテーション
第２回　日本の教育
第３回　日本の教育（２）
第４回　世界のマナー
第５回　世界のマナー（２）
第６回　国際理解
第７回　国際理解（２）
第８回　社会問題
第９回　社会問題（２）
第10回　社会問題（３）
第11回　物語
第12回　物語（２）
第13回　レポート発表
第14回　テスト

【成績評価の方法】
出席、レポート、試験、参加態度によって評価する。

【参考文献】
その都度、授業中に指示します。

【備考】
講義時に資料を配布します。

科目名　クラス　講義区分	
日本語Ｉｂ　02＜春＞	
清　水　明　子	１単位

【講義概要】
留学生の大学生活で必要とされる日本語能力のうち「読む力」「聞く力」を伸ばすことを学習の目的とする。

【学習目標】
「読む」ことの学習では、専門分野のレポート、論文、専門書などの専門的な文章を読むための基礎的な読解技術を学ぶ。具体的には文章構造・文章の論理構造・文法に関する知識を学び、段落読み・アウトライン作成などの読解スキルを身につける。
「聞く」ことの学習では、講義や学生生活に必要な内容を聞き取る力を養成する。

【講義計画】
第１回　【読解】授業の進め方及びテキストの使い方の説明
【聴解】様子・類似の表現
第２回　【読解】第１課　文章の構造
【聴解】比較１
第３回　【読解】第２課　中心文と支持文
【聴解】程度・変化１
第４回　【読解】第３課　アウトライン、分類
【聴解】伝聞１
第５回　【読解】第４課　定義
【聴解】時１
第６回　【読解】第５課　経過
【聴解】様子・推測１
第７回　【読解】小テスト
第８回　【読解】第６課　比較・対照
【聴解】比較２
第９回　【読解】第７課　原因・結果
【聴解】様子・類似
第10回　【読解】第８課　位置
【聴解】程度・変化２
第11回　【読解】第９課　列挙・順序
【聴解】伝聞２
第12回　【読解】第10課　理由・根拠
【聴解】時２
第13回　【読解】第11課　筆者の意見を表す表現
【聴解】様子・推測２
第14回　【読解】期末試験
【聴解】期末試験

【成績評価の方法】
試験　60%　出席　20%
提出物：10%、　授業参加態度：10%

【教科書】
アカデミック・ジャパニーズ研究会　大学・大学院留学生の日本語①読解編　アルク

【備考】
言語の授業では「講義を聞いて知識を得る」という受動的な態度ではなく、「授業に積極的に参加する」ことによって、自らの日本語力を高めることができる。そのために出席・授業参加態度を重視している。

科目名　クラス　講義区分	
日本語Ｉｂ　03＜春＞	
三　木　由里子	１単位

【講義概要】
日本語レベル中級～上級向けのテキストを使用し、文法、読解、聴解、漢字などを学習する。必要に応じてスピーチや作文等の課題を課す。なお、この科目は交換留学生のみを対象としたものであるため、詳細は国際センターを通じて交換留学生に配付するシラバスを参照のこと。

【学習目標】
中級後半から上級の日本語レベルに到達するのに必要な語彙・文法・表現を身につけ、四技能を伸ばすとともに、理解力だけでなく運用力をつける。詳細は交換留学生用シラバスを参照のこと。

【講義計画】
第１回　メインテキストの読解と文法練習。聴解テキストを使った聴解。新聞記事読解。詳細は交換留学生用シラバスを参照のこと。
第２回　メインテキストの漢字クイズ。メインテキストの読解と文法練習。聴解テキストを使った聴解。新聞記事読解。
第３回　メインテキストの読解と文法練習。聴解テキストを使った聴解。新聞記事読解。
第４回　メインテキストの漢字クイズ。メインテキストの読解と文法練習。聴解テキストを使った聴解。新聞記事読解。
第５回　メインテキストの読解と文法練習。聴解テキストを使った聴解。新聞記事読解。
第６回　メインテキストの漢字クイズ。メインテキストの読解と文法練習。聴解テキストを使った聴解。新聞記事読解。
第７回　メインテキストの読解と文法練習。聴解テキストを使った聴解。新聞記事読解。
第８回　メインテキストの漢字クイズ。メインテキストの読解と文法練習。聴解テキストを使った聴解。新聞記事読解。
第９回　メインテキストの読解と文法練習。聴解テキストを使った聴解。新聞記事読解。
第10回　メインテキストの漢字クイズ。メインテキストの読解と文法練習。聴解テキストを使った聴解。新聞記事読解。
第11回　メインテキストの読解と文法練習。聴解テキストを使った聴解。新聞記事読解。
第12回　メインテキストの漢字クイズ。メインテキストの読解と文法練習。聴解テキストを使った聴解。新聞記事読解。
第13回　メインテキストの読解と文法練習。聴解テキストを使った聴解。新聞記事読解。
第14回　メインテキストの漢字クイズ。メインテキストの読解と文法練習。聴解テキストを使った聴解。新聞記事読解。

【成績評価の方法】
試験、出席、漢字クイズ、提出物の提出状況により評価する。詳細は交換留学生用シラバスを参照のこと。

【教科書】
交換留学生用シラバスを参照のこと。

科目名　クラス　講義区分	
日本語Ⅰｂ　04＜秋＞	
三　木　由里子	1単位

【講義概要】
日本語レベル中級向けのテキストを使用し、文法、読解、聴解、漢字などを学習する。必要に応じてスピーチや作文等の課題を課す。なお、この科目は交換留学生のみを対象としたものであるため、詳細は国際センターを通じて交換留学生に配付するシラバスを参照のこと。

【学習目標】
中級中盤の日本語レベルに到達するのに必要な語彙・文法・表現を身につけ、四技能を伸ばすとともに、理解力だけでなく運用力をつける。詳細は交換留学生用シラバスを参照のこと。

【講義計画】
第１回　メインテキストの読解と文法練習。聴解テキストを使った聴解。詳細は交換留学生用シラバスを参照のこと。
第２回　メインテキストの漢字クイズ。メインテキストの読解と文法練習。聴解テキストを使った聴解。。
第３回　メインテキストの読解と文法練習。聴解テキストを使った聴解。
第４回　メインテキストの漢字クイズ。メインテキストの読解と文法練習。聴解テキストを使った聴解。
第５回　メインテキストの読解と文法練習。聴解テキストを使った聴解。詳細は交換留学生用シラバスを参照のこと。
第６回　メインテキストの漢字クイズ。メインテキストの読解と文法練習。聴解テキストを使った聴解。
第７回　メインテキストの読解と文法練習。聴解テキストを使った聴解。
第８回　メインテキストの漢字クイズ。メインテキストの読解と文法練習。聴解テキストを使った聴解。
第９回　メインテキストの読解と文法練習。聴解テキストを使った聴解。
第10回　メインテキストの漢字クイズ。メインテキストの読解と文法練習。聴解テキストを使った聴解。
第11回　メインテキストの読解と文法練習。聴解テキストを使った聴解。
第12回　メインテキストの漢字クイズ。メインテキストの読解と文法練習。聴解テキストを使った聴解。
第13回　メインテキストの読解と文法練習。聴解テキストを使った聴解。
第14回　メインテキストの漢字クイズ。メインテキストの読解と文法練習。聴解テキストを使った聴解。

【成績評価の方法】
試験、出席、漢字クイズ、提出物の提出状況により評価する。詳細は交換留学生用シラバスを参照のこと。

【教科書】
交換留学生用シラバスを参照のこと。

科目名　クラス　講義区分	
日本語Ⅱａ　01＜秋＞	
村　中　淑　子	1単位

【講義概要】
前期に引き続き、外国人留学生が、大学で勉強する際に必要となるアカデミックな日本語力のうち、とくに書く力を養うことを目指して授業を進める。

【学習目標】
筋道の通ったわかりやすい日本語で、事実と意見とを分けて書けるようになることを目標とする。

【講義計画】
第１回　オリエンテーション
第２回　作文練習
第３回　作文練習
第４回　作文練習
第５回　作文練習
第６回　作文練習
第７回　作文練習
第８回　作文練習
第９回　作文練習
第10回　作文練習
第11回　作文練習
第12回　作文練習
第13回　作文練習
第14回　まとめ

【成績評価の方法】
レポート　20%　出席　80%
出席点の中には、授業の中で書いて提出する作文（複数回）への評価も含まれる。

【教科書】
テキストは教員がコピーを準備する。

科目名　クラス　講義区分	
日本語Ⅱａ　02＜秋＞	
串　田　真知子	１単位

【講義概要】
大学で学ぶには、これまで主に学習してきた話し言葉中心の日本語だけでなく、論理的でアカデミックな書き言葉としての日本語が必要とされる。ここでは必要とされる日本語能力のうち「話す」「書く」を中心に、２週毎のテーマについて、日本語で考え、その考えを日本語で表現することを学ぶ。

【学習目標】
春学期に続き、日本および世界で起こっていることに対して自分の意見が日本語で表現できるようになることを目指している。特に今期は、自分の考えをわかりやすく正確に伝えるための活動として、新聞作りやディスカッションを取り上げる。

【講義計画】
第１回　イントロダクション
第２回　家父長制度の解体①
第３回　家父長制度の解体②
第４回　日本人の飽食を支える開発輸入①
第５回　日本人の飽食を支える開発輸入②
第６回　地球規模の温暖化対策①
第７回　地球規模の温暖化対策②
第８回　日本的経営の神話①
第９回　日本的経営の神話②
第10回　新聞作り①
第11回　新聞作り②
第12回　日本企業とアジアからの留学生①
第13回　日本企業とアジアからの留学生②
第14回　まとめ
第15回　試験

【成績評価の方法】
試験　50%　出席　20%
語彙テスト、課題提出、スピーチ、平常の授業態度などで30%の評価を行う。

【参考文献】
『国境を越えて』山本富美子編　新曜社　４－7885－0749－８
『留学生のための時代を読み解く上級日本語』宮原彬　スリーエーネットワーク　４－8319－384－５

【備考】
・プリントを配布
・遅刻・早退は３回で欠席１回と見なす。
・２/３以上の出席がなければ期末試験は受けられない。

科目名　クラス　講義区分	
日本語Ⅱａ　03＜春＞	
岡　田　裕　子	１単位

【講義概要】
交換留学生のための日本語クラス。日本語の基本的な文法を習得し、レベルに応じたさらなる語彙・表現を身につけ、四技能を伸ばすとともに、運用力をつける。学生のレベルに合ったテキストを使用し、文法、読解、聴解、漢字などを学習し、必要に応じて作文等の課題を課す。

【学習目標】
日本語の基本的な文法を習得するだけでなく、四技能を伸ばし、運用力を身につけることを目指す。また、現代日本の社会的習慣や考え方を知ることによって、日本に対する理解を深める。

【講義計画】
第１回　本文読解
　　語彙・文法・表現の運用練習
　　聴解
第２回　本文読解
　　語彙・文法・表現の運用練習
　　聴解
第３回　本文読解
　　語彙・文法・表現の運用練習
　　聴解
第４回　本文読解
　　語彙・文法・表現の運用練習
　　聴解
第５回　本文読解
　　語彙・文法・表現の運用練習
　　聴解
第６回　本文読解
　　語彙・文法・表現の運用練習
　　聴解
第７回　本文読解
　　語彙・文法・表現の運用練習
　　聴解
第８回　本文読解
　　語彙・文法・表現の運用練習
　　聴解
第９回　本文読解
　　語彙・文法・表現の運用練習
　　聴解
第10回　本文読解
　　語彙・文法・表現の運用練習
　　聴解
第11回　本文読解
　　語彙・文法・表現の運用練習
　　聴解
第12回　本文読解
　　語彙・文法・表現の運用練習
　　聴解
第13回　本文読解
　　語彙・文法・表現の運用練習
　　聴解
第14回　期末試験

【成績評価の方法】
期末試験および授業ごとの小テストを行う。
成績は、期末試験、小テスト、宿題、出席率、授業中のパフォーマンスについてを評価する。

【教科書】
プレースメントテストを行い、学生のレベルを把握した上で決定する。

科目名　クラス　講義区分	
日本語Ⅱａ　04＜秋＞	
岡　田　裕　子	１単位

【講義概要】
交換留学生のための日本語クラス。日本語の基本的な文法を習得し、レベルに応じたさらなる語彙・表現を身につけ、四技能を伸ばすとともに、運用力をつける。学生のレベルに合ったテキストを使用し、文法、読解、聴解、漢字などを学習し、必要に応じて作文等の課題を課す。

【学習目標】
日本語の基本的な文法を習得するだけでなく、四技能を伸ばし、運用力を身につけることを目指す。また、現代日本の社会的習慣や考え方を知ることによって、日本に対する理解を深める。

【講義計画】
第１回　本文読解
　　語彙・文法・表現の運用練習
　　聴解
第２回　本文読解
　　語彙・文法・表現の運用練習
　　聴解
第３回　本文読解
　　語彙・文法・表現の運用練習
　　聴解
第４回　本文読解
　　語彙・文法・表現の運用練習
　　聴解
第５回　本文読解
　　語彙・文法・表現の運用練習
　　聴解
第６回　本文読解
　　語彙・文法・表現の運用練習
　　聴解
第７回　本文読解
　　語彙・文法・表現の運用練習
　　聴解
第８回　本文読解
　　語彙・文法・表現の運用練習
　　聴解
第９回　本文読解
　　語彙・文法・表現の運用練習
　　聴解
第10回　本文読解
　　語彙・文法・表現の運用練習
　　聴解
第11回　本文読解
　　語彙・文法・表現の運用練習
　　聴解
第12回　本文読解
　　語彙・文法・表現の運用練習
　　聴解
第13回　本文読解
　　語彙・文法・表現の運用練習
　　聴解
第14回　期末試験

【成績評価の方法】
期末試験および授業ごとの小テストを行う。
成績は、期末試験、小テスト、宿題、出席率、授業中のパフォーマンスについてを評価する。

【教科書】
プレースメントテストを行い、学生のレベルを把握した上で決定する。

科目名　クラス　講義区分	
日本語Ⅱｂ　01＜秋＞	
吉　岡　美　穂	１単位

【講義概要】
このクラスでは新聞、雑誌、ニュースなどから読解力を深める。
テーマにそって、ディスカッション形式を求める。
読むだけでなく、自分の意見を交換できる場にしていく。

【学習目標】
積極的に人の意見を聞く力を養う。人の意見を尊重して聞くことの重要性を学ぶ。日本や世界のニュースを学びながら、それに対する自分の意見を分かりやすく伝えることができるようにする。

【講義計画】
第１回　授業の概要
第２回　日本人の表現方法
第３回　日本人の表現方法（２）
第４回　国際関係
第５回　国際関係（２）
第６回　経済問題
第７回　経済問題（２）
第８回　環境につして
第９回　環境について
第10回　社会問題
第11回　社会問題（２）
第12回　物語
第13回　レポート発表
第14回　テスト

【成績評価の方法】
出席、参加態度、レポート、テストによって評価する。

【参考文献】
その都度、授業中に紹介します。

【備考】
講義時に資料を配布します。

科目名　クラス　講義区分	
日本語Ⅱｂ　02＜秋＞	
清　水　明　子	１単位

【講義概要】
日本語Ｉｂ（春学期）に引き続き、「読む力」「聞く力」を伸ばすことを学習の目的とする。読解は講義形式ではなく、教材の読解を分担して発表形式で行い、クラスメートとの協働で学んでいく。聴解練習はは大学生活に関わる内容から一般的な内容へと幅を広げる。

【学習目標】
【読解】日本語Ｉｂで学んだ読解技術を使用して、より生に近い教材を自分で読み解く力をつけることを目指す。各自が分担した教材をよく調べ、他の学生に説明することによって、クラス全員が正確に読みとれているかを確認し合う。そのような活動を通して、自分自身で問題を解決する力を身につけることを目標とする。
【聴解】日本語能力試験１級レベルの練習問題を使用し、語彙や表現の幅を広げ、日常のさまざまな状況での聞き取りに対応できる聴解力をつけることを目標とする。

【講義計画】
第１回　【読解】授業の進め方の説明　読解分担　【聴解】１級練習問題
第２回　【読解】読解発表例　【聴解】１級練習問題
第３回　【読解】読解発表１．２　【聴解】１級練習問題
第４回　【読解】読解発表３．４　【聴解】１級練習問題
第５回　【読解】読解発表５．６　【聴解】１級練習問題
第６回　【読解】読解発表７．８　【聴解】１級練習問題
第７回　【読解】読解発表９．10　【聴解】１級練習問題
第８回　【読解】読解発表11．12　【聴解】１級練習問題
第９回　【読解】読解発表13．14　【聴解】１級練習問題
第10回　【読解】読解発表15．16　【聴解】１級練習問題
第11回　【読解】読解発表17．18　【聴解】１級練習問題
第12回　【読解】読解発表19．20　【聴解】１級練習問題
第13回　【読解】読解発表21．22　【聴解】１級練習問題
第14回　【読解】試験　【聴解】試験

【成績評価の方法】
試験　60%　出席　10%
発表：10%　提出物：10%　授業参加態度：10%

【備考】
今期の授業では特に「授業に積極的に参加する」ことが求められる。そのために出席・発表・授業参加態度・提出物を重視している。

科目名　クラス　講義区分	
日本語Ⅱｂ　03＜春＞	
三　木　由里子	１単位

【講義概要】
日本語レベル中級～上級向けのテキストを使用し、文法、読解、聴解、漢字などを学習する。必要に応じてスピーチや作文等の課題を課す。なお、この科目は交換留学生のみを対象としたものであるため（日本語Ｉｂと２コマ続けて同じ学生が受講する）、詳細は国際センターを通じて交換留学生に配付するシラバスを参照のこと。

【学習目標】
中級後半から上級の日本語レベルに到達するのに必要な語彙・文法・表現を身につけ、四技能を伸ばすとともに、理解力だけでなく運用力をつける。詳細は交換留学生用シラバスを参照のこと。

【講義計画】
第１回　メインテキストの読解と文法練習。聴解テキストを使った聴解。新聞記事読解。詳細は交換留学生用シラバスを参照のこと。
第２回　メインテキストの漢字クイズ。メインテキストの読解と文法練習。聴解テキストを使った聴解。新聞記事読解。
第３回　メインテキストの読解と文法練習。聴解テキストを使った聴解。新聞記事読解。
第４回　メインテキストの漢字クイズ。メインテキストの読解と文法練習。聴解テキストを使った聴解。新聞記事読解。
第５回　メインテキストの読解と文法練習。聴解テキストを使った聴解。新聞記事読解。
第６回　メインテキストの漢字クイズ。メインテキストの読解と文法練習。聴解テキストを使った聴解。新聞記事読解。
第７回　メインテキストの読解と文法練習。聴解テキストを使った聴解。新聞記事読解。
第８回　メインテキストの漢字クイズ。メインテキストの読解と文法練習。聴解テキストを使った聴解。新聞記事読解。
第９回　メインテキストの読解と文法練習。聴解テキストを使った聴解。新聞記事読解。
第10回　メインテキストの漢字クイズ。メインテキストの読解と文法練習。聴解テキストを使った聴解。新聞記事読解。
第11回　メインテキストの読解と文法練習。聴解テキストを使った聴解。新聞記事読解。
第12回　メインテキストの漢字クイズ。メインテキストの読解と文法練習。聴解テキストを使った聴解。新聞記事読解。
第13回　メインテキストの読解と文法練習。聴解テキストを使った聴解。新聞記事読解。
第14回　メインテキストの漢字クイズ。メインテキストの読解と文法練習。聴解テキストを使った聴解。新聞記事読解。

【成績評価の方法】
試験、出席、漢字クイズ、提出物の提出状況により評価する。詳細は交換留学生用シラバスを参照のこと。

【教科書】
交換留学生用シラバスを参照のこと。

科目名　クラス　講義区分	
日本語Ⅱｂ　04＜秋＞	
三　木　由里子	１単位

【講義概要】
日本語レベル中級向けのテキストを使用し、文法、読解、聴解、漢字などを学習する。必要に応じてスピーチや作文等の課題を課す。なお、この科目は交換留学生のみを対象としたものであるため（日本語Ｉｂと２コマ続けて同じ学生が受講する）、詳細は国際センターを通じて交換留学生に配付するシラバスを参照のこと。

【学習目標】
中級中盤の日本語レベルに到達するのに必要な語彙・文法・表現を身につけ、四技能を伸ばすとともに、理解力だけでなく運用力をつける。詳細は交換留学生用シラバスを参照のこと。

【講義計画】
第１回　メインテキストの読解と文法練習。聴解テキストを使った聴解。詳細は交換留学生用シラバスを参照のこと。
第２回　メインテキストの漢字クイズ。メインテキストの読解と文法練習。聴解テキストを使った聴解。
第３回　メインテキストの読解と文法練習。聴解テキストを使った聴解。
第４回　メインテキストの漢字クイズ。メインテキストの読解と文法練習。聴解テキストを使った聴解。
第５回　メインテキストの読解と文法練習。聴解テキストを使った聴解。
第６回　メインテキストの漢字クイズ。メインテキストの読解と文法練習。聴解テキストを使った聴解。
第７回　メインテキストの読解と文法練習。聴解テキストを使った聴解。
第８回　メインテキストの漢字クイズ。メインテキストの読解と文法練習。聴解テキストを使った聴解。
第９回　メインテキストの読解と文法練習。聴解テキストを使った聴解。
第10回　メインテキストの漢字クイズ。メインテキストの読解と文法練習。聴解テキストを使った聴解。
第11回　メインテキストの読解と文法練習。聴解テキストを使った聴解。
第12回　メインテキストの漢字クイズ。メインテキストの読解と文法練習。聴解テキストを使った聴解。
第13回　メインテキストの読解と文法練習。聴解テキストを使った聴解。
第14回　メインテキストの漢字クイズ。メインテキストの読解と文法練習。聴解テキストを使った聴解。

【成績評価の方法】
試験、出席、漢字クイズ、提出物の提出状況により評価する。詳細は交換留学生用シラバスを参照のこと。

【教科書】
交換留学生用シラバスを参照のこと。

科目名　クラス　講義区分	
日本語Ⅲａ　01＜春＞	
村　中　淑　子	１単位

【講義概要】
大学の授業におけるレポートを書くための助けとなるような作業を行っていく。わかりやすく効果的な論の進め方、客観的な文章表現、引用のしかた、などを学ぶ。

【学習目標】
学問的な文章を書く、とはどのようなことであるか理解することを目標とする。

【講義計画】
第１回　オリエンテーション
第２回　レポートの書き方・その実践
第３回　レポートの書き方・その実践
第４回　レポートの書き方・その実践
第５回　レポートの書き方・その実践
第６回　レポートの書き方・その実践
第７回　レポートの書き方・その実践
第８回　レポートの書き方・その実践
第９回　レポートの書き方・その実践
第10回　レポートの書き方・その実践
第11回　レポートの書き方・その実践
第12回　レポートの書き方・その実践
第13回　レポートの書き方・その実践
第14回　まとめ

【成績評価の方法】
レポート　20%　出席　80%
出席点の中には、授業の中で書いて提出するレポート（複数回）への評価も含まれる。

【教科書】
テキストは教員がコピーを準備する。

科目名　クラス　講義区分	
日本語Ⅲａ　02＜春＞	
串　田　真知子	1単位

【講義概要】
大学で学ぶには、論理的思考に基づいたレポート・論文作成の習得が不可欠である。ここでは日本語によるレポート・論文の基本的書き方を学習する。併せて日本・世界で起こっている事柄について、自分の意見をまとめ、発表し、ディスカッションする学習も行う。

【学習目標】
具体的には日本語によるレポート・論文の基本的書き方、論文の語彙・文型・表現・構成、論理的展開パターン、引用・要約の方法についての学習を行う。序論・本論・結論からなるレポートが書けるようになることが目標である。

【講義計画】
第１回　イントロダクション
第２回　作文の基本
第３回　課題の提示
第４回　目的の提示
第５回　定義と分類
第６回　図表の提示
第７回　変化の形容
第８回　対比と比較
第９回　原因の考察
第10回　列挙
第11回　引用
第12回　同意と反論
第13回　帰結
第14回　結論の提示
第15回　試験

【成績評価の方法】
試験　50%　出席　20%
語彙テスト、スピーチ、課題提出、平常の授業態度により30%評価する。

【教科書】
アカデミック・ジャパニーズ研究会編　大学・大学院留学生の日本語④論文作成編 アルク

【参考文献】
『大学生と留学生のための論文ワークブック』浜田麻里他　くろしお出版　４－87424－127－１
『留学生のための論理的な文章の書き方』二通信子他　スリーエーネットワーク　４－88319－257－１

【備考】
・遅刻・早退は３回で欠席１回と見なす。
・２/３以上の出席がなければ期末試験は受けられない。

科目名　クラス　講義区分	
日本語Ⅲｂ　01＜春＞	
吉　岡　美　穂	1単位

【講義概要】
このクラスは講義、エクササイズ、ビデオ、各自の異文化体験を通して自文化と異文化について考える。「自分の国ではどうするのか」などの質問に取り組むことで、日本の文化と比較しながら自文化に対する気づきを促す。

【学習目標】
学生には自分の国では「常識」のことが、他国では「常識ではない」ことに気づかせることを目的とする。日本人との関わり方や、自分自身のコミュニケーションの仕方を学びながら、異文化理解について考える能力を養う。

【講義計画】
第１回　オリエンテーション
第２回　価値観とは？
第３回　エクササイズ
第４回　家族観
第５回　結婚観
第６回　言語コミュニケーション
第７回　会話スタイル
第８回　非言語コミュニケーション
第９回　非言語コミュニケーションの種類
第10回　時間と空間
第11回　ビデオ鑑賞
第12回　異文化適応
第13回　まとめ
第14回　テスト

【成績評価の方法】
出席、レポート、試験、参加態度によって評価します。

【参考文献】
その都度必要に応じて授業で紹介します。図書館で借りることも可能です。

【備考】
講義項目に応じて資料を配布します。

科目名　クラス　講義区分	
日本語Ⅲｂ　02＜春＞	
清　水　明　子	1単位

【講義概要】
専門分野での勉学・研究に必要な日本語力のうち、特に「読解力」と「聴解力」の強化を目指す。

【学習目標】
「読む」ことの学習では、各自の専門分野の文章を独力で読んでいくための実践的な読解技術として、「読解のストラテジー」を身につけることを目標とする。
「聞く」ことの学習では、実際のニュースを正確に聞きとるために必要な語彙力と集中力を身につけることを目標とする。今期は練習用教材を利用してさまざまな内容の聞き取り練習を行う。

【講義計画】
第１回　【読解】授業の進め方、及びテキストの使い方についての説明
　　【聴解】ニュース「春一番」
第２回　【読解】第１課本文
　　【聴解】ニュース「大学生の生活費」
第３回　【読解】第１課実践練習
　　【聴解】ニュース「WHO調査」
第４回　【読解】第２課本文
　　【聴解】ニュース「新幹線停止」
第５回　【読解】第２課実践練習
　　【聴解】ニュース「発泡酒」
第６回　【読解】第３課本文
　　【聴解】ニュース「大型小売店」
第７回　【読解】第３課実践練習
　　【聴解】ニュース「インフルエンザ」
第８回　【読解】第４課本文
　　【聴解】ニュース「台風」
第９回　【読解】第５課本文
　　【聴解】ニュース「女性議員」
第10回　【読解】第６課本文
　　【聴解】ニュース「派遣社員」
第11回　【読解】第６課実践練習
　　【聴解】ニュース「携帯電話」
第12回　【読解】第７課本文
　　【聴解】ニュース「調査：震災」
第13回　【読解】第７課実践練習
　　【聴解】ニュース「リサイクル」
第14回　【読解】試験
　　【聴解】試験

【成績評価の方法】
試験　60%　出席　20%
提出物：10%　　授業参加態度：10%

【教科書】
一橋大学留学生センター　留学生のためのストラテジーを使って学ぶ文章の読み方 スリーエーネットワーク

【備考】
言語の授業では「講義を聞いて知識を得る」という受動的な態度ではなく、「授業に積極的に参加する」ことによって、自らの日本語力を高めることができる。そのために出席や授業参加態度を重視している。

科目名　クラス　講義区分	
日本語Ⅳａ　01＜秋＞	
村　中　淑　子	1単位

【講義概要】
前期に引き続き、大学の授業におけるレポートを書くための助けとなるような作業を行っていく。わかりやすく効果的な論の進め方、客観的な文章表現、引用のしかた、などを学ぶ。

【学習目標】
学問的な文章を書く、とはどのようなことであるか理解することを目標とする。

【講義計画】
第１回　オリエンテーション
第２回　レポートの書き方・その実践
第３回　レポートの書き方・その実践
第４回　レポートの書き方・その実践
第５回　レポートの書き方・その実践
第６回　レポートの書き方・その実践
第７回　レポートの書き方・その実践
第８回　レポートの書き方・その実践
第９回　レポートの書き方・その実践
第10回　レポートの書き方・その実践
第11回　レポートの書き方・その実践
第12回　レポートの書き方・その実践
第13回　レポートの書き方・その実践
第14回　まとめ

【成績評価の方法】
レポート　20%　出席　80%
出席点の中には、授業の中で書いて提出するレポート（複数回）への評価も含まれる。

【教科書】
テキストは教員がコピーを準備する。

科目名　クラス　講義区分	
日本語Ⅳａ　02＜秋＞	
串　田　真知子	1単位

【講義概要】
大学で学ぶには、論理的思考に基づいたレポート・論文作成の習得が不可欠である。ここでは日本語によるレポート・論文の基本的書き方を学習し、ゼミでの研究発表に備えたプレゼンテーションの方法（発表原稿を書き、口頭発表を行う）の学習などを行う。併せて日本・世界で起こっている事柄について、自分の意見をまとめ、発表し、ディスカッションする学習も行う。

【学習目標】
春学期に引き続き日本語によるレポート・論文の基本的書き方の学習を行う。それに加え、プレゼンテーションの方法も学習する。誰もが納得する論理性のあるレポートを書き、パソコンを使用してわかりやすくインパクトのある口頭発表をすることが目標である。

【講義計画】
第１回　イントロダクション
第２回　テーマ決定
第３回　マッピング
第４回　アウトライン①、アンケート
第５回　アウトライン②、アンケート集計
第６回　中心文と支持文、グラフ
第７回　パラグラフ・ライティング
第８回　キーワード、小見出し、参考文献
第９回　推敲
第10回　発表原稿
第11回　スライド作成
第12回　プレゼンテーションの方法
第13回　発表会
第14回　要約の仕方・まとめ
第15回　試験

【成績評価の方法】
試験　30%　レポート　30%　出席　10%
プレゼンテーション30%

【参考文献】
『ピアで学ぶ大学生の日本語表現』大島弥生他　ひつじ書房　４－89476－229－３
『知へのステップ』学習技術研究会編　くろしお出版　４－87424－247－２

【備考】
・プリントを配布
・遅刻・早退は３回で欠席１回と見なす。
・２/３以上の出席がなければ期末試験は受けられない。

科目名　クラス　講義区分	
日本語Ⅳｂ　01＜秋＞	
吉　岡　美　穂	1単位

【講義概要】
異文化コミュニケーション能力の育成：演習、ディスカッションを通して、自分とは異なる他者の意見を尊重し、異なる視点から物事を見る能力を養う。

【学習目標】
授業から自文化、多文化に対する理解を深めながら自己を見つめる演習をする。「日本人との関わり方」や「日本人との摩擦における問題の解決」について考えることを目的とする。

【講義計画】
第１回　オリエンテーション
第２回　価値観とは？
第３回　エクササイズ
第４回　家族観
第５回　結婚観
第６回　言語コミュニケーション
第７回　会話スタイル
第８回　非言語コミュニケーション
第９回　非言語コミュニケーションの種類
第10回　時間と空間
第11回　ビデオ鑑賞
第12回　異文化適応
第13回　まとめ
第14回　テスト

【成績評価の方法】
出席、レポート、試験、参加態度によって評価します。

【参考文献】
授業中に、その都度支持します。図書館で借りることも可能です。

【備考】
教材は担当者が配布します。

科目名　クラス　講義区分	
日本語Ⅳｂ　02＜秋＞	
清　水　明　子	１単位

【講義概要】
日本語Ⅲｂに引き続き、読解力と聴解力の強化を目指す。読解は新聞の社説を使用する。授業は講義形式ではなく、分担して発表形式で行い、クラスメートとの協働で学んでいく。聴解はテレビニュースを録画したものを使用する。

【学習目標】
【読解】春学期に学んだ「読解のストラテジー」を使って、論説文を正確に読み取ることを目標とする。各自が分担した社説についてクラスメートの質問に答え、説明し、正確に理解できているかを確認し合う。内容によっては背景などの補足説明も準備し、クラス全員がその内容を深く理解できるようにすることが望ましい。そのようなクラス活動を通して自分自身の力で問題を解決することができるようになる。
【聴解】テレビのニュースの内容を理解し、その内容についてディスカッションできるようになることが目標となる。そのためには単に聞くだけではなく、内容についての理解を深め、自分の意見をもてるようにすることが必要である。

【講義計画】
第１回　【読解】授業の進め方の説明、社説テーマの発表と分担
　　【聴解】ニュース視聴とディスカッション
第２回　【聴解】ニュース視聴とディスカッション
第３回　【読解】読解発表１．２
第４回　【読解】読解発表３．４
第５回　【聴解】ニュース視聴とディスカッション
第６回　【読解】読解発表５．６
第７回　【読解】読解発表７．８
第８回　【聴解】ニュース視聴とディスカッション
第９回　【読解】読解発表９．10
第10回　【読解】読解発表11。12
第11回　【聴解】ニュース視聴とディスカッション
第12回　【読解】読解発表13.14
第13回　【聴解】ニュース視聴とディスカッション
第14回　期末試験

【成績評価の方法】
試験　60%　出席　10%
発表：10%　　授業参加態度：10%　　提出物：10%

【教科書】
コピーを配布する。

【備考】
今期の授業では特に「授業に積極的に参加する」ことが求められる。そのために出席・発表・授業参加態度・提出物を重視している。
受講する学生数によって、授業計画を変更する可能性がある。

科目名　クラス　講義区分	
日本語学概論　＜春集＞	
有　川　康　二	４単位

【講義概要】
生物の脳には情報受信・発信用の運動知覚システムと、情報分析用の思考システムがある。ヒト祖先の脳の中に言語システムが自己組織化した。約200万年前のことである。寄生者の言語システムは、宿主である生物脳の中で生き延びるために、宿主の免疫システムという性質を擬装した。言語システムは構造情報というウイルス（抗原＝変数）をわざわざ作りだし、それを消去（ウイルスチェックオフ）することで文構造を組み立てるというメカニズムで宿主をだまし、宿主の拒否反応を回避した。ヒト脳の言語システムとは、ウイルスチェックを持つ擬装システムである。

【学習目標】
日本語学習者の質問。「は」に濁点がつくと、「ば」。でも、何故「な」に濁点をつけた「な゛」は発音できないの？「大型」は「おおがた」。なのに「大風」は「おおがぜ」とは言わない。何故？「病気の人」とは言うけど、「元気の人」とは言わないのは何故？「きれいです」は「きれいだ」とも言えるけど、「うつくしいです」は「うつくしいだ」と言えないのは何故？「猫が金魚が食べた」は変だけど、何故、変だと感じるの？この時、頭の中では何がどうなってるの？
日本語の母語話者は日本語を、文法など意識せずに自由に使える。日本語は馬鹿らしい程当たり前のことだ。しかし、日本語の音や文法の法則や仕組みを説明することはできない。（誰でも脳味噌は使えるが、その法則やメカニズムは説明できない。）「経験科学」の手法を用いてヒト脳の言語システムの法則とメカニズムを探る。科学は、誰もが当たり前過ぎて考えるのも馬鹿らしいと思う事柄に驚嘆することから始まる。その意味では、「自然言語（ことばをしゃべる）」は「重力（ものが落ちる）」や「光（明るい・暗い）」とともに科学の格好の対象となる。
日本語を三つの視点から概論する。（１）生物言語学の視点＝自然言語は、自然が創造した脳の突然変異と創発的自己組織化によって出現したが、その一般的性質とは何か？（２）日本語教育学の視点＝日本語を外国語として学ぶ人々にとって、日本語の客観的な説明とは何か？（３）哲学的視点＝私とは何者なのか？私はこの宇宙の中で何をし、老い、死んでいくのか？（大学とお寺でしか言われないので我満して考えて下さい。）

【講義計画】
第１回　・「もの」とは何か。「こころ」とは何か。
第２回　・「もの」とは何か。「こころ」とは何か。
第３回　・「もの」とは何か。「こころ」とは何か。
第４回　・「もの」とは何か。「こころ」とは何か。
第５回　・「もの」とは何か。「こころ」とは何か。
第６回　・「よい説明」とは何か。
第７回　・「よい説明」とは何か。
第８回　・「よい説明」とは何か。
第９回　・「よい説明」とは何か。
第10回　・「よい説明」とは何か。
第11回　・言語の構造
第12回　・言語の構造
第13回　・言語の構造
第14回　・言語の構造
第15回　・言語の構造
第16回　・脳とコンピュータ
第17回　・脳とコンピュータ
第18回　・脳とコンピュータ
第19回　・脳とコンピュータ
第20回　・脳とコンピュータ
第21回　・言語計算におけるウィルスチェックシステム
第22回　・言語計算におけるウィルスチェックシステム
第23回　・言語計算におけるウィルスチェックシステム
第24回　・言語計算におけるウィルスチェックシステム
第25回　・言語計算におけるウィルスチェックシステム
第26回　予備
第27回　予備
第28回　予備
第29回　予備
第30回　期末試験

【成績評価の方法】
試験　100%　レポート　０%　出席　０%

筆記試験（教科書・配布プリント・自筆ノートは持ち込み可）と平常点で評価する。

【教科書】
有川康二 脳科学基礎論としての生物言語学 三恵社

【参考文献】
酒井邦嘉（2002）『言語の脳科学-脳はどのようにことばを生みだすか』中公新書
寺村秀夫（1982）『日本語のシンタクスと意味１』くろしお出版
寺村秀夫（1984）『日本語のシンタクスと意味２』くろしお出版
野村奉幸（2005）『プラトンと考えることばの獲得ー成長する文法・計算する言語器官』くろしお出版

科目名　クラス　講義区分	
日本語教授法Ⅰ　＜通期＞	
有　川　康　二	４単位

【講義概要】
初級日本語の文法について、日本語教師が自分の頭の中を整理しておかければならないことを精選して解説する。しかし、実際の授業現場では教師が滔々と文法解説をするのは最悪の語学の授業である。実際の語学授業ではドリル（練習、稽古）が全てである。よい日本語教師は、学習者に日本語をがんがん話させ、聞かせ、読ませ、書かせる。授業では稽古をやる。学習者を飽きさせない稽古をやる。

【学習目標】
どんな教授法（教え方の哲学や方法）、どんな教科書にも長所と短所がある。要は、様々な教授法や教科書の長所をなるべく多く利用することである。日本語の初級文法に焦点を絞り、（教師のための）実践的な文法整理と、（学習者のための）効果的なドリルの紹介やシミュレーションを行う。
一定の制限された状況（教室内）や時間内（初級の集中コースとして例えば週15時間で約６か月）に、日本語を母語としない人に日本語文法全体の基礎的な体系を順序よく説得的に説明し、効果的に練習（ドリル）を行い、「使える日本語」を身につけてもらうためには、教える側に特別の知識と技術が必要となる。何語でもそうだが、ある言葉が話せることと、その言葉を外国語として他者に体系的、説得的に教えることができる能力とは別物である。同時に、「何故、私は外国語を学ぶのか？何故、私は日本語を外国語として教えるのか？」という問いを問い続けなくてはならない。

【講義計画】
第１回　はじめに
　　外国語教授法のイロハ
　　どこで日本語を教えるのか？
　　日本語を教える仕事とは何か？
　　本学で日本語教員資格証書を得るとどんな仕事に就けるのか？
第２回　指示表現（コソアド）
第３回　指示表現（コソアド）
第４回　形容詞
第５回　形容詞
第６回　存在表現
第７回　存在表現
第８回　時制（テンス）と相（アスペクト）
第９回　時制（テンス）と相（アスペクト）
第10回　保留形（テ形）
第11回　保留形（テ形）
第12回　願望の助動詞ta/gar
第13回　願望の助動詞ta/gar
第14回　可能の助動詞e/（ra）ra
第15回　可能の助動詞e/（ra）ra
第16回　様態・推量の助動詞ソウダ/ヨウダ/ラシイ
第17回　様態・推量の助動詞ソウダ/ヨウダ/ラシイ
第18回　テイル・テアル・テオク（窓ガ開イテイル/開ケテアル/窓ヲ開ケテオク）
第19回　テイル・テアル・テオク（窓ガ開イテイル/開ケテアル/窓ヲ開ケテオク）
第20回　授受表現（(テ）モラウ/（テ）クレル/（テ）アゲル等）
第21回　授受表現（(テ）モラウ/（テ）クレル/（テ）アゲル等）
第22回　態（受身・使役・使役受身）
第23回　態（受身・使役・使役受身）
第24回　条件表現（雨ガ降ッタラ～/降ルナラ/降レバ/降ルト）
第25回　条件表現（雨ガ降ッタラ～/降ルナラ/降レバ/降ルト）
第26回　敬語（オ読ミニナル/オ読ミスル/ナサル/イタス等）
第27回　敬語（オ読ミニナル/オ読ミスル/ナサル/イタス等）
第28回　予備
第29回　予備
第30回　期末試験

【成績評価の方法】
試験　100％　レポート　０％　出席　０％
筆記試験（教科書・配布プリント・自筆ノートは持ち込み可）と平常点で評価する。

【教科書】
東京YMCA日本語学校 入門日本語教授法 創拓社

な行

【参考文献】
三浦昭（1983）『初級ドリルの作り方』凡人社
岡崎敏雄（1989）『日本語教育の教材-分析・使用・作成』アルク
Makino,S. and Tsutsui,M.（1986）A dictionary of basic Japanese grammar-日本語基本文法辞典, The Japan Times.

科目名　クラス　講義区分	
日本語教授法Ⅱ［4］＜通期＞	
友　沢　昭　江	4単位

【講義概要】
日本語学習者の多様化に対応するためにさまざまな教授法や教材が開発されています。実際の教育に携わる者は、学習者の学習目標や言語背景などを考慮に入れ、最も効果的な成果をあげるために最適な教授法や教材を選択する眼をもたなければなりません。本講では教授法Ⅲで行う模擬授業などに必要な教授法の基本と教材の分析研究を中心に学びます。

【学習目標】
この授業の目標は日本語を教えるのに必要な基礎的な知識（日本語に関すること、教授法に関すること）を獲得すること、一般によく使用されている教科書をグループに分かれて詳細に分析し発表することです。

【講義計画】
第１回　日本語を教えるということ（１）
第２回　日本語を教えるということ（２）
第３回　いろいろな外国語教授法（１）
第４回　いろいろな外国語教授法（２）
第５回　初級の教え方ー（発音／会話）（１）
第６回　初級の教え方（発音／会話）（２）
第７回　初級の教え方（文字／読解）（１）
第８回　初級の教え方（文字／読解）（２）
第９回　初級の教え方ービデオ視聴
第10回　初級の教え方ービデオ視聴
第11回　初級の教え方ービデオについての発表
第12回　初級の教え方ー初級教科書の分析（１）
第13回　初級の教え方ー初級教科書の分析（２）
第14回　中間試験
第15回　中間試験の講評
第16回　初級の教え方ー初級教科書の分析（３）
第17回　初級の教え方ー初級教科書の分析（４）
第18回　教科書分析のグループ発表（１）
第19回　教科書分析のグループ発表（２）
第20回　教科書分析のグループ発表（３）
第21回　教科書分析のグループ発表（４）
第22回　予備日
第23回　中上級の教え方ー初級との違いについて
第24回　中級教科書の分析（１）
第25回　中級教科書の分析（２）
第26回　目的・技能別教科書の分析
第27回　インターネット利用の日本語教育
第28回　上級教科書の分析
第29回　期末試験
第30回　期末試験の講評

【成績評価の方法】
試験　40%　レポート　20%　出席　40%
学期の中間期と学期末に試験を行います。それ以外にも授業での発言、グループ発表、および出席状況を総合的に考慮して評価を行います。資格関連の科目なので、出席は最重要視されます。

【教科書】
高見澤孟『新・はじめての日本語教育２－日本語教授法入門』（2004）アスク

【参考文献】
・『新・はじめての日本語教育１－日本語教育の基礎知識』（高見澤孟他、アスク、2004）
・『成長する教師のための日本語教育ガイドブック　上』（川口義一＆横溝紳一郎、びつじ書房、2005）
・『成長する教師のための日本語教育ガイドブック　下』（川口義一＆横溝紳一郎、びつじ書房）
・『初級ドリルの作り方』（三浦昭、凡人社）
・『初級を教える人のための日本語文法ハンドブック』（庵功雄他、スリーエーネットワーク）
・『中上級を教える人のための文法ワークブック』（庵功雄他、スリーエーネットワーク）

科目名　クラス　講義区分	
日本語教授法Ⅲ［4］　＜春集＞	
友　沢　昭　江	4単位

【講義概要】
本講では日本語学および日本語教授法関連の授業を受講した後、その知識や経験を統合して、効果的な教育を行うための実践力の養成を目的とします。
　知識として獲得したことをいかに分かりやすく提示し、学習者のもつ多様なニーズや問題に適切に対応するかを実際の授業形態の中で学びます。そのため、原則として教授法関連の基本的な科目である日本語教授法Ⅰと日本語教授法Ⅱをすでに履修済みの学生のみの受講を認めます。

【学習目標】
・様々な教授法をビデオによるモデル授業を見て比較検討します。
・模擬授業の準備段階として、基本的な教授項目をどのように導入するか、またそのための教案をどのように作成するかを考えます。
・グループ単位（4～5名）で実際の授業を組み立て、模擬授業（1回20分程度を異なる教授法に基づいて2回）として発表します。実習を担当する学生以外の人は学習者の役割を演じる、授業を観察してコメントを述べる、各自の観察結果を評価表に書き入れるなどが求められ、全員参加で行います。
・実際の日本語授業（学内）を見学し、レポートを作成したり、夏期・春期休暇中に学外機関（日本国内および海外の提携大学）での教育実習に参加します（希望者のみ）。

【講義計画】
第1回　授業計画についての説明
第2回　教授法研究ー初級レベル（1）
第3回　教授法研究ー初級レベル（2）
第4回　教授法研究ー初級レベル（3）
第5回　教授法研究ー初級レベル（4）
第6回　第一回模擬授業の準備ーグループ分け・教授項目の選定
第7回　教案について
第8回　模擬授業1回目（構造シラバスに基づく）（1）
第9回　模擬授業1回目（構造シラバスに基づく）（2）
第10回　模擬授業1回目（構造シラバスに基づく）（3）
第11回　第二回模擬授業の準備ーグループ分け・教授項目の選定
第12回　予備日
第13回　模擬授業2回目（機能シラバスに基づく）（1）
第14回　模擬授業2回目（機能シラバスに基づく）（2）
第15回　模擬授業2回目（機能シラバスに基づく）（3）
第16回　グループ発表に関する全体の講評
第17回　教授法研究ー中級レベル（1）
第18回　教授法研究ー中級レベル（2）
第19回　教授法研究ー中級レベル（3）
第20回　教授法研究ー上級レベル
第21回　第三回模擬授業の準備ー教授項目の選定
第22回　予備日
第23回　模擬授業3回目（個人発表）（1）
第24回　模擬授業3回目（個人発表）（2）
第25回　模擬授業3回目（個人発表）（3）
第26回　模擬授業3回目（個人発表）（4）
第27回　模擬授業3回目（個人発表）（5）
第28回　模擬授業全体の講評と相互評価の検証
第29回　日本語教師という仕事について
第30回　まとめ

【成績評価の方法】
出席　50%
・ノートに毎回の授業をまとめ、指定された課題もそこに記入し、それを適宜提出することで出席状況と授業の理解度を確認します。
・グループ単位で行う模擬授業は学生間の相互評価を行います（各人が評価表に記入し、コメントはすべてフィードバックします）。
・日本語教師資格関連の最終段階の授業なので、基本的には全回出席が求められます。

【教科書】
　実習形態の授業なので、指定する教科書はありません。使用する資料については必要に応じて教員が準備、配布します。

【参考文献】

・『成長する教師のための日本語教育ガイドブック　上・下』（川口義一＆横溝紳一郎　ひつじ書房、2005）
・『コミュニケーションのための日本語教育文法』（野田尚史編、くろしお出版、2005）
・『よくわかる教授法』（小林ミナ、アルク、1998）
・『日本語教授法を理解する本ー実践編』（三牧陽子、バベルプレス、1996）
・『教え方の基本』（丸山敬介　京都日本語学校、1995）
・『日本語教育論集』（吉田弥寿夫編、学習研究社、1991）
・『実践日本語教授法』（名柄迪監修　中西家栄子他　バベルプレス、1991）
・『外国語教育理論の史的発展と日本語教育』（名柄迪他、アルク、1989）

科目名　クラス　講義区分	
日本語の音声　＜春集＞	
村　中　淑　子	４単位

【講義概要】
文字にすれば全く同じ文であっても、発音を聞くと、外国人学習者である、あるいは自分と異なる地域の出身者である、とわかる場合が多い。語彙や文法ではなく、音声の特徴だけでも、違いがわかるわけである。音声のどこがどう違っているのだろうか。「なんとなく違う」というのではなく、「音声を分析的にとらえる」ための知識を身につけることを目的とする。日本語の具体的な音声について、口の中のどの部分がどう使われているのか、あるいは長さ・高さ・強さがどうなっているのか、などをひとつひとつ自分の口と耳で確認しながら学ぶ。

【学習目標】
日本語の母音・子音・アクセント・イントネーション・リズム等について、具体的に理解し分析的に把握すること、および、日本語学習者が日本語を習得する上で難しいと感じる音声上の特徴について理解することが目標である。

【講義計画】
第１回　音声学とは
第２回　日本語の母音
第３回　日本語の子音１
第４回　日本語の子音２
第５回　日本語の子音３
第６回　特殊拍１
第７回　特殊拍２
第８回　音声と音韻
第９回　拍と音節とリズム
第10回　母音の無声化
第11回　これまでのまとめ(１)
第12回　日本語のアクセント１
第13回　日本語のアクセント２
第14回　日本語のアクセント３
第15回　日本語のアクセント４
第16回　日本語のアクセント５
第17回　イントネーションとプロミネンス
第18回　ポーズとリズム
第19回　これまでのまとめ(２)
第20回　日本語教育における音声教育１
第21回　日本語教育における音声教育２
第22回　日本語教育における音声教育３
第23回　日本語教育における音声教育４
第24回　日本語教育における音声教育５
第25回　日本語教育における音声教育６
第26回　日本語教育における音声教育７
第27回　日本語教育能力検定試験における音声問題１
第28回　日本語教育能力検定試験における音声問題２

【成績評価の方法】
試験　50%　出席　50%
出席点の中には、授業中に行なわれる小テストや小レポートの結果も含まれる。

【教科書】
テキストは使用しない。プリントを配布する。参考文献は必要に応じて自習することが望まれる。

【参考文献】
国際交流基金日本語国際センター『教師用日本語教育ハンドブック⑥発音改訂版』(凡人社) 1990年
文化庁『日本語教育指導参考書１　音声と音声教育』(大蔵省印刷局) 1971年
天沼寧・大坪一夫・水谷修『日本語音声学』(くろしお出版) 1978年
松崎寛・河野俊之『よくわかる音声』(アルク) 1998年
斉藤純男『日本語音声学入門』(三省堂) 1997年

【備考】
〔08L生〕のみ履修可

科目名　クラス　講義区分	
日本語文法論　＜秋集＞	
有　川　康　二	４単位

【講義概要】
母なる自然が創造したヒト脳の言語システムの法則とメカニズムを調べる。

【学習目標】
人間の脳の言語システムは、自然がつくった複雑な情報処理システムである。言語システムの意味と構造の情報処理の法則とメカニズムを調べる。例えば、「太郎は毎日料理と掃除をする」は変ではないが、「太郎は毎日料理をすると掃除をする」は変である。「John knows Mary」は変ではないが、「太郎は花子を知る」は変である。何故、変なのか。この時、頭の中で何が起こっているのか。「掃除」は名詞なのか、動詞なのか。そもそも名詞と動詞を分ける根拠は何か。小学校の時に主語という語を習ったが、「象は鼻が長い」の主語は何か。「花子が太郎が好きなこと」では主語は二つか。「あ、雨だ！」では主語はないのか。

【講義計画】
第１回　はじめに
消化の法則とメカニズムを理解するために胃腸という臓器を調べます。免疫の法則とメカニズムを理解するために血液やリンパ系細胞等の免疫システムを調べます。この授業では、言語情報処理の法則とメカニズムを理解するためにヒト脳という臓器を調べます。ヒト脳という臓器を解剖するのではなく、みなさんひとりひとりが日本語を使って自分の脳の実験をします。
第２回　・日本語学習者のミスから日本語の法則を探る
第３回　・日本語学習者のミスから日本語の法則を探る
第４回　・品詞分類の根拠（言語情報のリトマス試験紙）
第５回　・品詞分類の根拠（言語情報のリトマス試験紙）
第６回　・品詞分類の根拠（言語情報のリトマス試験紙）
第７回　・主語とは何か。(「～は」「～が」が主語という定義は間違い)
第８回　・主語とは何か。(「～は」「～が」が主語という定義は間違い)
第９回　・主語とは何か。(「～は」「～が」が主語という定義は間違い)
第10回　・国語で習った活用表は矛盾だらけ
第11回　・国語で習った活用表は矛盾だらけ
第12回　・国語で習った活用表は矛盾だらけ
第13回　・「もう食べた？」「いや、まだ食べなかった。」が変なわけ
第14回　・「もう食べた？」「いや、まだ食べなかった。」が変なわけ
第15回　・「もう食べた？」「いや、まだ食べなかった。」が変なわけ
第16回　・言語情報処理におけるウィルスチェックのメカニズム
第17回　・言語情報処理におけるウィルスチェックのメカニズム
第18回　・言語情報処理におけるウィルスチェックのメカニズム
第19回　・言語情報処理におけるウィルスチェックのメカニズム
第20回　・言語システムの自己組織化
第21回　・言語システムの自己組織化
第22回　・言語システムの自己組織化
第23回　・言語システムの自己組織化
第24回　・言語情報計算における経済性原理
第25回　・言語情報計算における経済性原理
第26回　・言語情報計算における経済性原理
第27回　・言語情報計算における経済性原理
第28回　予備
第29回　予備
第30回　期末試験

【成績評価の方法】
試験　100%　レポート　０%　出席　０%
筆記試験（教科書・配布プリント、自筆ノートは持ち込み可）と平常点で評価する。

【教科書】
有川康二 脳科学基礎論としての生物言語学 三恵社

【参考文献】
寺村秀夫（1982)『日本語のシンタクスと意味１』くろしお出版
寺村秀夫（1984)『日本語のシンタクスと意味２』くろしお出版
畠山雄二（2004)『情報科学のための理論言語学入門－脳内文法のしくみを探る』丸善
野村奉幸（2005)『プラトンと考えることばの獲得－成長する文法・計算する言語器官』くろしお出版

科目名　クラス　講義区分	
日本史　01＜通期＞	
横　山　篤　夫	4単位

【講義概要】
本講義では、日本史全般を一般的に講義するのではなく、いくつかの視角から具体的事例を取り上げて講義する。同時に聞き取りやフィールドワーク、文献調査などの日本史学習の方法についても、実践的に指導する。それと並行して実際に各自でレポートを作成し、学んだことを身に着ける機会とする。

【学習目標】
毎回の講義について受講生から質問や意見書いてもらい、次の時間はそれに対する講義者の回答、見解を述べながら展開する。講義の前半は主に前近代、後半は近現代をとり上げる。特に近代の戦争、兵役と戦没者の問題は現代とつながる課題ともなっているが、陸軍墓地や慰霊・追悼の歴史的推移を検討しながら歴史を見る眼を養うと共に、総合的に歴史学の隣接諸学の成果に学ぶことも目指す。その上で各自でフィールドワークと文献を調査しレポートを纏める。

【講義計画】
第１回　授業ガイド、今世界はどうなっているか、日本史をどう学ぶか
第２回　授業ガイド、今世界はどうなっているか、日本史をどう学ぶか
第３回　課題レポートガイド（聞きとり、フィールドワーク、文献調査について）
第４回　課題レポートガイド（聞きとり、フィールドワーク、文献調査について）
第５回　具体的事例展開（主に前近代）
たとえばヤマト王権と日本、壬申の乱と教科書の記述、御霊信仰の成立と展開、茶道の歴史、世界で一番識字率の高かった江戸時代などについて適宜講義する。なお希望者対象にフィールドワーク（旧真田山陸軍墓地を歩く）も開催する予定。
第６回　具体的事例展開（主に前近代）
第７回　具体的事例展開（主に前近代）
第８回　具体的事例展開（主に前近代）
第９回　具体的事例展開（主に前近代）
第10回　具体的事例展開（主に前近代）
第11回　具体的事例展開（主に前近代）
第12回　具体的事例展開（主に前近代）
第13回　具体的事例展開（主に前近代）
第14回　具体的事例展開（主に前近代）
第15回　具体的事例展開（主に前近代）
第16回　具体的事例展開（主に近現代）
たとえばご一新からご維新へ、偽官軍と人民非武装、陸海軍墓地と靖国神社の成立、大正デモクラシー下の軍隊、遺骨の還らなくなった戦争、共生社会と東アジア共同体構想などを適宜講義する。なお、講義の中でゲストスピーカーによる体験の聞きとりなども組み込む予定。
第17回　具体的事例展開（主に近現代）
第18回　具体的事例展開（主に近現代）
第19回　具体的事例展開（主に近現代）
第20回　具体的事例展開（主に近現代）
第21回　具体的事例展開（主に近現代）
第22回　具体的事例展開（主に近現代）
第23回　具体的事例展開（主に近現代）
第24回　具体的事例展開（主に近現代）
第25回　具体的事例展開（主に近現代）
第26回　具体的事例展開（主に近現代）
第27回　具体的事例展開（主に近現代）
第28回　具体的事例展開（主に近現代）
第29回　具体的事例展開（主に近現代）
第30回　まとめ

【成績評価の方法】
レポート　50%　出席　50%
毎回講義の後で授業についての感想と質問と、その時間の講義のキーワードを書いて提出してもらい、それで出席を確認する。毎時間課題レポートの指導を含めるので、レポートの作成には講義を受講しないと困難である。

【参考文献】
小田康徳・横山篤夫他編著『陸軍墓地がかたる日本の戦争』ミネルヴァ書房、2006年をレポート作成のために是非読むことを求める。

科目名　クラス　講義区分	
日本史　02＜秋集＞	
寺　木　伸　明	4単位

【講義概要】
講義の概要は、以下のとおりである。
1　日本史学習の目的
2　日本史の見方と指導の基本的留意点
3　人類と日本人の起源の理解と指導の留意点
4　縄文・弥生時代の社会と文化の理解と指導の留意点
5　古代社会と文化の理解と指導の留意点
6　中世社会と文化の理解と指導の留意点
7　近世社会と文化の理解と指導の留意点
8　近現代社会と文化の理解と指導の留意点
9　日本史学習指導の課題
上記の項目について、できるだけビデオなどの聴覚教材を活用し、また、パワーポイントを使って写真や図版を見せることによって、受講生自身が、日本史そのものに興味を持ち、日本史およびその学習指導についての基礎的知識を確かなものにし、かつ、日本史学習指導のスキルが身に付くように努力したい。

【学習目標】
本講義の到達目標は、日本史学習の目的、日本史学習指導のための基礎知識、指導方法などについて理解を深め、かつ日本史学習指導のスキルを習得することである。

【講義計画】
第１回　授業の到達目標、授業の概要、授業計画、参考書、学生に対する授業評価等の説明
第２回　日本史学習の目的
第３回　歴史とは何か、日本史の見方
第４回　指導方法の基本的留意点
第５回　人類と日本人の起源――最近の研究成果を踏まえて
第６回　人類と日本人の起源についての指導の留意点
第７回　縄文時代の社会と文化およびその指導の留意点
第８回　弥生時代の社会と文化およびその指導の留意点
第９回　小国家の成立と邪馬台国およびその指導の留意点
第10回　古墳文化と大和政権・仏教文化およびその指導の留意点
第11回　律令国家の構造と身分制度およびその指導の留意点
第12回　平安京と摂関政治およびその指導の留意点
第13回　平安文化およびその指導の留意点
第14回　武士の台頭と鎌倉幕府の成立およびその指導の留意点
第15回　鎌倉文化およびその指導の留意点
第16回　南北朝の内乱と室町幕府の成立およびその指導の留意点
第17回　室町文化およびその指導の留意点
第18回　戦国の動乱と統一政権の成立およびその指導の留意点
第19回　幕藩体制の成立と近世身分制度およびその指導の留意点
第20回　幕藩体制の展開と近世の文化およびその指導の留意点
第21回　開港・倒幕と明治維新およびその指導の留意点
第22回　明治政府と自由民権運動およびその指導の留意点
第23回　立憲国家の成立、日清・日露戦争およびその指導の留意点
第24回　第一次世界大戦と日本およびその指導の留意点
第25回　大正デモクラシーとその後の軍部の台頭およびその指導の留意点
第26回　日中戦争と太平洋戦争およびその指導の留意点
第27回　占領と改革およびその指導の留意点
第28回　高度成長と社会の変化、現代の世界と日本およびその指導の留意点
第29回　日本史学習指導の課題と講義のまとめ
第30回　試験

【成績評価の方法】
学生に対する評価
評価は、授業と自己学習を通じて、どれだけ日本史学習の目的、日本史全般にわたる基礎知識、指導方法などについて理解を深めたか、を基本的な観点とする。毎回、感想カードに講義の感想・意見・疑問などを書いて提出してもらう。これを出席点としてカウントする。学年末試験の点数を基本にして、出席点を加味して総合的に評価する。

【教科書】
テキストは使用しないが、適宜、資料を配布する。

【参考文献】
適宜、指示する。

科目名　クラス　講義区分	
日本事情［外国人留学生用］　＜秋集＞	
友　沢　昭　江	4単位

【講義概要】
この授業は外国人留学生を対象とするもので、彼らがもっとも関心をもつ現代日本社会のさまざまな領域についてテーマを決めて考察します。日本社会についての知識をえるというよりは、なぜそういう現象となるのかについてディスカッションを通じて学生自身が考え、自分の意見をまとめることをめざします。ディスカッションの幅を拡げるために、日本語教師をめざす学生にも参加を求める予定です。

【学習目標】
その時々に応じたタイムリーなテーマを設定し、それに関する新聞記事を読んだりテレビ番組などを見ます。その後、それを土台にしてディスカッションを行い、お互いの意見交換をめざします。テーマごとに簡単な課題を提出します。新しい単語や表現がどんどん導入されるので、使い慣れた日本語辞書を持参してください。扱うテーマは現代日本の社会、文化、経済、政治、教育、娯楽などさまざまです。授業は基本的にすべて日本語で行うので、中級以上の日本語能力をもつ学生が対象となります。

【講義計画】
第１回　授業の目標説明と参加学生の自己紹介、および日本について関心のあるテーマを各自が考える
第２回　日本の伝統文化（１）
第３回　日本の伝統文化（２）
第４回　日本の伝統文化（３）
第５回　日本の近代（１）
第６回　日本の近代（２）
第７回　日本の近代（３）
第８回　現代の世相（１）若者文化
第９回　現代の世相（２）高齢者と少子化
第10回　現代の世相（３）女性
第11回　現代の世相（４）女性
第12回　日本とアジア（１）
第13回　日本とアジア（２）
第14回　日本とアメリカ（１）
第15回　日本とアメリカ（２）
第16回　日本の教育問題（１）
第17回　日本の教育問題（２）
第18回　日本の現代文化（１）
第19回　日本の現代文化（２）
第20回　）日本の現代文化（３）
第21回　関西の文化と歴史（１）
第22回　関西の文化と歴史（２）
第23回　関西の文化と歴史（３）
第24回　予備日
第25回　学生によるプリゼンテーション（１）
第26回　学生によるプリゼンテーション（２）
第27回　学生によるプリゼンテーション（３）
第28回　学生によるプリゼンテーション（４）
第29回　プリゼンテーションの講評と評価
第30回　まとめ

【成績評価の方法】
試験　50%　出席　50%
　出席を第一に重視します。また新聞記事やテレビ番組で知った新出の語彙についての小テスト、授業で取り扱ったテーマについての確認テスト、各自が選んだ「日本」についての発表内容（一人10分程度）、授業への参加姿勢などを総合的に判断します。

【参考文献】
特にありません。テーマに応じて参考になる文献や資料を紹介する予定です。

【備考】
留学生のみを対象とする。（日本語で行うので、日本語能力がある程度必要）

科目名　クラス　講義区分	
日本文化研究－交流史からみた伝統と芸術　＜秋集＞	
片　平　　幸	4単位

【講義概要】
本講義では、19世紀末から20世紀初頭を対象として日本文化が世界にどのように広まっていたのか、受容のプロセスを考えていく。世界における日本イメージの変遷と、それに対する日本側の応答を文献や画像、そして映像など多面的な資料を読み解くことを通じて考察していく。交流史的な観点から、日本の芸術や伝統文化の独自性の規定や価値の創出がなされていく過程を分析する。
日本の文化が外部からのまなざしを自覚することによって、どのような価値や概念が創出され、自己規定したのかなどについて考えていきたい。

【学習目標】
西欧から注がれた日本への眼差しと、その視線への日本側の応答の作用と構造を、近代という文脈に照らし合わせ、相対的な日本文化の理解を深めることを目標とする。

【講義計画】
第１回　オリエンテーション
　参考文献や小テスト、期末テストや成績の配分など今学期の授業について説明するので、なるべく出席してください。
第２回　世界の日本研究の動向
第３回　「表象」をめぐる問題系
第４回　19世紀ヨーロッパの「日本」表象
第５回　19世紀ヨーロッパの「日本」表象
第６回　小テスト
第７回　19世紀ヨーロッパの異文化表象を考える――理論
第８回　19世紀ヨーロッパの異文化表象を考える――理論
第９回　19世紀ヨーロッパの異文化表象を考える――理論
第10回　19世紀ヨーロッパの異文化表象を考える――絵画を通じて
第11回　19世紀ヨーロッパの異文化表象を考える――絵画を通じて
第12回　19世紀ヨーロッパの異文化表象を考える――オペラ作品を通じて
第13回　19世紀ヨーロッパの異文化表象を考える――バレエ作品を通じて
第14回　小テスト
第15回　19世紀　海を渡る日本文化――絵画
第16回　19世紀　海を渡る日本文化――絵画
第17回　19世紀　海を渡る日本文化――絵画
第18回　近代日本の自画像――日本人による日本文化論
第19回　近代日本の自画像――日本人による日本文化論
第20回　近代日本の自画像――日本人による日本文化論
第21回　小テスト
第22回　欧米の日本論の系譜
第23回　欧米の日本論の系譜
第24回　欧米の日本論の系譜
第25回　「独自性」はいかにして規定されるのか――日本庭園を事例として
第26回　「独自性」はいかにして規定されるのか――日本庭園を事例として
第27回　「独自性」はいかにして規定されるのか――日本庭園を事例として
第28回　まとめ

【成績評価の方法】
出席（30%）、小テスト（30%）、期末テスト（40%）

【参考文献】
適宜、指示します

科目名　クラス　講義区分	
日本文化研究－日本語の特質　＜通期＞	
藤　原　　健	4単位

【講義概要】
「日本語はどのような言語なのか」ということをテーマに、様々な面から日本語の特徴を考え、その特質に迫りたい。
日本語は世界の他の言語と比べると特異な特徴が多く、いかなる語族・語派にも属さない言語である。日本語の文の構造を中心に、単語の形態的・統語的な基本となる特徴を押さえ、日本人が日本語をいかに使用しているかについても考えてみたい。
なお、日本語の特徴に関して、「語彙・意味」と「文字・表記」については、それぞれ「語彙・意味論」、「文字・表記論」の講義で扱うので、興味があれば併せての受講を勧める。

【学習目標】
講義概要に書いた内容を、下記のテキストを元に考えていく。
テキストは2冊必要である。ただし、授業では交互に使用することもある。（1冊ずつ目次の順に進めるわけではない。）
日本語だけでは特徴がうまく説明できない場合は、適当な例を英語やフランス語から拾う。

【講義計画】
第1回　1．日本語の文の構造
　　1）自律文
第2回　　2）非自律文
第3回　　3）題説構文と叙述構文
第4回　2．題説構文
　　1）題説構文
第5回　　2）題目化と格助詞の「ハ」
第6回　　3）題目の種類
第7回　3．叙述構文
　　1）叙部と述部
第8回　　2）叙部の構造（1）
第9回　　2）叙部の構造（2）
第10回　　3）修飾部
第11回　　4）連体修飾
第12回　4．指示詞
第13回　5．人称と主語
　　1）人称の表し方
第14回　　2）敬語
第15回　テスト
第16回　6．述部の構造
　　1）述部の要素
第17回　　2）ヴォイス
第18回　　3）アスペクト
第19回　　4）テンス
第20回　　5）ムード
第21回　　6）陳述
第22回　7．単語の形態
　　1）名詞の性
第23回　　2）名詞の数、および数詞
第24回　　3）名詞の格
第25回　　4）動詞の形態と種類
第26回　　5）形容詞他
第27回　8．言語表現
　　1）語順
第28回　　2）あいまいさ
第29回　　3）「はい」と「いいえ」
第30回　テスト

【成績評価の方法】
試験　100％
定期試験（春学期、秋学期各1回）により評価する。
詳しくは、授業初回に説明する。

【教科書】
小池清治『日本語はどんな言語か』（ちくま新書）筑摩書房
金田一春彦『日本語（新版）』（下）岩波書店
『日本語（新版）』（上）は講義では使用しない。

【参考文献】
『日本語（新版）』（上）　金田一春彦　岩波書店

科目名　クラス　講義区分	
日本文化研究－柳田国男を再読する　＜春集＞	
梅　山　秀　幸	4単位

【講義概要】
今世紀初頭、柳田国男は二度にわたって、かなり長期に岐阜県の視察旅行を行っており、その成果は『山の人生』および『毛坊主考』といった作品の中に取り入れられている。だが、その足跡をたどりつつ、柳田の叙述を読み直すとき、かなりの創作といっていいものが目立つ。それらの意味を考えるとともに、柳田の多方面に及ぶ業績を通して、彼の思想の現代にもつ意味を考えてみたい。

【学習目標】
さまざまな事例を挙げながら、粘り強く思考する、柳田国男の文章に慣れるとともに、日本の失われた古い習俗を掘り起こすことによって、現代の社会のあり方を考える材料にしたい。

【講義計画】
第1回　柳田国男の人生―文学と民俗学―
第2回　『山の人生』を読む（1）
第3回　『山の人生』を読む（2）
第4回　「新四郎さの告白」を読む
第5回　『毛坊主考』を読む（1）
第6回　『毛坊主考』を読む（2）
第7回　『秋風帖』を読む
第8回　飛騨というところ
第9回　飛騨の真宗（1）
第10回　飛騨の真宗（2）
第11回　『遠野物語』を読む（1）
第12回　『遠野物語』を読む（2）
第13回　『遠野物語』を読む（3）
第14回　北方への視線
第15回　ねぶた
第16回　美保神社の青柴垣の神事
第17回　『菅原伝授手習鑑』を分析する
第18回　「松王健児の物語」
第19回　「人を神の祀る風習」
第20回　「一つ目小僧その他」
第21回　歌舞伎十八番『暫』
第22回　『木綿以前のこと』を読む
第23回　『おあん物語』を読む
第24回　「桃太郎の誕生」
第25回　「髪長姫」と「トリスタンとイズー」
第26回　『海南小記』―南方への視線―（1）
第27回　『海南小記』―南方への視線―（2）
第28回　折口信夫の仕事
第29回　南方熊楠の仕事
第30回　まとめ

【成績評価の方法】
試験　60％　レポート　20％　出席　20％

【参考文献】
『柳田国男全集』（ちくま文庫）

科目名　クラス　講義区分	
日本文化史　＜春集＞	
梅　山　秀　幸	4単位

【講義概要】
日本にはさまざま演劇があり、今日まで伝承されている。授業では特に江戸時代に発展した浄瑠璃および歌舞伎を取り上げて、その成立した社会の背景をさぐりながら、映像に触れてその面白さを味わいたいと思う。

【学習目標】
「悪所」といわれる芝居小屋の中に世界がある。敵討ちに快哉を叫び、けなげな子どもの犠牲と男女の心中に涙を流し、まずは堪能して欲しい。

【講義計画】
第１回　『夕霧阿波鳴門』
第２回　『色道大鏡』
第３回　『助六由縁江戸桜』（１）
第４回　『助六由縁江戸桜』（２）
第５回　コメディ・フランセーズの『ドン・ジュアン』
第６回　『暫』
第７回　『曽根崎心中』（１）
第８回　『曽根崎心中』（２）
第９回　『冥土の飛脚』（１）
第10回　『冥土の飛脚』（２）
第11回　『伊勢音頭恋寝刃』（１）
第12回　『伊勢音頭恋寝刃』（２）
第13回　『義経千本桜』（１）
第14回　『義経千本桜』（２）
第15回　『菅原伝授手習鑑』（１）
第16回　『菅原伝授手習鑑』（２）
第17回　『近江源氏先陣館』（１）
第18回　『近江源氏先陣館』（２）
第19回　フィリップ・アリエスの『子どもの誕生』
第20回　新渡戸稲造の『武士道』
第21回　和辻哲郎の『日本精神史研究』
第22回　『仮名手本忠臣蔵』（１）
第23回　『仮名手本忠臣蔵』（２）
第24回　『仮名手本忠臣蔵』（３）
第25回　『仮名手本忠臣蔵』（４）
第26回　『仮名手本忠臣蔵』（５）
第27回　韓国のパンソリ『春香伝』
第28回　謡曲について
第29回　狂言について
第30回　まとめ

【成績評価の方法】
試験　60%　レポート　20%　出席　20%

科目名　クラス　講義区分	
日本文化論［02生～］　＜通期＞	
小　林　保　夫	4単位

【講義概要】
「平成」と元号が変わってから20年の歳月が流れ、その前の「昭和」という時代の記憶もじょじょに遠くなりつつある。しかし、今日の日本の文化、およびその文化を育んできた社会を理解し、自らの立脚点を改めて確認するためには「昭和」時代の検討は不可欠であろう。「昭和」は私見では大きく三期に分けられるように思う。第一期は昭和元年（1925）から昭和20年（1945）までである。関東大震災を端に発した震災恐慌によって幕が開かれた「昭和」の時代は、恐慌からの回復を企図した財閥の後押しにより軍部主導による中国大陸への侵略に明け暮れ、ついには英米との対立を招き、敗戦によって、京都・奈良などの一部の都市を除き、東京-大阪をはじめ日本の主要な都市という都市が焦土と化す日本史上未曾有の大打撃を受ける。この20年はまさに戦争の時代と言ってよいだろう。第二期は昭和20年（1945）８月15日の終戦から昭和39年（1964）までである。連合軍総司令官マッカーサーの厚木進駐に始まる占領支配は、昭和26年（1951）のサンフランシスコ講和会議によって解消し、さらには昭和31年（1956）年の国際連合の加盟によって国際社会への復帰を果たした。日本の戦後復興は着々と進み、昭和39年（1964）には東京オリンピックが開催され、それに先立って今日でも重要な役割を担っている東海道新幹線、名神高速道路が整備されている。この時期は復興の時代と言ってよいだろう。保守合同による自由民主党の結成により、55年体制という自民党による政権支配体制が確立していった時期でもある。第三期は昭和40年（1965）から昭和64年（1989）の昭和天皇の崩御までである。地価高騰によるバブル経済真っ只中で「昭和」は終焉を迎えた。前半は「昭和」全時代を概観し、後半は第二期の30年代の生活と文化に焦点をあてて授業を進める。

【学習目標】
○「昭和」という時代について理解を深める。
○日本の大陸侵略の実態およびその歴史的背景を理解する。
○日本の大陸侵略が英米との対立を引き起こしていった経緯を理解する。
○戦時中の国民がどのような状況に置かれていたかについて考察する。
○戦後復興がどのようになされてきたかを理解する。
○戦後の国民の暮らしぶりについて理解を深める。
○昭和30年代の今日的意味について考察する。

【講義計画】
第１回　ガイダンス　「昭和」という時代
第２回　震災と恐慌
第３回　日中戦争
第４回　日米開戦前夜
第５回　敗戦　（東京大空襲）
第６回　『高松宮日記』にみる皇室の戦中・戦後
第７回　占領下の戦後復興
第８回　マッカーサーを解剖する
第９回　吉田茂を解剖する
第10回　神武景気と60年安保
第11回　昭和元禄と列島改造
第12回　オイルショック
第13回　経済大国への道
第14回　中間試験（教場）
第15回　昭和30年代の日本（昭和30～33）
第16回　昭和30年代の日本（昭和34～37）
第17回　昭和30年代の日本（昭和38～40）
第18回　昭和30年代の生活と文化（北海道）
第19回　昭和30年代の生活と文化（東北）
第20回　昭和30年代の生活と文化（北関東）
第21回　昭和30年代の生活と文化（関東）
第22回　昭和30年代の生活と文化（信越）
第23回　昭和30年代の生活と文化（東海）
第24回　昭和30年代の生活と文化（北陸）
第25回　昭和30年代の生活と文化（近畿）
第26回　昭和30年代の生活と文化（中国・四国）
第27回　昭和30年代の生活と文化（九州・沖縄）
第28回　なぜ今「三丁目の夕日」か

【成績評価の方法】
試験　70%　出席　30%

正規の試験は２回（１回目は前半終了時に教場で、２回目は最終授業終了後に期間内試験）。それ以外に歴史用語の書き取りを授業中に随時実施し、出席点として評価する。

【教科書】
用いない。

【参考文献】
授業中に適宜紹介する。

科目名　クラス　講義区分	
人間発達論　＜春集＞	
安　原　佳　子	４単位

【講義概要】
人は、誕生してから自分の周りの環境との相互作用によって育っていく。以前は「発達」というと、乳幼児期から青年期までに焦点があてられていたが、現在は生涯発達という観点から、人が生まれてから（胎児期から）なくなるまでの変化として捉えられている。
身体的成長や運動能力、言語、認知、社会性など精神活動など、一口に発達といっても幅広い領域にまたがり、また、家族、社会、文化、時代など、多くの環境要因によっても変わってくる。そのため、これまで様々な視点から発達理論が唱えられてきた。
本講義では、発達理論を概観し、特に乳幼児期から青年期における課題を中心にみていき、人間理解を深めたい。さらに、福祉等の対人援助の仕事を視野にいれ、発達の支援について応用行動分析の立場から触れる。

【学習目標】
発達理論の概要を理解し、特に乳幼児期から青年期における課題をみていき、人間理解を深める。さらに、福祉等の対人援助の仕事を視野にいれ、発達という視点からの支援について考える。

【講義計画】
第１回　授業のオリエンテーション
第２回　発達とは（発達心理学の歴史）
第３回　発達とは（生涯発達）
第４回　発達のプロセスと理論（身体）
第５回　〃　（運動①）
第６回　〃　（運動②）
第７回　〃　（感覚、知覚）
第８回　〃　（情緒）
第９回　〃　（動機づけ）
第10回　〃　（認知①）
第11回　〃　（認知②）
第12回　〃　（認知③）
第13回　〃　（自我①）
第14回　〃　（自我②）
第15回　〃　（対人関係）
第16回　〃　（社会性）
第17回　〃　（道徳性）
第18回　〃　（言語、コミュニケーション①）
第19回　〃　（言語、コミュニケーション②）
第20回　〃　（遊び）
第21回　発達における課題について
第22回　発達上の障害と支援①
第23回　発達上の障害と支援②
第24回　発達上の障害と支援③
第25回　発達上の障害と支援④
第26回　発達の支援と応用行動分析①
第27回　発達の支援と応用行動分析②
第28回　発達の支援と応用行動分析③
第29回　まとめ
第30回　まとめ

【成績評価の方法】
出席状況・授業時の課題・レポート（50%）、および学期末試験（50%）により、総合的に判断する。

【教科書】
授業時に提示する

【参考文献】
授業時に提示する

科目名　クラス　講義区分	
ネットワーク実習　01＜秋＞	
初　瀬　慎　一	２単位

【講義概要】
本実習では、コンピュータ･ネットワークに関する理解を深めるため、インターネットを主としたネッワークの利用を体験することにより、ネットワー
クの活用技術、現状や問題点の発見･検討、ネットワーク技術の理解を目指す。

【学習目標】
近年、ネットワーク技術の進歩や、インターネット、イントラネットの普及によりコンピュータとネットワークは切り離せない物となった。また、インターネットの普及する中、膨大な資料の中から目的の情報を探し出すことのできる能力は重要である。
ネットワークの利用の中で、ただ単に利用するだけでなく、常に問題意識をもってコンピュータ･ネットワークと接する姿勢を養うことも目的とする。

【講義計画】
第１回　オリエンテーション
第２回　コンピュータネットワークとは
第３回　ネットワーク技術の基礎
第４回　多様なメディアの性質
第５回　メディアの帯域幅の測定１
第６回　メディアの帯域幅の測定２
第７回　ホストの識別
第８回　ネットワーク技術の基礎
第９回　通信プロトコル
第10回　インターネットの歴史
第11回　インターネット詳細
第12回　ネットワーク上のサービス
第13回　ネットワークの安全性
第14回　現在のネットワークの問題点、解決策、セキュリティ
第15回　まとめ

【成績評価の方法】
レポート　50%　出席　50%
提出レポートの評価を中心に試験との総合評価を行う。出席は３分の２以上であること。

【教科書】
資料は講義時に配布する。

【参考文献】
戸根勤著『ネットワークはなぜつながるのか』(日経BP社2002)

科目名　クラス　講義区分	
ネットワーク実習　02＜秋＞	
初　瀬　慎　一	２単位

【講義概要】
本実習では、コンピュータ･ネットワークに関する理解を深めるため、インターネットを主としたネッワークの利用を体験することにより、ネットワー
クの活用技術、現状や問題点の発見･検討、ネットワーク技術の理解を目指す。

【学習目標】
近年、ネットワーク技術の進歩や、インターネット、イントラネットの普及によりコンピュータとネットワークは切り離せない物となった。また、インターネットの普及する中、膨大な資料の中から目的の情報を探し出すことのできる能力は重要である。
ネットワークの利用の中で、ただ単に利用するだけでなく、常に問題意識をもってコンピュータ･ネットワークと接する姿勢を養うことも目的とする。

【講義計画】
第１回　オリエンテーション
第２回　コンピュータネットワークとは
第３回　ネットワーク技術の基礎
第４回　多様なメディアの性質
第５回　メディアの帯域幅の測定１
第６回　メディアの帯域幅の測定２
第７回　ホストの識別
第８回　ネットワーク技術の基礎
第９回　通信プロトコル
第10回　インターネットの歴史
第11回　インターネット詳細
第12回　ネットワーク上のサービス
第13回　ネットワークの安全性
第14回　現在のネットワークの問題点、解決策、セキュリティ
第15回　まとめ

【成績評価の方法】
レポート　50%　出席　50%
提出レポートの評価を中心に試験との総合評価を行う。出席は３分の２以上であること。

【教科書】
資料は講義時に配布する。

【参考文献】
戸根勤著『ネットワークはなぜつながるのか』(日経BP社2002)

科目名　クラス　講義区分	
ネットワーク実習　03＜秋＞	
中　崎　修　一	２単位

【講義概要】
近年、ネットワーク技術の進歩やインターネット、イントラネットの普及により、コンピュータとネットワークは切り離せないものとなった。また、インターネットの利用が普及する中、膨大な情報の中から目的の情報を探し出すこのとできる能力は重要である。
本演習では、コンピュータ・ネットワークに関する理解を深めるため、インターネットを主としたネットワークの構築と利用を体験することにより、ネットワークの活用技術、特にセキュリティ面を重視しての現状や問題点の発見・検討、ネットワーク技術の理解を実習によって目指す。

【学習目標】
情報通信ネットワークに関する知識や技術を、実際にコンピュータを利用して確認し、今後に活用する事を目標とする。その利用の中で、ただ単に利用するだけではなく、常に問題意識を持ってコンピュータ・ネットワークと接する姿勢を養うことも目的とする。また、Linuxの利用も経験し、Windows以外のネットワークOSについて学ぶ。

【講義計画】
第１回　コンピュータ・ネットワークとは
第２回　インターネットワーキング
第３回　ネットワークを活用した情報収集
第４回　ネットワーク技術の基礎
第５回　通信プロトコル
第６回　HTML、XML、Java、JavaScript（１）
第７回　HTML、XML、Java、JavaScript（２）
第８回　HTTP
第９回　様々なネットワーク上のサービス
第10回　ネットワーク・セキュリティ
第11回　今後のネットワーク事情
第12回　Windows以外のOS Linux（１）
第13回　Windows以外のOS Linux（２）
第14回　Windows以外のOS Linux（３）

【成績評価の方法】
レポート　70%　出席　30%
毎回出す課題と出席を評価対象とする。
（コンピュータを利用した演習課題）

【教科書】
無し。
ウェブページにて資料提示。

【参考文献】
適宜紹介。

科目名　クラス　講義区分	
ネットワーク論　01＜春＞	
初　瀬　慎　一	２単位

【講義概要】
本講義では、ネットワークリテラシーに関する適応力を深めるため、インターネットを主としたネットワークの利用と基盤技術を習得して、ネットワークの活用技術、現状や問題点の発見･検討、ネットワーク技術の理解を目指す。

【学習目標】
ネットワーク技術の進歩とインターネットの普及に伴って、それらの技術を応用した新しいサービスが次々と生み出されている。また、ネットワーク構築・運用に関する知識はさまざまな分野で求められるようになった。
本講義では、ネットワーク関連技術、構築方法を中心に、現在及び今後のネットワークシステムに関して解説し、現代社会と情報ネットワークを活用するという観点から、各種活用手法や、さらに新しいサービスやビジネスを創造するための姿勢を養うことも目標とする。

【講義計画】
第１回　はじめに
　　ネットワークとは
第２回　コンピュータの識別１
第３回　コンピュータの識別２
第４回　インターネットの仕組みとLAN間接続１
第５回　インターネットの仕組みとLAN間接続２
第６回　インターネットアプリケーションとサーバ
第７回　通信ソフトウェアとプロトコル
第８回　TCP／IPプロトコル
第９回　TCP／IPとEthernet
第10回　伝送速度と通信サービス
第11回　インターネットのセキュリティ
第12回　ダダ漏れオフィスへの正しい対処
第13回　まとめ１
第14回　まとめ２
第15回　試験

【成績評価の方法】
試験　40%　レポート　30%　出席　30%
提出レポートの評価を中心に試験との総合評価を行う。出席は３分の２以上であること。

【教科書】
資料は適宜配布する

【参考文献】
戸根勤著『ネットワークはなぜつながるのか』（日経BP社2002）

科目名　クラス　講義区分	
ネットワーク論　02＜春＞	
初　瀬　慎　一	２単位

【講義概要】
本講義では、ネットワークリテラシーに関する適応力を深めるため、インターネットを主としたネットワークの利用と基盤技術を習得して、ネットワークの活用技術、現状や問題点の発見･検討、ネットワーク技術の理解を目指す。

【学習目標】
ネットワーク技術の進歩とインターネットの普及に伴って、それらの技術を応用した新しいサービスが次々と生み出されている。また、ネットワーク構築・運用に関する知識はさまざまな分野で求められるようになった。
本講義では、ネットワーク関連技術、構築方法を中心に、現在及び今後のネットワークシステムに関して解説し、現代社会と情報ネットワークを活用するという観点から、各種活用手法や、さらに新しいサービスやビジネスを創造するための姿勢を養うことも目標とする。

【講義計画】
第１回　はじめに
　　ネットワークとは
第２回　コンピュータの識別１
第３回　コンピュータの識別２
第４回　インターネットの仕組みとLAN間接続１
第５回　インターネットの仕組みとLAN間接続２
第６回　インターネットアプリケーションとサーバ
第７回　通信ソフトウェアとプロトコル
第８回　TCP／IPプロトコル
第９回　TCP／IPとEthernet
第10回　伝送速度と通信サービス
第11回　インターネットのセキュリティ
第12回　ダダ漏れオフィスへの正しい対処
第13回　まとめ１
第14回　まとめ２
第15回　試験

【成績評価の方法】
試験　40%　レポート　30%　出席　30%
提出レポートの評価を中心に試験との総合評価を行う。出席は３分の２以上であること。

【教科書】
資料は適宜配布する

【参考文献】
戸根勤著『ネットワークはなぜつながるのか』(日経BP社2002)

科目名　クラス　講義区分	
ネットワーク論　03＜春＞	
中　崎　修　一	２単位

【講義概要】
ネットワーク技術の進歩とインターネットの普及に伴い、それらの技術を応用した新しいサービスが次々と生み出されている。また、ネットワーク構築・運用に関する知識は様々な分野で求められるようになった。本講義では、ネットワーク関連技術、構築方法を中心に現在および今後のネットワークシステムに関して解説する。

【学習目標】
現代社会と情報ネットワークとの関係の理解を深めることを目的とする。また、ネットワークを活用するという観点から、各種活用手法や、更には新しいサービスやビジネスを創造するための姿勢を養うことも目標とする。

【講義計画】
第１回　現代社会とネットワーク
第２回　情報通信ネットワークとは
第３回　インターネット
第４回　ネットワーク基礎知識
第５回　TCP/IP（１）
第６回　TCP/IP（２）
第７回　ネットワーク構成
第８回　クライアントサーバシステム
第９回　WWWとその活用
第10回　様々なネットワーク上のサービス
第11回　安全性と信頼性
第12回　ネットワークと犯罪
第13回　今後のネットワーク事情
第14回　まとめ

【成績評価の方法】
試験　50%　レポート　40%　出席　10%

【教科書】
長坂康史 情報通信ネットワークとLAN 共立出版

【参考文献】
適宜紹介

科目名　クラス　講義区分	
農業経済論　＜通期＞	
浦　出　俊　和	4単位

【講義概要】

現在、WTO体制下において、農産物貿易の自由化が進展している。わが国は、世界の中でも農産物輸入大国であり、先進国の中でも自給率が非常に低く40%を下回っている。さらに近年、BSE問題、輸入食品の安全問題、食品偽装問題等、食の安全問題が社会問題化しており、消費者の食の安全に対する関心も高まっている。このような状況下で、わが国の農業・食料政策はどうあるべきかということは、非常に重要な課題である。

本講義では、まず世界の食糧問題を取り上げ、食料の需要と供給について考える。次に、農業生産の特質を理解するとともに、WTO体制下における農産物貿易を取り上げ、先進国における農業保護政策とその問題について講義するとともに、農産物輸入大国である我が国における食の安産問題の背景と要因についても取り上げる。

農業経済論では、若干ミクロ経済学の理論を援用するが、ミクロ経済学の基礎については、講義の中で解説しながら進める予定であるので、ミクロ経済学を履修していなくても歓迎する。

【学習目標】

本講義が目標とすることは、各自が日本の農業問題および食料問題を正しく認識し、その政策の方向性について、自分の考えを述べることが出来るようになることである。

【講義計画】

第１回　世界の人口と食糧問題
第２回　農産物貿易の特質
第３回　農業生産の特質
第４回　世界の農業問題
第５回　経済発展と食料需給
第６回　食料需要のシフト要因（１）
第７回　食料需要のシフト要因（２）
第８回　食料供給のシフト要因（１）
第９回　食料供給のシフト要因（２）
第10回　農産物価格形成の特徴（１）
第11回　農産物価格形成の特徴（２）
第12回　農産物価格形成の特徴（３）
第13回　途上国の農業問題と農産物市場の特徴
第14回　中間テスト
第15回　先進国の農業問題と農産物市場の特徴
第16回　政府の市場介入
第17回　農産物貿易自由化の意義と問題点
第18回　農業保護政策（１）
第19回　農業保護政策（２）
第20回　農業保護政策（３）
第21回　農産物貿易の自由化の過程
第22回　WTO体制下の国際交渉
第23回　日本の食料需給と食料安全保障
第24回　日本の農業生産と農業政策
第25回　食の安全問題の背景と要因（１）
第26回　食の安全問題の背景と要因（２）
第27回　農業と環境
第28回　期末テスト

【成績評価の方法】

試験　100%
原則として、学年度末試験の成績によって評価するが、前期末に実施する中間試験の結果も成績評価に加味する。

【参考文献】

１）速水佑次郎・神門善久著『農業経済論』（岩波書店）
２）荏開津典生著『農業経済学』（岩波書店）
３）矢口芳生著『WTO体制下の日本農業』（日本経済評論社）

【備考】

講義概要や講義資料は、下記を参照のこと。
http://rio.andrew.ac.jp/~urade/agri-index.html

科目名　クラス　講義区分	
博物館概論　＜春＞	
井　上　　敏	2単位

【講義概要】

この講義では博物館に関する最も基礎的な知識を学ぶ。また本講義においては学生諸君に博物館に行ってもらい、見学レポートを４月に１本、５月に１本の計２本書いて提出してもらう。その締め切りはそれぞれ４月末、５月末の予定である。見学レポートは２本とも提出しなければならない。１本しか提出しなかった者は本講義を放棄したものとみなすので、十分注意すること。

【学習目標】

本講義は学芸員課程の基幹科目であるので、「博物館とは何か」「博物館学とは何か」といった基本的な事柄を理解するとともに博物館法や文化財保護法などの博物館資料の保護のための制度について理解する。

【講義計画】

第１回　博物館入門（１）－博物館の定義、目的、機能、分類
第２回　博物館入門（２）－博物館・文化財の専門職・学芸員
第３回　博物館の歴史（１）
第４回　博物館の歴史（２）
第５回　日本の文化財保護制度とその歴史（１）
第６回　日本の文化財保護制度とその歴史（２）
第７回　近代化遺産－産業・交通・土木の遺産－
第８回　エコミュージアム
第９回　地域社会と博物館－世界遺産－
第10回　文化財保護と国際条約（１）
第11回　文化財保護と国際条約（２）
第12回　生涯学習と博物館
第13回　チルドレンズミュージアム
第14回　まとめ－現在の博物館制度が抱えている問題－
第15回　試験

【成績評価の方法】

試験　50%　レポート　20%　出席　30%
出席を含む受講態度とレポート、及び試験で評価する。

【教科書】

広瀬隆人（編）博物館学基礎資料 樹村房

【参考文献】

全国大学博物館学講座協議会西日本部会編「新しい博物館学」芙蓉書房出版（この本は博物館学各論Ⅰ・Ⅱではテキストとして使用します）

科目名　クラス　講義区分	
博物館学各論Ⅰ　＜春＞	
井　上　　敏	２単位

【講義概要】
博物館はその数の増大と共に社会からより質の高い役割を要求されてきている。そのような要求に応えるべく、1997年に博物館法施行規則が改正され、これまで「博物館学」（４単位）しか設けられていなかった博物館学関係科目を「博物館概論」（２単位）、「博物館資料論」（２単位）、「博物館情報論」（１単位）、「博物館経営論」（１単位）に改めた。本講義はその中の「博物館資料論」にあたる。尚、講義はチーフの井上以外にゲスト講師があたる。尚、ゲスト講師の都合により、博物館学各論Ⅱと日程を入れ替わる場合や土曜日の午後に集中して行う場合がある。確定した日程・内容、ゲスト講師については後日発表する。

【学習目標】
「博物館資料論」では学芸員として必要な博物館資料の収集・保管・展示に関する基礎知識を身につけると共に博物館における資料保存の重要性とその難しさについて理解することを目指す。

【講義計画】
第１回　博物館資料と国際条約
第２回　博物館資料論（１）
第３回　博物館資料論（２）
第４回　博物館資料論（３）
第５回　博物館展示論（１）
第６回　博物館展示論（２）
第７回　博物館展示論（３）
第８回　博物館社会学（１）
第９回　博物館社会学（２）
第10回　博物館社会学（３）
第11回　保存科学概論（１）
第12回　保存科学概論（２）
第13回　保存科学概論（３）
第14回　博物館資料の梱包
第15回　試験

【成績評価の方法】
試験　70%　出席　30%
原則として受講態度を含む出席点と試験。変更がある場合は学生に告知する。

【教科書】
全国大学博物館学講座協議会西日本部会（編）新しい博物館学　芙蓉出版

【参考文献】
京都造形芸術大学編　「文化財のための保存科学」　角川書店

【備考】
インテグレーション科目

科目名　クラス　講義区分	
博物館学各論Ⅱ　＜秋＞	
井　上　　敏	２単位

【講義概要】
博物館はその数の増大と共に社会からより質の高い役割を要求されてきている。そのような要求に応えるべく、1997年に博物館法施行規則が改正され、これまで「博物館学」（４単位）しか設けられていなかった博物館学関係科目を「博物館概論」（２単位）、「博物館資料論」（２単位）、「博物館情報論」（１単位）、「博物館経営論」（１単位）に改めた。　本講義はその中の「博物館情報論」と「博物館経営論」にあたる。尚、講義は井上以外にゲスト講師があたる。またゲスト講師の都合により、博物館学各論Ⅰと日程を入れ替わる場合や土曜日の午後に集中して行う場合がある。確定した日程・内容、ゲスト講師については後日発表する。

【学習目標】
「博物館情報論」では新しい博物館像が模索される中で、IT分野の発展目覚しい技術を博物館の活動に取り入れることの必要性と、その活用についての理解を図る。　「博物館経営論」ではミュージアム・マネージメントという新しい学問分野の成果を取り入れながら、単なる博物館「運営」ではなく、より積極的な博物館「経営」ができる人材養成を目指す。また「博物館行財政論」では昨今、博物館界で話題として取り上げられる「独立行政法人制度」や「PFI」、「指定管理者制度」等にも触れ、博物館における制度の重要性と「経営」の難しさについての理解を図る。更に地震などの天災による博物館の被害についても、発生してから対応するのではなく、それ以前より周到な対策を講じておく必要性について「危機管理論」で論じる。またチルドレンズミュージアム等の教育に力点を置いた博物館の存在など博物館の教育機能からみた多様な問題点については「博物館教育論」で触れる。

【講義計画】
第１回　博物館経営論
第２回　博物館行財政論
第３回　博物館教育論（１）
第４回　博物館教育論（２）
第５回　博物館教育論（３）
第６回　博物館ボランティア論（１）
第７回　博物館ボランティア論（２）
第８回　博物館ボランティア論（３）
第９回　博物館情報論（１）
第10回　博物館情報論（２）
第11回　博物館情報論（３）
第12回　危機管理論（１）
第13回　危機管理論（２）
第14回　危機管理論（３）
第15回　試験

【成績評価の方法】
試験　70%　出席　30%

【教科書】
全国大学博物館学講座協議会西日本部会編 新しい博物館学 芙蓉出版

【参考文献】
適宜指示する。

【備考】
インテグレーション科目

科目名　クラス　講義区分	
博物館実習Ⅰ　＜８月集中＞	
井　上　　敏	１単位

【講義概要】
博物館資料の取り扱いや展示に関する基本的なことを学内・学外の施設で実習する。分野ごとに専門の教員が担当して指導する。予定している実習は「視聴覚資料の取材とポスター作成」「植物資料の台帳作成」「展示企画の立て方」「古文書の取り扱い」「考古遺物の測定と作図」「土器の復元」である。また実習の内容についてはこれ以外に加える可能性もあるので、確定した内容については後日追って発表する。

【学習目標】
博物館学芸員としての基礎的な技術を身につけるとともに実習内容に無いことも自分自身で修練して身につけること。

【講義計画】
第１回　９月中旬に５日間実施する予定である。詳細な日程については追って発表するので注意すること。また７月の土曜日１日を使って、「植物資料の台帳作成」と「視聴覚資料の加工とポスター作成」で使う資料を取材する。
　　視聴覚資料の加工とポスター作成
第２回　植物資料の台帳作成・展示企画の立て方
第３回　古文書の取り扱い
第４回　考古遺物の測定と作図
第５回　土器の復元

【成績評価の方法】
全出席が原則である。主に実習ノートによって評価する。

【参考文献】
実習中に資料を配布する。

【備考】
インテグレーション科目

科目名　クラス　講義区分	
博物館実習Ⅱ　＜８月集中＞	
井　上　　敏	１単位

【講義概要】
本実習では日本における博物館の多様性を理解するた為にさまざまな博物館において見学実習を行う。専任教員が引率し、見学後は見学館ごとにレポートを提出する。受講生は全員必修の４館と各コース別の４館、計８館の実習を行わなければならない。

【学習目標】
日本の博物館の多様性を理解するとともに、各自でできるだけ多くの博物館を見学することが望ましい。

【講義計画】
第１回　両コース必修館
　　①和泉市いずみの国歴史館
　　②国立民族学博物館
　　③大阪歴史博物館
　　④滋賀県立琵琶湖博物館
　　産業文化コース
　　⑤交通科学博物館
　　⑥なにわの海の時空館
　　⑦UCCコーヒー博物館
　　⑧大阪ガス・ガス科学館
　　東洋文化コース
　　⑤和泉市久保惣記念美術館
　　⑥大阪府立弥生文化博物館
　　⑦堺市博物館
　　⑧大阪城天守閣

【成績評価の方法】
出席状況とレポートを総合的に勘案して、評価する。

【参考文献】
適宜指示する。

【備考】
インテグレーション科目

科目名　クラス　講義区分	
博物館実習Ⅲ　＜８月集中＞	
井　上　　敏	１単位

【講義概要】
本学で実施する博物館実習の総仕上げとなる科目である。本実習では実際の博物館で５日間程度の館務実習を行う。基本的に博物館での実習以外に12月と４月に事前学習を実施する。また実習後にノートとレポートを提出し、受講生全員による合同発表会を行う。

【学習目標】
学芸員資格の総仕上げとして、博物館における学芸員の仕事を理解するとともに、各自の学芸員としてのスキルアップに向けての方向を確認する。

【講義計画】
第１回　実習館は受講生と希望先を相談した上で、別途決める。

【成績評価の方法】
実習館による評価、事前学習・事後学習への出席状況、及びレポートを総合的に判断して評価する。

【参考文献】
適宜指示する。

【備考】
インテグレーション科目

科目名　クラス　講義区分	
比較経済体制論　＜秋集＞	
上　野　勝　男	４単位

【講義概要】
「ソ連（ロシア）の経済ってどんな特徴あるの？」ときかれたら、少し勉強したひとなら、旧ソ連では企業活動の自由がなく命令でがんじがらめに縛られ、消費者は選択の余地がなく商品はいつも不足していた。こうした「社会主義計画経済」が行き詰まってソ連は崩壊に至り、いまでは「体制転換」という「市場経済」＝資本主義のシステムへの移行がすすんでいる、と説明するかもしれない。
たしかに「社会主義から資本主義への移行」というのは一見わかりやすい。でも、ワーキングプアという懸命に働いてもまともに生活を維持できない人々が急増しているような社会、アメリカ発の金融危機が広がるなかで世界に名だたる大会社が我先にと雇用を削減し、新規採用を抑制しようとしている社会、この私たちの日本も「市場経済」＝資本主義だと思うと、少し考え込んでしまいませんか。「はたしてこんな矛盾を抱えた資本主義が旧ソ連の転換の模範になるのか」と。
それに、「社会主義は、本来、資本主義の矛盾を克服した体制のはずなのに、なぜソ連があんなふうに崩壊したのか」「崩壊したのは社会主義だったからなのか」等々。
この講義では、こうした資本主義と社会主義、そしてソ連をめぐる疑問をじっくり考えていきます。

【学習目標】
上の講義概要にもとづいて、主に
（１）社会主義とは本来どのようなものか、（２）わたしたちの生きる現代資本主義にとって社会主義はどのような意味をもつのか、（３）旧ソ連の経済体制をどう考えるか、なぜ崩壊することになったのか、について基本的な理解を得ることを学習目標と考えています。

【講義計画】
第１回　比較経済体制論で何を学ぶのか？
　　授業の進め方、成績評価の方法
第２回　第Ⅰ部　社会主義とは何か？
　　１．序論（１）
第３回　１．序論（２）
第４回　２．資本主義の本性とその矛盾（１）
第５回　２．資本主義の本性とその矛盾（２）
第６回　２．資本主義の本性とその矛盾（３）
第７回　２．資本主義の本性とその矛盾（４）
第８回　２．資本主義の本性とその矛盾（５）
第９回　３．社会主義的将来の本質的特徴（１）
第10回　３．社会主義的将来の本質的特徴（２）
第11回　３．社会主義的将来の本質的特徴（３）
第12回　３．社会主義的将来の本質的特徴（４）
第13回　第Ⅱ部　ソ連経済史概説－「社会主義経済」だったのか？－
　　４．検討の視角とロシアの20世紀
第14回　５．十月革命からネップの試みへ（１）
第15回　５．十月革命からネップの試みへ（２）
第16回　５．十月革命からネップの試みへ（３）
第17回　５．十月革命からネップの試みへ（４）
第18回　６．ソ連型経済制度の成立（１）
第19回　６．ソ連型経済制度の成立（２）
第20回　６．ソ連型経済制度の成立（３）
第21回　６．ソ連型経済制度の成立（４）
第22回　６．ソ連型経済制度の成立（５）
第23回　７．ソ連経済の構造と矛盾（１）
第24回　７．ソ連経済の構造と矛盾（２）
第25回　７．ソ連経済の構造と矛盾（３）
第26回　７．ソ連経済の構造と矛盾（４）
第27回　８．ソ連体制崩壊後の行方
第28回　講義のまとめ

【成績評価の方法】
試験　40％　レポート　20％　出席　40％
成績評価の詳しいやり方については、第１回の講義で述べる。

【備考】
事情により、授業計画は変更される場合があります。
とくに授業時間を利用して、適当な時期に、理解を確認する小テストを実施するつもりなので、それに伴ってスケジュールが変更されます。

科目名　クラス　講義区分	
比較社会論　＜秋集＞	
清　水　由　文	4単位

【講義概要】
本講義ではおもに社会の基礎単位である家族の国際比較に焦点をおいて進めるが、その前に各国の人口、経済、政治、社会の基礎的内容を説明したうえで家族の比較をするという順序をとりたいと思います。家族はどこの社会にも存在し、それが人間社会の基礎単位になっています。しかし、現在の各国の家族はグローバリゼーションのなかで核家族や家族の多様化が進行しています。ところが家族の変化の出発点は違うのです。そして現在はボーダレスといわれながらも各国の社会や家族が同質化されているように見えますが、その中心的なところでは伝統的性格や各国のアイデンティティを持っているのです。日本の現代家族を見れば家族崩壊や家族結合が弛緩しているといわれますが、それは相対的なものであり、他の国の家族と比較することにより現実の日本の家族が見えてくるものといえましょう。したがって日本の家族を世界のなかで位置づけることにより現実を把握したいのです。

【学習目標】
まず、各国の人口、経済状況、政治の特徴、社会構造の特徴を理解することが第1目標になります。つぎに各国の家族が伝統的家族、近代家族、ポストモダン家族という変化のなかでどこに位置づけられるのかをデータをとおして明らかにします。最終的にはグローバル化している世界の中で各国の家族はどこに位置づけることができるのかを考えます。そして日本の家族をそれらの国の家族の同一性、異質性をとおして、現代日本の家族が今後どのような方向に進んでいくのかを明らかにしたいと思います。

【講義計画】
第1回　本講義の内容の詳細を資料に基づいて説明する。
第2回　マードックの核家族論の特徴と批判
第3回　E・トッドの世帯類型の考え方
第4回　人口転換論、人口の比較、人口ピラミッドの作成
第5回　ケンブリッジ・グループの家族史の方法
第6回　伝統的家族、近代家族、ポストモダン家族の変化
第7回　日本の家族の現状(1)
第8回　日本の家族の現状(2)
第9回　中国社会の特徴(1)
第10回　中国社会の特徴(2)
第11回　中国家族の特徴(1)
第12回　中国家族の特徴(2)
第13回　タイ社会の特徴(1))
第14回　タイ社会の特徴(2)
第15回　タイ家族の特徴(1)
第16回　タイ家族の特徴(2)
第17回　イギリス社会の特徴(1)
第18回　イギリス社会の特徴(2)
第19回　イギリス家族の特徴(1)
第20回　イギリス家族の特徴(2)
第21回　アイルランド社会の特徴(1)
第22回　アイルランド社会の特徴(2)
第23回　アイルランドの家族の特徴(1)
第24回　アイルランドの家族の特徴(2)
第25回　アメリカ社会の特徴(1)
第26回　アメリカ社会の特徴(2)
第27回　アメリカ家族の特徴(1)
第28回　アメリカ家族の特徴(2)

【成績評価の方法】
試験　80%　レポート　20%
授業中に小レポートを特定のテーマにより提出してもらうが、それは出席を意味するのではなく、それを評価し20%（全体の20点）として算出する。

【教科書】
特に用いないが、毎時間資料を配布する予定である。

【参考文献】
随時指示する。

【備考】
各国の社会、家族に関する視聴覚教材を用いることにより、理解しやすいようにしたい。

科目名　クラス　講義区分	
比較文学　＜通期＞	
岩　男　久仁子	4単位

【講義概要】
西洋古典期の早くから「イソップ寓話」は流布していた。様々な形態で文字化され保存されてきている。現在では全世界に広まっている「イソップ寓話」をその初期の形態を中心に他の時代の物（特に日本のイソップ寓話）との比較を行い、イソップ寓話の特質を見ていく。

【学習目標】
「イソップ伝（イソップの生涯の物語）」を中心に、講義を進めていく。
2000年以上も前から伝わる伝承から現在まで脈々とつながる思想を読み解くとともに、当時の社会背景なども、日本と比較していく。

【講義計画】
第1回　オリエンテーション
第2回　イソップ寓話・伝記　伝承系統図、解説①
第3回　イソップ寓話・伝記　伝承系統図、解説②
第4回　①原典イソップ伝の紹介　（第1部）
第5回　②原典イソップ伝の紹介　（第1部）
第6回　③原典イソップ伝の紹介　（第2部）
第7回　④原典イソップ伝の紹介　（第2部）
第8回　⑤原典イソップ伝の紹介　（第3部）
第9回　⑥原典イソップ伝の紹介　（第4部）
第10回　⑦原典イソップ伝の紹介　（第5部）
第11回　日本に伝播したイソップ寓話（明治期以後）
第12回　難題解決譚　蟻通明神縁起
第13回　難題解決譚　賢者アヒカル物語
第14回　まとめ
第15回　イソップ寓話の挿絵①
第16回　イソップ寓話の挿絵②
第17回　イソップ寓話の挿絵③
第18回　古代ギリシアの女性像①
第19回　古代ギリシアの女性像②
第20回　喜劇作家アリストファネスとイソップ寓話①
第21回　喜劇作家アリストファネスとイソップ寓話①
第22回　自由の問題①
第23回　自由の問題②
第24回　自由の問題③
第25回　自由の問題④
第26回　自由の問題⑤
第27回　自由の問題⑥
第28回　まとめ　Quiz

【成績評価の方法】
講義の総まとめとして秋学期の終わりに→試験
夏休みの宿題として→レポート
年間通しての出席率+コメント→出席
どれか1つでも欠けていれば、評価しません。

【参考文献】
『イソップ寓話の世界』　中務哲郎著　ちくま新書　600円
『イソップ寓話集』　中務哲郎訳　岩波文庫　700円

科目名　クラス　講義区分	
比較文化研究－色彩から見る東西社会史　＜春集＞	
Philip Billingsley	4単位

【講義概要】

First of all, please note that the lectures will all be in ENGLISH! However, the English will be very easy to understand, so, even if you don't feel confident, why not give it a try? The topic will be colour, especially black, white and yellow.

In particular, I will be talking about racial prejudice, in other words, looking down on people whose skin colour is different from your own. WHY do many people, Asians as well as Europeans, have negative feelings about black people? WHY do white people often look down on yellow people? I hope that thinking about the way people see the 3 colours black, white, and yellow can help you to understand the origins of racial prejudice.

I will talk about many things - children's literature, psychology, physiology, etc; many places -- Japan, China, Europe ; and many time-periods - ancient Greece & China, modern Europe & Japan, the ozone problem, and so on. As a native of Europe, a resident of Japan, and a specialist on China, I will use my multi-cultural background to try to show you how colour affects people's thinking.

英語による講義とはいえ、極端にやさしい英語を使うので恐れずに受講してみてください、思っているほど難しくないから（本当に！）。テーマは「色彩感覚」、特に人種的偏見と色彩感覚との関連。

人間はなぜ自分と異なる肌色の人を見下してきたのか？肌色に対してどのような感覚を持っているのか？黒人差別のルーツは？白人の黄色人種への不信はどこから来る？自分自身の出身地域（ヨーロッパ）、住処となった国（日本）、そして専門領域である国（中国）をそれぞれ比較してこのトピックを探ってみる。

そのためにさまざまなジャンルを紹介する：西洋の児童文学、心理学、生理学、歴史（古代ギリシャ・中国から近現代ヨーロッパ・日本まで）、そして現代のオゾン問題。いくつかの例をピックアップして、色彩感覚はどのような働きをしてきたのかを受講生にサジェストする。

【学習目標】

This course is NOT intended to tell you how to think. By showing you a few new facts and ideas related to colour in history and in the world around us, I just want to give you a fresh view of the world and thus a chance to think anew about yourselves.

このコースは高いところからのお説教ではない。つまり、「人種的な偏見はだめだよ」といっているわけではない。むしろ、知られざるさまざまな新しい事実を紹介することによって世界についてーいや、自分について考えさせることが主な目標。そこにこそ新発見があるんだよ！

【講義計画】

第１回　Introduction to the lectures: how to make them easier for yourselves, what you will have to do, etc.（コース内容の説明、授業の賢い受け方、宿題の説明、受講生の責任など。）
第２回　Introduction to the lectures: how to make them easier for yourselves, what you will have to do, etc.（２）
第３回　Introduction to the lectures: how to make them easier for yourselves, what you will have to do, etc.（３）
第４回　How I became interested in colour prejudice（肌色に関心を持ち出した経緯）
第５回　Melanin: why are some skins a different colour from others?（どうして異なる肌色があるのか：メラニンの話）（１）
第６回　Melanin: why are some skins a different colour from others?（２）
第７回　Skin colour in human relations（肌色と人間関係）（１）
第８回　Skin colour in human relations（２）
第９回　Colour prejudice in children's literature（西洋児童文学と肌色）（１）
第10回　Colour prejudice in children's literature（２）
第11回　Colour prejudice in children's literature（３）
第12回　Colour prejudice in children's literature（４）
第13回　Before colour prejudice: black & white in the ancient world（人種的偏見以前：古代文明と黒い肌）（１）
第14回　Before colour prejudice: black & white in the ancient world（２）
第16回　Before colour prejudice: black & white in the ancient world（３）
第17回　Before colour prejudice: black & white in the ancient world（４）
第18回　The lessons of history: why Africa lags（歴史の教訓：アフリカはなぜ「遅れた」のか？）（１）
第19回　The lessons of history: why Africa lags（２）
第20回　The lessons of history: why Africa lags（３）
第21回　Black devils/white devils: Chinese ideas about skin colour（黒鬼・白鬼：古代中国と肌色（１）
第22回　Black devils/white devils: Chinese ideas about skin colour（２）
第23回　China's discovery of Africa（中国、アフリカ発見！（１）
第24回　China's discovery of Africa（２）
第25回　Japan & skin colour（日本文化と肌色）（１）
第26回　Japan & skin colour（２）
第27回　Japan & skin colour（３）
第28回　Summary（総括）

【成績評価の方法】

As this class is also designed to improve students' English hearing ability, attendance at every class is expected. (Special consideration will be given to final-year students busy with job-hunting.) There will also be regular quizzes, homework in which students are expected to summarize the lectures and describe their impressions, and an essay test at the end of the course.

英語のヒアリング能力を磨くための授業だから毎回出席することがが大前提。（しかし、就職活動で忙しい４回生以上の受講生に配慮を払う。）そのほかにクイズ、宿題（講義内容の要約など）もあり、エッセイ中心の期末テストもある。

【参考文献】

特になし

【備考】

英語による講義ですよーお間違いのないように！
英語による講義です。

科目名　クラス　講義区分	
比較文化研究－日韓の民俗文化　＜通期＞	
崔　　杉　昌	4単位

【講義概要】
民俗学および文化人類学の手法を用いて、日本と韓国の現代社会における民俗文化を取り上げ、庶民の暮らしや文化を理解し合うのが本講義の目的である。民俗学は、歴史史料には触れられていないもの、つまり口頭で伝承されてきた諸地域の生活文化を基礎資料として、人々の信仰や習慣を研究する学問である。
日韓両国は歴史的な深い関わりは勿論、文化の面においても相通じるところが多い。しかしながら戦後から現代における各々の国における文化の変容は凄まじい。とくに限界集落、農村の崩壊、伝統的価値観の変化、都市難民、格差社会といったものが我々の生活文化を与えた影響は農村都市を問わず大きい。比較的視座から一つひとつの文化事象を照らし合いながら、文化の相関性を考えてみたい。
本講義においては写真やビデオなども教材として扱うつもりである。

【学習目標】
・比較文化研究方法論としての民俗学、文化人類学の手法を理解する。
・自文化・異文化に対する理解度を深める。
・家、家族、近隣社会（村・都市）を柱とする比較文化研究の視座を培う。

【講義計画】
第１回　民俗学へのいざない
第２回　民俗学の研究対象（１）
第３回　民俗学の研究対象（２）
第４回　民俗学の理念と研究方法
第５回　事例研究（１）
第６回　事例研究（２）
第７回　事例研究（３）
第８回　事例研究（４）
第９回　通過儀礼（１）
第10回　通過儀礼（２）
第11回　通過儀礼（３）
第12回　通過儀礼（４）
第13回　地域祭りの民俗学（１）
第14回　地域祭りの民俗学（２）
第15回　前期期末試験
第16回　民俗学の新しい動向－地域民俗学と個別分析法
第17回　民俗学の新しい動向－都市民俗学の理念
第18回　民俗学の新しい動向－民俗の生成と都市伝説
第19回　年中行事（１）
第20回　年中行事（２）
第21回　年中行事（３）
第22回　年中行事（４）
第23回　年中行事（５）
第24回　社会と人間関係の民俗学
第25回　社会と人間関係の民俗学
第26回　社会と人間関係の民俗学
第27回　社会と人間関係の民俗学
第28回　民俗学の課題（１）
第29回　民俗学の課題（２）
第30回　後期期末試験

【成績評価の方法】
試験　30%　レポート　40%　出席　30%

【教科書】
授業時に提示する。

【参考文献】
崔吉城『韓国民俗への招待』風響社　1996
八木　透編『こんなに面白い民俗学』ナツメ社　2004

科目名　クラス　講義区分	
比較文明論　＜春集＞	
串　田　久　治	4単位

【学習目標】
二十世紀後半、西欧文明を見直して非西欧文明の価値を組み込む新しい関係概念と望ましい方向性を探求しようと、ヨーロッパに「比較文明」が誕生しました。知の総合を目ざす新しい学問です。
一方、西欧文明の普遍的価値を信じていたアジア諸国は、それが必ずしも世界に普遍の価値ではないことを知り、ようやくアジア独自の文明・文化の価値観に目を向け始めました。そして、2001年、国連はこの年を「文明間の対話年」とし、二十一世紀の第一ページを飾ったのです。
ところが現実世界は今なお「文明間の対立」が深く、それは今後ますます激化するであろうと予測する研究者もいます。
本講義は世界の文明・文化を単に「比較」して「普遍的な文化」を求めるものではありません。古代中国文明が提起する様々な問題（講義で紹介する）を足がかりにして、「人間の普遍性」を共に考える授業です。したがって、ただ聞いているだけの、黒板との一方通行の講義ではなく、学生諸君のプレゼンテーションとディスカッションなどによって、学生諸君が主体となる授業です。

【講義計画】
第１回　第一部　比較文明序説
　　1.The Perfect European should be……
　　2.「スイカ」は何語？
　　3．漢字の世界
　第二部　文明の諸相
　　1　対の思考
　　2　理想的な生活
　　3　esprit　エスプリ
　　4　言葉遊びの世界
　第三部　「人間の普遍性」を求めて
　　1　価値観を疑う－「無用の用」
　　2　理念と現実
　　3　復讐の倫理
　　4　中華思想とユニラテラリズム

【成績評価の方法】
本講義は書物から学ぶものではありません。講義中に議論し、人の意見に耳を傾け、自分の頭で考え、その考えを整理することが目的です。従って毎回出席しなければ意味ありません。出席・レポート・プレゼンテーション・ディスカッションへの積極性などにより総合的に評価しますが、毎回小レポート提出が義務づけられ、小レポート提出不良者は最終レポート提出の資格を失います。

【教科書】
講義時に資料を配布する。

【参考文献】
KUSHIDA’S WEB SITE　http://www1.odn.ne.jp/kushida
串田久治『天安門落書』（講談社現代新書）
串田久治『無用の用－古代中国から今を読み解く』（研文出版）
串田久治『儒教の知恵－－矛盾の中に生きる』（中公新書）
串田久治『中国古代の「謡」と「予言」』（創文社）
串田久治・諸田龍美『漢詩の知恵』（学研）
今村仁司著『近代性の構造』（講談社選書メチエ）
ユルゲン・ハーバーマス著『法と正義のディスクルス』（未来社）
青木保著『異文化理解』（岩波新書）
青木保著『多文化世界』（岩波新書）
藤原帰一著『デモクラシーの帝国』（岩波新書）
ノーム・チョムスキー著『メディア・コントロール』（集英社新書）
梅棹忠夫著『文明の生態史観』（中公文庫）
森谷正規著『文明の技術史観』（中公新書）
サミュエル・ハンチントン著『文明の衝突』（集英社）
伊藤俊太郎『比較文明』（東京大学出版会）

は行

科目名　クラス　講義区分	
ビジネス英語　＜通期＞	
森　岡　裕　一	４単位

【講義概要】
英語テクストを通じて国際ビジネスの基礎をともに学びたい。海外投資、外国為替、生産とロジスティックス、マーケッティング、人的資源管理などグローバル時代のビジネス英語をカバーする予定である。くわえて、『ビジネス・ウイーク』の生の記事を適宜利用しながら、ホットな話題についてもふれていきたい。

【学習目標】
英語読解力の強化、とりわけ国際ビジネスに関する語彙力の強化をはかることが第一の目標である。さらに、国際ビジネスの基礎概念が習得できれば申し分ない。

【講義計画】
第１回　Globalization ①
第２回　Globalization ②
第３回　Differences in Culture ①
第４回　Differences in Culture ②
第５回　Ethics in International Business ①
第６回　Ethics in International Business ②
第７回　International Trade Theory ①
第８回　International Trade Theory ②
第９回　Instruments of Trade Policy ①
第10回　Instruments of Trade Policy ②
第11回　Foreign Direct Investment ①
第12回　Foreign Direct Investment ②
第13回　Economic Integration ①
第14回　Economic Integration ②
第15回　The Foreign Exchange Market ①
第16回　The Foreign Exchange Market ②
第17回　The Strategy of International Business ①
第18回　The Strategy of International Business ②
第19回　Organizational Structure and Strategy ①
第20回　Organizational Structure and Strategy ②
第21回　Basic Entry Decisions ①
第22回　Basic Entry Decisions ②
第23回　Exporting ①
第24回　Exporting ②
第25回　Strategy, Production and Logistics ①
第26回　Strategy, Production and Logistics ②
第27回　Global Marketing ①
第28回　Global Marketing ②

【成績評価の方法】
クラス討論貢献度：　50%　　レポート：　40%　　出席：　10%

【教科書】
Charles W. L. Hill International Business 英宝社

【備考】
＜02～07生＞は読替一覧参照の事。

科目名　クラス　講義区分	
ビジネス情報利用　01＜春＞	
榎　本　光　世	２単位

【講義概要】
ワープロや表計算ソフトを中心に実習形式で行う。

【学習目標】
本講では実習形式で行われ、初歩的なPCの扱い方のおさらいからはじめ、中級レベル程度のスキルを得ることを目指したい。具体的には次の通りである。

1. Internet Explorer、Word、Excel、PowerPointなどの代表的な事務ソフトの基本的な使用法を習得する。
2. 特に、Excelのより高度な使用法を習得することに重点をおいている。

【講義計画】
第１回　講義概要の説明
第２回　パソコンの仕組みとWindowsの使い方
第３回　インターネットの利用
第４回　Wordの基本（その１）
第５回　Wordの基本（その２）
第６回　Excelの基本（その１）
第７回　Excelの基本（その２）
第８回　PowerPointの基本
第９回　Excelの中級１（セルの選択、シート、グラフ）
第10回　Excelの中級２（グラフ、書式、スタイル）
第11回　Excelの中級３（印刷、データフォーム、転記、集計 ）
第12回　Excelの中級４（シミュレーション）
第13回　Excelの中級５（マクロとVBA　その１）
第14回　Excelの中級６（マクロとVBA　その２）
第15回　予備時間　（第１回～第15回までの内容は変更されることがある）

【成績評価の方法】
試験　０％　レポート　30%　出席　70%
試験の変わりにレポートの提出を課す予定。
出席率を重視する。ただし、いわゆる公欠の範囲を広く取り、サークルの大会や発表会などはもちろん、就職活動も予め連絡があったものに関してはこれに含める場合もある。

【教科書】
開講当初は本年度版の「ユーザーズガイド」を用いる。

【参考文献】
実習中に指示する。

科目名　クラス　講義区分	
ビジネス情報利用　02＜春＞	
榎　本　光　世	２単位

【講義概要】
ワープロや表計算ソフトを中心に実習形式で行う。

【学習目標】
本講では実習形式で行われ、初歩的なPCの扱い方のおさらいからはじめ、中級レベル程度のスキルを得ることを目指したい。具体的には次の通りである。

1. Internet Explorer、Word、Excel、PowerPointなどの代表的な事務ソフトの基本的な使用法を習得する。
2. 特に、Excelのより高度な使用法を習得することに重点をおいている。

【講義計画】
第１回　講義概要の説明
第２回　パソコンの仕組みとWindowsの使い方
第３回　インターネットの利用
第４回　Wordの基本（その１）
第５回　Wordの基本（その２）
第６回　Excelの基本（その１）
第７回　Excelの基本（その２）
第８回　PowerPointの基本
第９回　Excelの中級１（セルの選択、シート、グラフ）
第10回　Excelの中級２（グラフ、書式、スタイル）
第11回　Excelの中級３（印刷、データフォーム、転記、集計 ）
第12回　Excelの中級４（シミュレーション）
第13回　Excelの中級５（マクロとVBA　その１）
第14回　Excelの中級６（マクロとVBA　その２）
第15回　予備時間　（第１回～第15回までの内容は変更されることがある）

【成績評価の方法】
試験　０％　レポート　30%　出席　70%
試験の変わりにレポートの提出を課す予定。
出席率を重視する。ただし、いわゆる公欠の範囲を広く取り、サークルの大会や発表会などはもちろん、就職活動も予め連絡があったものに関してはこれに含める場合もある。

【教科書】
開講当初は本年度版の「ユーザーズガイド」を用いる。

【参考文献】
実習中に指示する。

科目名　クラス　講義区分	
ビジネス情報利用　03＜春＞	
大　嶋　耕　一	２単位

【講義概要】
コンピュータは今では学習・研究、仕事、趣味といった、いろいろな局面での道具になっている。この授業では、これらの局面でコンピュータを道具として使いこなすための基本的なスキルを学ぶことを目的とする。
内容としては、情報の収集（インターネットのWWW、E-mail）、データの加工・分析（表計算ソフト）、情報の表現・発信（ワープロソフト、E-mail）という、情報処理の基本要素全般を取りあげる。
なお、この授業では、基本的なデータ処理を演習形式で学ぶ中で、コンピュータの仕組みやデータ処理の理論的な事柄を学べるよう工夫している。

【学習目標】
コンピュータの初心者を対象に、データ入力、ファイル管理、E-mailの活用、ワープロ、表計算、異なるアプリケーション間のデータの互換について、基本的な事柄を学習する。
進度の速い学生や、すでに基本を習得している学生に対しては、学生個々の学習履歴に応じて、内容の深度についてアレンジができるように配慮し、学生それぞれのニーズに応じてより深く学べるようにし、最終的にはデータを自在に扱うことができることを目標とする。

【講義計画】
第１回　ガイダンス、コンピュータのハードウェア、Windowsの基本操作（その１）
第２回　Windowsの基本操作（その２）、キーボードの操作（英字・数字・記号）
第３回　キーボードの操作（英字・数字・記号）、クリップボードを利用したコピー・貼り付け
第４回　ワープロによる文書作成（その１）：文書作成の基礎知識
第５回　ワープロによる文書作成（その２）：文書編集の基礎知識
第６回　ネットワークの利用（１）（LANとインターネット）
第７回　進度調整、総合演習
第８回　ネットワークの利用（２）（WWWとE-mail）
第９回　表計算ソフトの活用（１）
第10回　表計算ソフトの活用（２）
第11回　クリップボードとデータ形式（クリップボードの活用）
第12回　インターネット情報の扱い方
第13回　総合演習
第14回　総合演習

【成績評価の方法】
レポート　70%　出席　30%
毎回複数の提出物（レポート）を課します（試験は実施しません）。

【教科書】
テキストは使用せず、毎回必要なプリントを配布します。

【参考文献】
市販の入門書等を参照してください。その他参考文献は、授業の中で適宜紹介します。

科目名　クラス　講義区分	
ビジネス情報利用　04＜春＞	
大　嶋　耕　一	2単位

【講義概要】

コンピュータは今では学習・研究、仕事、趣味といった、いろいろな局面での道具になっている。この授業では、これらの局面でコンピュータを道具として使いこなすための基本的なスキルを学ぶことを目的とする。

内容としては、情報の収集（インターネットのWWW、E-mail）、データの加工・分析（表計算ソフト）、情報の表現・発信（ワープロソフト、E-mail）という、情報処理の基本要素全般を取りあげる。

なお、この授業では、基本的なデータ処理を演習形式で学ぶ中で、コンピュータの仕組みやデータ処理の理論的な事柄を学べるよう工夫している。

【学習目標】

コンピュータの初心者を対象に、データ入力、ファイル管理、E-mailの活用、ワープロ、表計算、異なるアプリケーション間のデータの互換について、基本的な事柄を学習する。

進度の速い学生や、すでに基本を習得している学生に対しては、学生個々の学習履歴に応じて、内容の深度についてアレンジができるように配慮し、学生それぞれのニーズに応じてより深く学べるようにし、最終的にはデータを自在に扱うことができることを目標とする。

【講義計画】

第１回　ガイダンス、コンピュータのハードウェア、Windowsの基本操作（その１）
第２回　Windowsの基本操作（その２）、キーボードの操作（英字・数字・記号）
第３回　キーボードの操作（英字・数字・記号）、クリップボードを利用したコピー・貼り付け
第４回　ワープロによる文書作成（その１）：文書作成の基礎知識
第５回　ワープロによる文書作成（その２）：文書編集の基礎知識
第６回　ネットワークの利用(１)(LANとインターネット)
第７回　進度調整、総合演習
第８回　ネットワークの利用(２)(WWWとE-mail)
第９回　表計算ソフトの活用(１)
第10回　表計算ソフトの活用(２)
第11回　クリップボードとデータ形式（クリップボードの活用）
第12回　インターネット情報の扱い方
第13回　総合演習
第14回　総合演習

【成績評価の方法】

レポート　70%　出席　30%
毎回複数の提出物（レポート）を課します（試験は実施しません）。

【教科書】

テキストは使用せず、毎回必要なプリントを配布します。

【参考文献】

市販の入門書等を参照してください。その他参考文献は、授業の中で適宜紹介します。

科目名　クラス　講義区分	
福祉科教育法　＜通期＞	
林　　陸　雄	4単位

【講義概要】

福祉科の教育目標、教育内容、教育指導法等について系統的に理解するとともに、実際の授業に必要な指導計画、教材研究、授業設計、評価、改善等についての理論と技法を修得する。

授業方法は、講義、演習、模擬授業等を組み合わせて展開する。

【学習目標】

福祉科または総合選択科における福祉科目の授業を担当しうるための基本的な理論と技法について学習する。

【講義計画】

第１回　授業開き：学習目標、概要、評価等について説明
第２回　教科「福祉」の創設と意義
第３回　教科「福祉」の位置づけ
第４回　「福祉」の教科構造
第５回　学習指導要領の解説１
第６回　学習指導要領の解説２
第７回　教育課程の編成
第８回　福祉科の構成
第９回　福祉科の教育課程
第10回　学習指導の形態
第11回　学習指導と能力育成
第12回　教育計画の作成１
第13回　教育計画の作成２
第14回　福祉科授業の実際例１
第15回　福祉科授業の実際例２
第16回　学習教材の研究１
第17回　学習教材の研究２
第18回　学習教材の研究３
第19回　学習教材の研究４
第20回　学習資料の活用
第21回　学習指導と評価
第22回　福祉科授業の理念と授業方法
第23回　模擬授業１
第24回　模擬授業２
第25回　模擬授業３
第26回　模擬授業４
第27回　模擬授業５
第28回　福祉科の教育実習
第29回　福祉科教諭の資質
第30回　まとめ

【成績評価の方法】

試験　60%　レポート　20%　出席　20%

【教科書】

硯川眞旬・佐藤豊道・柿本誠『福祉科教育法』ミネルヴァ書房

【参考文献】

矢幅清司・細江容子編著『改訂高等学校学習指導要領の展開・「福祉」編』
明治図書

科目名　クラス　講義区分	
福祉事情研究　＜通期＞	
梓　川　　一	4単位

【講義概要】
社会福祉に関わる事情に限らず、広く関連領域からもテーマ・内容を拾いながら、人間・社会・それら関係性に対して、マクロ・ミクロの両視点から考察をする。また人間・社会に関する通年の各講義テーマにおいては、ストーリー性を大切にして展開する。

【学習目標】
生きることを感じる講義、考える講義を目指す。討論、事例検討、ロールプレイなどを取り入れ、主体的に参加できる環境作りをする。

【講義計画】
第１回　講義のあり方、福祉事情研究が求めるものとは？　生きることの意味の追究
第２回　自己決定の考察（概念の把握、社会の環境と事情、人間について）
第３回　自己決定の考察（事例検討：福祉現場、医療看護現場の事情）
第４回　自己決定の考察（事例検討：尊厳死、安楽死、自殺、臓器移植）
第５回　自己決定の考察（理論検証：私的所有、自己責任、社会と個人）
第６回　優生思想（優生思想とは、歴史的背景事情の検証、優生保護法と母体保護法）
第７回　優生思想（重度障害者・ハンセン病者の生活史、中絶について）
第８回　障害をもつこと（障害者の生活と心、障害児の母親の語り、気づきと質的変容）
第９回　障害をもつこと（社会環境と個人の生活、セルフヘルプ）
第10回　障害をもつこと（当事者から学ぶ、人間の理解、人権擁護・社会改良）
第11回　難病をもつこと（難病・難病者の生活理解、ハンチントン患者と家族の苦悩）
第12回　難病をもつこと（難病者の生活史と語り）
第13回　価値観の変容（人間の内面、語りの意味、聴くことの力）
第14回　質的研究の意義（主観性と客観性、人生経験の意味、ナラティブアプローチ）
第15回　前期まとめ・振り返り、前期末テスト
第16回　犯罪と社会福祉（犯罪事情、当事者の生活史（育ち・家庭）と社会環境）
第17回　犯罪と社会福祉（社会福祉的視点、更正教育、死刑の賛否、裁判員制度）
第18回　偏見と差別（歴史的変遷・貧困者への差別観、社会構造にみる功利主義思想）
第19回　偏見と差別（差別の構造、偏見の本質）
第20回　偏見と差別（援助者の優越感とその危険性、援助者の差別観と自己覚知）
第21回　偏見と差別（差別・偏見にみる援助の本質）
第22回　死の準備教育（日本人の死生観、死の準備教育とは、死の意味・生きる意味、死が教えてくれるもの）
第23回　死の準備教育（癌患者・家族の語り、死の受容プロセス、告知の賛否、尊厳ある死、ホスピスケア・家族のケア）
第24回　死の準備教育（社会福祉と死、遺書を書く意味、自らの死の想像）
第25回　ソーシャルワーク実践（医療現場におけるロールプレイ、いい医者とは？）
第26回　ソーシャルワーク実践（沈黙の意味）
第27回　ソーシャルワーク実践（あなたと私の関係性：開かれた会話（事例検討）
第28回　ソーシャルワーク実践（あなたと私の関係性：信頼関係（事例検討））
第29回　人間と自然環境（自然環境教育からの考察）
第30回　後期のまとめ・ふりかえり、後期末テスト

【成績評価の方法】
２回の学期末試験70%、出席・姿勢30%

【参考文献】
野口裕二『物語としてのケア』医学書院、2002年。
柳田邦男『死の医学への序章』新潮社、1986年。

【備考】
テキストは使用しない。随時、コピーを配布する。

科目名　クラス　講義区分	
福祉職入門　＜秋＞	
黒　田　隆　之	2単位

【講義概要】
就職先としての福祉現場を理解し、大学での勉強の目標を定めるために、現場で働く人に交代で来てもらい、実際の現場での話を聞き、みんなでその仕事について議論します。

【学習目標】
自分の将来の就職先を決め、そのために学生時代に何をしておかなければならないかという学習目標を決める。多様な福祉現場で働く、多様な人の話を聞き、なぜ彼らが福祉を仕事としており、そこに喜びや生きがいを感じているのかを知る。

【講義計画】
第１回　福祉の仕事
第２回　福祉の職業と就職状況
第３回　高齢者の施設
第４回　高齢者の地域福祉
第５回　障害者の施設
第６回　障害者の地域生活
第７回　児童養護施設
第８回　社会福祉協議会
第９回　NPO/NGO
第10回　精神保健福祉
第11回　医療福祉
第12回　障害者自立生活センター
第13回　公務員
第14回　その他の仕事とその他の進路

【成績評価の方法】
レポート　50%　出席　50%

【教科書】
毎回講師から資料配布

【備考】
＜08～09生＞のみ履修可
インテグレーション科目

科目名　クラス　講義区分	
福祉レクリエーション援助技術　＜通期＞	
奥　野　孝　昭	２単位

【講義概要】
すべての人々が生き生きと豊かに生活を過ごすために、レクリエーションの重要性が叫ばれています。
「福祉レクリエーション援助論」で学んだ事を幅広く体験的に学習します。

【学習目標】
「福祉レクリエーション援助論」と連動し、学習した理論を実際に体験することで、身につける事を学習目標とします。

【講義計画】
第１回　オリエンテーション（授業の目的・内容・進め方・評価方法等の説明）
第２回　福祉レクリエーション援助のための対人援助技術①
第３回　福祉レクリエーション援助のための対人援助技術②
第４回　福祉レクリエーション援助のための対人援助技術③
第５回　福祉レクリエーション援助のための対人援助技術④
第６回　福祉レクリエーション援助のための対人援助技術⑤
第７回　福祉レクリエーション援助のための対人援助技術⑥
第８回　福祉レクリエーション援助の実際①
第９回　福祉レクリエーション援助の実際②
第10回　福祉レクリエーション援助の実際③
第11回　福祉レクリエーション援助の実際④
第12回　福祉レクリエーション援助の実際⑤
第13回　福祉レクリエーション援助の実際⑥
第14回　福祉レクリエーション援助の実際⑦
第15回　筆記テスト
第16回　福祉レクリエーション援助のための計画①
第17回　福祉レクリエーション援助のための計画②
第18回　福祉レクリエーション援助の発表①
第19回　福祉レクリエーション援助の発表②
第20回　福祉レクリエーション援助の発表③
第21回　福祉レクリエーション援助の発表④
第22回　福祉レクリエーション援助の発表⑤
第23回　福祉レクリエーション援助の発表⑥
第24回　福祉レクリエーション援助の発表⑦
第25回　福祉レクリエーション援助の発表⑧
第26回　福祉レクリエーション援助の発表⑨
第27回　福祉レクリエーション援助の発表⑩
第28回　福祉レクリエーション援助の発表の評価
第29回　まとめ
第30回　筆記テスト

【成績評価の方法】
試験　50%　レポート　40%　出席　10%
大まかな基準は上記に示した通りであるが、積極的に授業に臨む真摯な授業態度も加味し、総合的に評価します。

【教科書】
浮田千枝子他 福祉レクリエーション援助の実際 中央法規出版

【参考文献】
福祉レクリエーション総論（中央法規出版）
福祉レクリエーション援助の方法（中央法規出版）

【備考】
＜08生＞のみ履修可

科目名　クラス　講義区分	
福祉レクリエーション援助論　＜春＞	
奥　野　孝　昭	２単位

【講義概要】
すべての人々が生き生きと豊かに生活を過ごすために、レクリエーションの重要性が叫ばれています。
この講義では、高齢者及び障がい者のための福祉レクリエーション援助技術方法を学習します。
主として、集団を介した援助法及び個人への直接の援助法を具体的に理論的に学びます。

【学習目標】
「福祉レクリエーション援助技術」と連動し、必要な理論を身につけることを学習目標とします。

【講義計画】
第１回　オリエンテーション（授業の目的・内容・進め方・評価方法等の説明）
第２回　レクリエーションの基本的理解①
第３回　レクリエーションの基本的理解②
第４回　福祉レクリエーション援助のプロセス①
第５回　福祉レクリエーション援助のプロセス②
第６回　福祉レクリエーション援助のための技術と方法①
第７回　福祉レクリエーション援助のための技術と方法②
第８回　福祉レクリエーション援助のための技術と方法③
第９回　福祉レクリエーション援助のための技術と方法④
第10回　医療現場におけるレクリエーション援助の考え方と方法
第11回　福祉レクリエーション援助のためのレクリエーション財の開発とアレンジ①
第12回　福祉レクリエーション援助のためのレクリエーション財の開発とアレンジ②
第13回　福祉レクリエーション援助のためのレクリエーション財の開発とアレンジ③
第14回　福祉レクリエーション援助のためのレクリエーション財の開発とアレンジ④
第15回　筆記テスト

【成績評価の方法】
試験　50%　レポート　40%　出席　10%
大まかな基準は上記の通りであるが、講義に臨む主体的な態度、前向きに努力する姿勢を重視し、総合的に評価します。

【教科書】
千葉和夫他 福祉レクリエーション援助の方法 中央法規出版

【参考文献】
福祉レクリエーション総論（中央法規出版）
福祉レクリエーション援助の実際（中央法規出版）

【備考】
＜08生＞のみ履修可

科目名　クラス　講義区分	
福祉レクリエーション論　＜春＞	
竹　内　靖　子	２単位

【講義概要】
福祉レクリエーションは、様々なレクリエーション活動やレジャー経験を通し、すべての人々が身体的・知的・情緒的・社会的・スピリチュアルな面でより健康でいきいき生活を目指すことです。さらに、福祉レクリエーション活動援助は福祉現場において個々の違いをいかし、自然な形で共生できる方法として注目されています。まずは日本の社会福祉分野における福祉レクリエーションの現状と未来について考え、実践にいかします。（福祉レク活動に参加する意欲または興味のある学生の受講をもとめます。）

【学習目標】
社会福祉分野の福祉レクリエーション活動援助者に必要な基本知識を理解し実践にいかす。
社会福祉と福祉レクリエーションの関係や、レクリエーション活動やそのプロセスが個々の生活を豊かにすることを理解する。

【講義計画】
第１回　オリエンテーション（授業概要・アンケート（福祉レクのイメージ）等）
第２回　福祉レクリエーションの考え方
第３回　福祉レクリエーション援助者の基本スタンス
第４回　戦後の社会福祉分野におけるレクリエーションの歩み
第５回　福祉レクリエーションに関わる法体系と行政施策
第６回　福祉レクリエーションと生活の質
第７回　福祉レクリエーションの内容
第８回　福祉レクリエーション分野の概観
第９回　福祉レクリエーション援助とは何か
第10回　福祉レクリエーション援助の全体像
第11回　福祉レクリエーション援助の実際
第12回　諸外国における福祉レクリエーション
第13回　福祉レクリエーション研究例
第14回　まとめ（試験）

【成績評価の方法】
平常点（出席・受講態度）・制作物・筆記試験・発表点

【教科書】
（財）日本レクリエーション協会監修　福祉レクリエーションシリーズⅠ福祉レクリエーション総論　中央法規出版

【参考文献】
必要に応じて紹介または資料を配布する

【備考】
＜08生＞のみ履修可

科目名　クラス　講義区分	
フランス語Ⅰａ　01＜春＞ フランス語Ⅰａ　02＜春＞	
横　道　朝　子 Annie Yamasaki	１単位

【講義概要】
会話的スケッチを読みながら、正しい発音、文法、動詞活用などに注意しながら、今の、生きた正しい口語表現を学習します。
さらに簡単な構文を用い、実用的表現も、知的な内容のある表現もできるように、口頭や筆記による練習を積極的に行います。

【学習目標】
会話表現として、絶対必要な文法を最低限学習します。とくに、動詞の現在形と、それを中心としたフレーズの色々なパターンを用いて、様々な有用な日常表現が可能であることが、分かるばかりでなく、発信できる授業をします。毎回の小テストはスケッチ文の一部と動詞活用の暗記が中心です。会話の練習法も、教師からのフランス語による質問に学生がフランス語で答えるという一方通行ではなく、学生の方からも用意してきたことをフランス語で質問し、教師もフランス語でこたえる、という相互形式で授業をすすめます。

【講義計画】
第１回　plan de classe
　　présentation du cours
第２回　texte 1 "A Cannes 1"
　　現在形肯定形と否定形 être s'appeler
　　発音
第３回　texte 2 "A Cannes 2"
　　現在形肯定形と否定形 être avoir parler manger
　　冠詞をとらない名詞
第４回　texte 3 "Au Salon de l'Auto"
　　現在形 aimer apporter aller venir
　　定冠詞　代名詞
第５回　texte 4 "Au bar"
　　現在形 habiter voyager se coucher s'intéresser
　　不定冠詞　代名詞
第６回　texte 5 "j'ai rendez-vous"
　　現在形 arriver téléphoner utiliser finir choisir réussir
　　部分冠詞　代名詞
第７回　texte 6 "On visite l'appartement"
　　現在形 entrer rentrer rester présenter regarder travailler
　　名詞と形容詞の複数
第８回　texte 7 "Les hommes sont difficiles"
　　現在形 écouter choisir boire savoir
　　複合過去（avoir）écouter choisir
　　基数un deux trois
第９回　texte 8 "Deux chambres pour une personne"
　　現在形 faire prendre attendre répondre
　　複合過去（être）aller se coucher
　　時間の表現
第10回　texte 9 "Une cliente difficile"
　　現在形と複合過去 demander acheter payer se lever
　　曜日 月 日付け
　　お金
第11回　révision 1 2 3
第12回　révision 4 5 6
第13回　révision 7 8 9
第14回　test écrit

【成績評価の方法】
出席、平常点と期末試験で評価します。
毎回小テストや小レポートを行います。

【教科書】
Annie Yamasaki Vies Paralleles（1～9）
プリントを使用します。

【参考文献】
電子辞書の場合は、「クラウン仏和」「コンサイズ和仏」があるものを薦めます。
しかし、実力をつけるためには、紙の辞書の方ガベター。

【備考】
授業計画は変更することがあります。

科目名　クラス　講義区分	
フランス語Ｉｂ　01＜春＞	
Eddy Louis　Van Drom	１単位

【講義概要】
最も大切なのはクラスの人たちと実際にコミュニケーション活動をすることです。たくさんの異なる相手と共同作業をすることのよって、さまざまなコミュニケーションの状況に対応する訓練ができます。
ことばがつかえるようになるためには、どんどん使ってみることが一番です。今年の教科書ではたくさんのフランス語に接し、たくさん話したり書いたりします。
これから、フランス語に時間とエネルギーを投入する以上は、使えるフランス語を身につけようではありませんか。積極的に参加して、授業時間を最大限に活用しましょう。自分から進んで、楽しんですることほど、身につきやすいものです。気楽に、愉快にやってください。

【学習目標】
フランス語でコミュニケーション能力を身につける、それも聞く・話す・読む・書くのすべての面にわたる力を養う、これが授業の目標です。

【講義計画】
第１回　Leçon １ 道で
第２回　Leçon １ 道で（suite et fin）
第３回　Leçon ２ カフェで
第４回　Leçon ２ カフェで　（suite et fin）
第５回　Leçon ３ 駅で
第６回　Leçon ３ 駅で　（suite et fin）
第７回　Leçon ４ 映画で
第８回　Leçon ４ 映画で　（suite et fin）
第９回　Leçon ５ 大学の食堂で
第10回　Leçon ５ 大学の食堂で　（suite et fin）
第11回　Leçon ６ カフェテリアで
第12回　Leçon ６ カフェテリアで　（suite et fin）
第13回　Leçon ７ 夕食
第14回　Leçon ７ 夕食　（suite et fin）
第15回　Leçon ８ 地下鉄で

【成績評価の方法】
１．　評価方法は、試験（１/３）及び　出席／平常点　（１/３）の総合評価とする
２．　小テストの成績を総合的に評価する（１/３）

【教科書】
Numata/Matsumura/Yonetani/Van Drom Le francais au quotidien ASAHI　(2009)

【参考文献】
例えば
１．　Dictionnaire de Poche Francais-Japonais/Japonais-Francais ROYAL - OBUNSHA
２．　Le Dico 現代フランス語辞典（白水社）
など

科目名　クラス　講義区分	
フランス語Ｉｂ　02＜春＞	
本　多　雄一郎	１単位

【講義概要】
この授業では、フランス語の「話す」「聞く」「読む」というすべての面に重点をおきながら、ヴィデオ教材を併用して口頭による会話表現の訓練や読解の練習を行いつつ、フランス語の基本文法を学習する。

【学習目標】
どのような言葉を学ぶ時も実際に使うことが大切ですから、教室でも自分の立場をフランス語で表現することを常にこころがけていきましょう。そして文法の項目も必ず会話表現を通して学習しながらフランス語の基本的な運用力を身に着けましょう。

【講義計画】
第１回　授業の説明とフランス語のアルファベと発音の特徴
第２回　フランス語の綴り字の読み方
第３回　フランス語の単語や挨拶の発音練習
第４回　自分の名前・国籍を言う
第５回　自分の身分を言う
第６回　第一群規則動詞（自分の住所や学科を言う）
第７回　第一群規則動詞（自分の趣味を言う）
第８回　avoir動詞（自分の家族を言う）
第９回　否定文
第10回　部分冠詞（食べる、飲む）
第11回　たずねる（何？）
第12回　形容詞（人や物の描写）
第13回　たずねる（誰？）
第14回　数詞（いくら？）
第15回　春学期の総括

【成績評価の方法】
試験　50%　出席　50%
定期試験と小テスト、平常点（暗唱や授業中の発表）で総合評価する。

【教科書】
田辺保子 やさしいサリュ 駿河台出版社

【参考文献】
『クラウン仏和辞典』三省堂、もしくは電子辞書

科目名　クラス　講義区分	
フランス語Ⅱa　01＜秋＞ フランス語Ⅱa　02＜秋＞	
横　道　朝　子 Annie Yamasaki	1単位

【講義概要】
会話的スケッチを読みながら、正しい発音、文法、動詞活用などに注意しながら、今の、生きた正しい口語表現を学習します。
さらに簡単な構文を用い、実用的表現も、知的な内容のある表現もできるように、口頭や筆記による練習を積極的に行います。

【学習目標】
会話表現として、絶対必要な文法を最低限学習します。とくに、動詞の現在形と、それを中心としたフレーズの色々なパターンを用いて、様々な有用な日常表現が可能であることが、分かるばかりでなく、発信できる授業をします。毎回の小テストはスケッチ文の一部と動詞活用の暗記が中心です。会話の練習法も、教師からのフランス語による質問に学生がフランス語で答えるという一方通行ではなく、学生の方からも用意してきたことをフランス語で質問し、教師もフランス語でこたえる、という相互形式で授業をすすめます。

【講義計画】
第1回　présentation du cours
　　plan de classe
第2回　texte10　"Vive la liberté"
　　現在形vouloir pouvoir voir
　　複合過去の不規則過去分詞
　　過去分詞の一致
　　複合過去を用いる表現
　　時間に関する質問と表現
第3回　texte11　"l'heure, c'est l'heure"
　　現在形chercher finir savoir partir
　　近接未来
　　その用法
　　指示形容詞
　　序列数形容詞とその用現
第4回　texte12　"Deux allers"
　　現在形prendre sortir obtenir
　　近接過去　その用法
　　所有形容
　　êtreとavoirを用いる表現
第5回　texte13　"C'est un voyage d'affaires?"
　　現在形 apprendre comprendre suivre vivre
　　使役　その用法
　　疑問詞　その用法
第6回　texte14　"C'est pour une enquête"
　　現在形inviter dire lire connaître
　　受け身　その用法
　　前置詞＋名詞
第7回　texte15　"Mettez-vous d'accord!"
　　現在形se dépêcher se préparer　pouvoir devoir
　　進行形　その用法
　　前置詞＋不定詞
第8回　texte16　"J'ai une bonne nouvelle!"
　　現在形se marier　se rappeler mettre transmettre
　　現在分詞
　　人称代名 詞主語と直接補語
第9回　texte17　"Voilà votre clé"
　　現在形donner réserver remplir servir
　　命令法
　　人称代名詞　間接補語
第10回　texte18　"je cherche un logement"
　　現在形復習proposer oublier trouver
　　複合過去の不規則過去分詞復習
　　人称代名詞　強調　属詞　前置詞のあと　命令法のあと
第11回　révision 10-11-12
第12回　révision 13-14-15
第13回　révision 16-17-18
第14回　test écrit

【成績評価の方法】
出席、平常点と期末試験で評価します。
毎回小テストや小レポートを行います。

【教科書】
Annie Yamasaki Vies Paralleles (10～18)
プリントを使用します。

【参考文献】
電子辞書の場合は、「クラウン仏和」「コンサイズ和仏」があるものを薦めます。
しかし、実力をつけるためには、紙の辞書の方ガベター。

【備考】
授業計画は変更することがあります。

科目名　クラス　講義区分	
フランス語Ⅱｂ　01＜秋＞	
Eddy Louis　Van Drom	1単位

【講義概要】
最も大切なのはクラスの人たちと実際にコミュニケーション活動をすることです。たくさんの異なる相手と共同作業をすることのよって、さまざまなコミュニケーションの状況に対応する訓練ができます。
ことばがつかえるようになるためには、どんどん使ってみることが一番です。今年の教科書ではたくさんのフランス語に接し、たくさん話したり書いたりします。
これから、フランス語に時間とエネルギーを投入する以上は、使えるフランス語を身につけようではありませんか。積極的に参加して、授業時間を最大限に活用しましょう。自分から進んで、楽しんですることほど、身につきやすいものです。気楽に、愉快にやってください。

【学習目標】
フランス語でコミュニケーション能力を身につける、それも聞く・話す・読む・書くのすべての面にわたる力を養う、これが授業の目標です。

【講義計画】
第１回　Leçon 8 地下鉄で　(suite et fin)
第２回　Leçon 9 キャンパスで
第３回　Leçon 9 キャンパスで (suite et fin)
第４回　Leçon 10 授業の間で
第５回　Leçon 10 授業の間で (suite et fin)
第６回　Leçon 11 道で
第７回　Leçon 11 道で (suite et fin)
第８回　Leçon 12 電話で
第９回　Leçon 12 電話で (suite et fin)
第10回　Leçon 13 旅行代理で
第11回　Leçon 13 旅行代理で (suite et fin)
第12回　Leçon 14 ローランの場所で
第13回　Leçon 14 ローランの場所で (suite et fin)
第14回　復習
第15回　復習

【成績評価の方法】
１．　評価方法は、試験（１/３）及び　出席／平常点　（１/３）の総合評価とする
２．　小テストの成績を総合的に評価する（１/３）

【教科書】
Numata/Matsumura/Yonetani/Van Drom Le francais au quotidien ASAHI　(2009)

【参考文献】
例えば
１．　Dictionnaire de Poche Francais-Japonais/Japonais-Francais ROYAL - OBUNSHA
２．　Le Dico 現代フランス語辞典（白水社）
など

科目名　クラス　講義区分	
フランス語Ⅱｂ　02＜秋＞	
本　多　雄一郎	1単位

【講義概要】
春に続いて、フランス語の「話す」「聞く」「読む」というすべての面に重点をおきながら、ヴィデオ教材を併用して口頭による会話表現の訓練や読解の練習を行いつつ、フランス語の基本文法を学習する。

【学習目標】
どのような言葉を学ぶ時も実際に使うことが大切ですから、教室でも自分の立場をフランス語で表現することを常にこころがけていきましょう。そして文法の項目も必ず会話表現を通して学習しながらフランス語の基本的な運用力を身に着けましょう。

【講義計画】
第１回　動詞aller（～に行く）
第２回　動詞venir（～から来る）
第３回　疑問文
第４回　時刻（日常生活の表現）
第５回　動詞faire（普段すること）
第６回　第二群規則動詞
第７回　近接未来（予定を言う）
第８回　近接過去（最近したことを言う）
第９回　動詞vouloir（願望を表現する）pouvoir（出来ることを言う）
第10回　代名動詞（日常の行動を言う）
第11回　天候の表現
第12回　疑問文（場所を尋ねる）
第13回　命令文（道案内）
第14回　義務の表現
第15回　秋学期の総括

【成績評価の方法】
試験　50%　出席　50%
定期試験と小テスト、平常点（暗唱や授業中の発表）で総合評価する。

【教科書】
田辺保子 やさしいサリュ 駿河台出版社

【参考文献】
『クラウン仏和辞典』三省堂、もしくは電子辞書

科目名　クラス　講義区分	
フランス語Ⅲa　01＜春＞ フランス語Ⅲa　02＜春＞	
横　道　朝　子 Annie Yamasaki	1単位

【講義概要】
勉強の仕方はフランス語I-IIと同じですが、普通のフランス人が、今読んでいる様々な書物や雑誌、新聞から色々なテーマの文章を集め、その内容を理解しながら、それに関して会話であつかえるように、フランス語の実力を養います。

【学習目標】
現代文を自由によめるだけでなく、こちらから発信できるために、普通の表現に必要な文法をさらに学びます。特に動詞活用は、一年次でマスターしたところの、現在形とそれを応用した基本的な、様々な表現法を復習し、さらに、標準的フランス語の読み書き、会話に必要で役立つ範囲をひろげて学習します。辞書は、常にクラスに持参すること。

【講義計画】
第1回　plan de classe
　　présentation du cours
第2回　texte 1 "L'alimentation"
　　直接法現在形　固定形と否定形（復習）être avoir penser obéir
　　命令法現在形（復習）
　　定冠詞　代名詞（復習）
第3回　texte 2 "Les proches"
　　直接法現在形 固定形と否定形（復習）se coucher aller venir faire
　　命令法現在形（復習）
　　不定冠詞　代名詞（復習）
第4回　texte 3 "La vie domestique"
　　複合過去　固定形と否定形（復習）penser obéir avoir être faire se coucher aller venir
　　部分冠詞　代名詞（復習）
第5回　texte 4 "Les loisirs"
　　近接過去（復習）arriver
　　近接未来（復習）téléphoner
　　進行形（復習）travailler
　　受け身（復習）connaître
　　使役（復習）chercher
　　冠詞をとらない名詞（復習）
　　指示形容詞（復習）指示代名詞
第6回　texte 5 "le travail"
　　現在形（復習）préparer savoir
　　現在分詞（復習）
　　現在分詞の複合形
　　所有形容詞（復習）所有代名詞
第7回　texte 6 "la santé"
　　現在形（復習）pouvoir vouloir devoir savoir
　　不定詞の用法
　　不定詞の複合系屠蘇の用法
第8回　texte 7 "Les transports"
　　現　在　形 préférer prendre pleuvoir neiger falloir paraître
　　半過去とその用法
　　人称代名詞（復習）
　　中性代名詞　主語 il　直接補語 le
第9回　texte 8 "La mode"
　　現在形　passer se promener recevoir
　　大過去とその用法
　　福祉的代名詞 en y
第10回　texte 9 "Le corps"
　　現在形　changer réfléchir courir acquérir
　　未来形　habiter vérifier se reposer finir
　　比較級と最上級
第11回　révision 1 2 3
第12回　révision 4 5 6
第13回　révision 7 8 9
第14回　test écrit

【成績評価の方法】
出席、平常点と期末試験で評価します。
毎回、小テストや小レポートを行います。

【教科書】
Annie Yamasaki Statistiques sur themes varies（1～9）
プリントを使用します。

【参考文献】
電子辞書の場合は、「クラウン仏和」「コンサイズ和仏」があるものを薦めます。
しかし、実力をつけるためには、紙の辞書の方ガベター。

【備考】
授業計画は変更することがあります。

は行

科目名　クラス　講義区分	
フランス語Ⅲｂ　01＜春＞	
Eddy Louis　Van Drom	１単位

【講義概要】
映画、ヴァカンス、買い物など身近なテーマに分けた会話を練習しながら、日本での自分の生活をフランス語で説明できるようにしたり、言葉を学びながらフランス人の生活ぶりをのぞいて、フランスの生活を体験できるようにします。
やさしいフランス語を実際の生活の場面に当てはめて練習しながら、自然に覚えていきます。笑いながら、楽しく、大きな声で、積極的に授業に参加して下さい。そうすれば心も身体もほぐれ、ストレスから解放されることでしょう。

【学習目標】
フランス語でコミュニケーション能力を身につける、それも聞く・話す・読む・書くのすべての面にわたる力を養う、これが授業の目標です。

【講義計画】
第１回　復習
第２回　授業の紹介
第３回　大学で（複合過去）
第４回　大学で（複合過去）(suite et fin)
第５回　カフェで（代名動詞）
第６回　カフェで（代名動詞）(suite et fin)
第７回　ホテルで（中性代名詞）
第８回　ホテルで（中性代名詞）(suite et fin)
第９回　招待された席で（単純未来）
第10回　招待された席で（単純未来）(suite et fin)
第11回　駅で（半過去）
第12回　駅で（半過去）(suite et fin)
第13回　はがき（関係代名詞）
第14回　はがき（関係代名詞）(suite et fin)
第15回　復習

【成績評価の方法】
１．　評価方法は、試験（１/３）及び　出席／平常点　（１/３）の総合評価とする
２．　小テストの成績を総合的に評価する（１/３）

【教科書】
Numata/Matsumura/Yonetani/Van Drom Le francais au quotidien 2 ASAHI　(2006)

【参考文献】
例えば
１．　Dictionnaire de Poche Francais-Japonais/Japonais-Francais ROYAL - OBUNSHA
２．　Le Dico 現代フランス語辞典（白水社）
など

科目名　クラス　講義区分	
フランス語Ⅲｂ　02＜春＞	
本　多　雄一郎	１単位

【講義概要】
フランス語の中級文法をテキストとヴィデオを併用しながら学習する。

【学習目標】
この授業では、フランス語の基本的な文法の続きを学ぶことで、フランス語の全体像を把握していくとともに、より広範な運用力を身につけることを目的とする。なお授業中の作業のために辞書を必ず携帯すること。

【講義計画】
第１回　授業の説明とこれまで習ったことの復習
第２回　単純未来（将来の事を言う）
第３回　代名動詞（一日の生活の表現）
第４回　複合過去(１)(過去の経験の表現)
第５回　複合過去(２)(過去の経験の表現)
第６回　代名動詞の複合過去（過去の生活の表現）
第７回　半過去と大過去（過去の状況や習慣の表現）
第８回　複合過去と半過去の関係
第９回　関係代名詞（人や物の詳しい表現）
第10回　命令形（人に依頼する）
第11回　序数（物の順序の表現）
第12回　現在分詞（現在分詞による人や物の描写）
第13回　ジェロンディフ（分詞構文の表現）
第14回　疑問代名詞（どれが良いか尋ねる）
第15回　春学期の総括

【成績評価の方法】
定期試験・小テストと平常点（暗唱や授業中の発表）で総合評価する。

【教科書】
藤田裕二 彼女は食いしん坊！２ 朝日出版社

【参考文献】
『クラウン仏和辞典』三省堂、もしくは電子辞書